統合報告書
2026

NSG GROUP

2026年3月期

日本板硝子株式会社



目次

NSGグループ概要

NSGグループ概要 …… 03
主要製造・研究拠点 …… 04
NSGグループの（戦略方針）体系 …… 05

ダイジェスト編

CEOメッセージ …… 06
中期経営計画とその進捗 …… 07
事業概要 …… 08
特集：
エンプロイヤーブランド …… 14
マテリアリティ …… 21

環境編

NSGグループのビジネスと環境 …… 27
▌気候変動
気候変動・TCFD …… 28
事業を通じた貢献
（サステナビリティと製品） …… 35
エネルギー …… 40
▌サーキュラーエコノミー（廃棄物） …… 48
▌自然資本
水 …… 51
自然との共生 …… 53

社会編

社会シフト・イノベーション(R＆D戦略) …… 55
人権の尊重 …… 61
健康と安全 …… 65
安全で高品質な製品とサービス …… 69
サプライヤー …… 71
倫理・コンプライアンス …… 78
ヒューマンキャピタル（人的資本） …… 83

ガバナンス編

コーポレート・ガバナンス …… 89
デジタルセーフティ …… 90

その他情報

財務ハイライト …… 91
非財務ハイライト …… 92
外部からの評価 …… 93
独立した第三者保証報告書 …… 95
沿革 …… 96

編集方針

NSGグループは2018年より統合報告書を発行しています。「統合報告書 2026」は当社の経営指針である「Our Vision」に基づき、お客様と社会が求める多種多様なニーズに対して当社が強みを持つ「ガラスとその周辺技術」に焦点を当てた価値やサービスを提供することにより、持続可能な社会の発展に向けた取り組みについてステークホルダーの皆様にお伝えするものです。2026年3月期版においては、NSGグループのサステナビリティ（ESG）に対する取り組みや貢献に加え、特集記事では当社グループの持続的成長の源泉となる人的資本経営を強化する取り組みについてお伝えすることを重視しました。詳細なデータは、当社ウェブサイトでもご覧いただけます。

報告対象範囲等

対象期間：2025年4月1日-2026年3月31日
※一部に2026年4月1日以降の活動内容を含む

対象組織：日本板硝子株式会社および連結子会社等

会計基準：別途記載が無い限り2011年3月期以降は
IFRS(国際会計基準)に準拠

本統合報告書の作成にあたっては、GRIスタンダードを参照しています。詳しくはwebサイト をご覧ください。

第三者保証

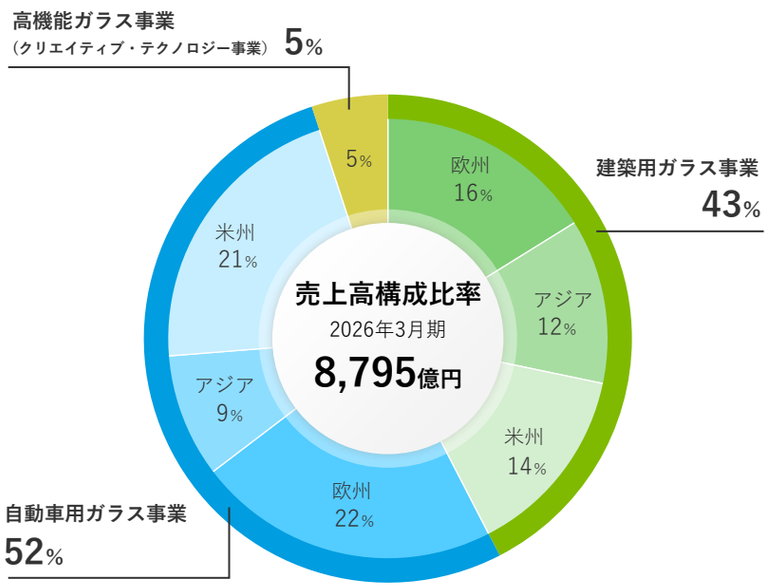
温室効果ガスの排出量（スコープ1、スコープ2、スコープ3）のデータについて、独立した第三者機関によるISO14064-3：2019に準拠した保証を受けています。詳細は95ページをご覧ください。

NSGグループ概要

建築用ガラス、自動車用ガラス、高機能ガラス(クリエイティブ・テクノロジー)の3事業をグローバルに展開。

世界最大級のガラスメーカーとして、日本をはじめ、欧州、北米、南米、アジアに主要製造拠点を擁し、世界100か国以上で製品を販売しています。

お客様と社会が求める多種多様なニーズに対して従来のガラスを超えるプラスアルファの価値やサービスを迅速かつ適切に提供することにより、持続的成長可能な社会の実現を目指しています。



建築用ガラス事業

建築用ガラスと薄膜太陽電池パネル用ガラスのリーディングサプライヤー

主要製品

1.建築(住宅・ビル)用ガラス
2.薄膜太陽電池パネル用ガラス

特長

- 世界に26のフロート窯
- オンラインコーティングガラスシェア1位

地域別売上高構成比



自動車用ガラス事業

世界最大級の自動車用ガラスメーカーとして新車用(OE)と補修用(AGR)を供給

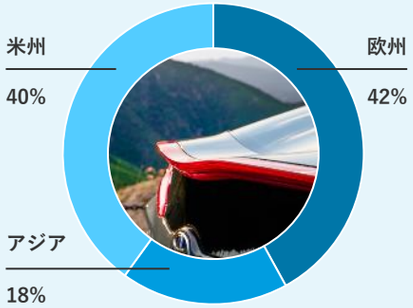
主要製品

1. 高機能(発熱・HUD・アンテナ・ADAS対応)ガラス
2. 快適性向上(紫/赤外線カット・遮熱・遮音)ガラス

特長

- 13カ国に主要製造拠点
- 世界の主要自動車メーカーに新車用ガラスを供給
- 補修用ガラスで世界最大

地域別売上高構成比



高機能ガラス事業
クリエイティブ・テクノロジー事業

顧客製品の進化に貢献するユニークな素材を開発・提供

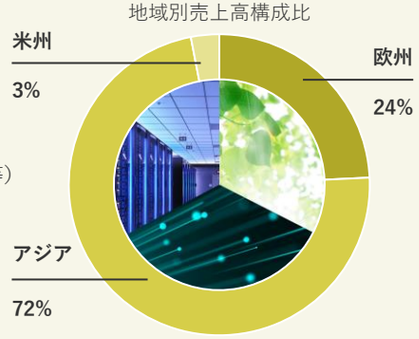
主要製品

1.光学製品(複合機用レンズ、カメラモジュール用途等)
2.ガラス繊維(自動車エンジン・産業機械用タイミングベルト部材等)
3.ガラスフレーク(化粧品、塗料向け光輝材・樹脂の補強用等)
4.超薄板ガラス(車載用ディスプレイカバーガラス、HDD基板用ガラス等)
5.クリスタルガラス(グラス、産業用瓶等)

特長

- 日本、中国、欧米に主要製造拠点
- 複数のシェア1位の製品を保有
- 幅広い産業・市場に展開

地域別売上高構成比

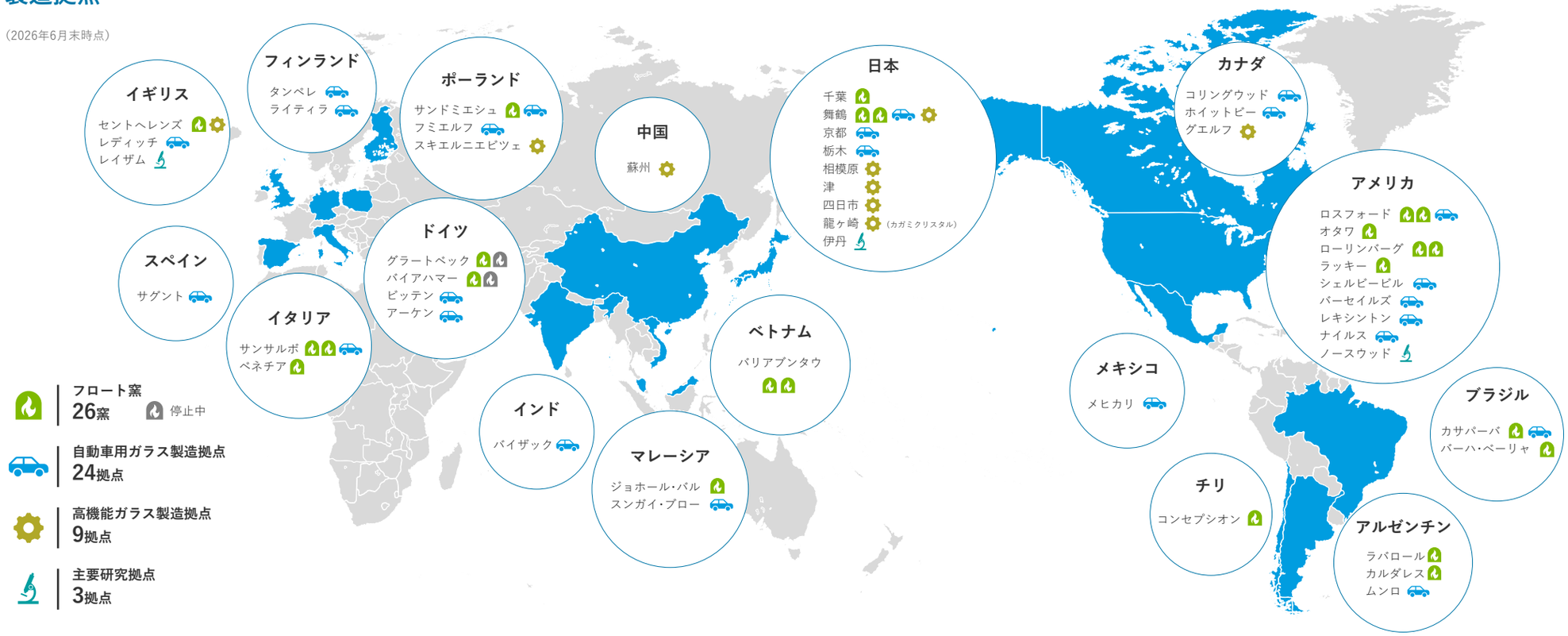


目次
▶NSGグループ概要
主要製造拠点
NSGグループの(戦略方針)体系
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

主要製造拠点

製造拠点

（2026年6月末時点）



フロート窯
26窯　停止中

自動車用ガラス製造拠点
24拠点

高機能ガラス製造拠点
9拠点

主要研究拠点
3拠点

数字で見るNSGグループ

売上高	営業利益	総資産	従業員数	フロート窯数	設立年	販売国数
8,795億円 （2026年3月期）	288億円 （2026年3月期）	11,175億円 （2026年3月期）	約24,800人 （2026年3月末）	26窯 （2026年3月末）	1918年	100か国以上

女性管理職比率	ガラス等無機材料研究への助成	オンラインコーティングガラスシェア	マルチファンクションプリンター用レンズ
18.0%（2024年12月末実績）➡ 18.2%（2025年12月末実績）	1,566件 （総額約19億円以上：2026年5月末累計）	1位 （10窓）	1位

目次
NSGグループ概要
▶ 主要製造拠点
NSGグループの（戦略方針）体系
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

NSGグループの(戦略方針)体系

Our Vision

詳細



使命

快適な生活空間の創造で、
よりよい世界を築く

目指す姿

先進の発想で変化を起こし、
すべての分野で
最も信頼されるパートナーとなる

コア・バリュー

- 人を尊重し、人を活かす
- 信用を重んじ、誠実に行動する
- 社会に役立つ
- 自ら考え行動する
- 失敗を恐れず挑戦する
- やり抜き結果を出す

重要課題（マテリアリティ）

詳細

中長期的な企業の持続的成長と持続的社会の実現への貢献を両立するための6つの項目

基本的な経営事項	健康と安全	倫理・コンプライアンス	安全で高品質な製品･サービス
競争力の源泉	環境	社会シフト･イノベーション	ヒューマンキャピタル

2030 Vision : Shift the Phase

「ガラスとその周辺技術」に焦点を当て、社会の持続可能な発展に貢献する高付加価値領域での収益拡大を目指す

NSGグループが目指す姿

ゴール　企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す

コミットメント
- 私たちは、すべてのステークホルダーのために、そしてステークホルダーとともに、持続可能な社会を実現する価値を創造する
- 私たちは、顧客のソリューションにおいて重要な役割を果たすガラスとその関連技術・サービスを開発し、提供する
- 私たちは、顧客の潜在的なニーズを深く理解し、有形無形の資産を活用して顧客に適したソリューションを提供する
- 私たちは、グローバルで多様性に富み、ガラスに情熱を持ち、才能あふれるチームを誇りとし、人材への投資を続けていく

環境

温室効果ガス排出量を最小限に抑える
事業を通じた貢献（サステナビリティと製品）で
脱炭素社会に寄与

社会

人材育成、DEI、健康・安全の推進により
会社の持続的成長と従業員の幸福を実現

ガバナンス

倫理・コンプライアンスの
一貫した取り組みを通した
企業価値の保持・向上

目次
NSGグループ概要
主要製造拠点
▶ NSGグループの（戦略方針）体系
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

CEOメッセージ

NSGグループは、お客様をはじめ、お取引先様、株主様、地域社会、そして従業員を含めたすべてのステークホルダーの皆様から永年支えられて参りました。

これまでのご支援に対してあらためて厚くお礼を申し上げます。

2026年3月24日に公表しました通り、NSGグループは、「新生NSGグループに向けた抜本的施策」に基づきアポロ・ファンドによる支援を受けながら資本の再構成を通じて持続的な成長の実現に向けて取り組むこととなりました。これにより日本板硝子株式会社は2026年9月28日をもって東京証券取引所プライム市場から上場廃止となりましたが、これまで実施してきた中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」によりNSGグループが目指す姿として「当社が強みを持つ『ガラスとその周辺技術』に焦点を当て、社会の持続可能な発展に貢献する高付加価値領域での収益拡大を目指す」こと、そのゴールとして「企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す」ことに変わりはありません。

またその達成を目指すために据えたNSGグループの戦略的な柱4つの「D」(Business Development、Decarbonization、Digital Transformation、Diverse Talent)も引き続き推進して参ります。

NSGグループは、今後も持続可能な社会の実現に貢献するため、サステナビリティ関連の活動を継続していきます。

そのサステナビリティ活動において、最も重要な課題は「脱炭素」です。私たちは、水素燃焼などの革新的な技術の開発により、ガラス製造工程から発生する温室効果ガスはもちろんのこと、ステークホルダーの皆様と共に、バリューチェーンから発生する温室効果ガスの大幅削減に取り組みます。また、高断熱ガラスや太陽光発電関連製品など、省エネルギーや再生可能エネルギーの普及に貢献する製品の提供を通じて、気候変動課題の解決に貢献します。

加えて、私たちは生物多様性の保全や水資源の持続的利用など、自然資本に関する課題にも取り組みます。気候変動や自然環境に関するリスクと機会を適切に把握し、国際的な枠組みも踏まえながら、透明性の高い情報開示に努めます。

NSGグループのコアバリューの1つである「人を尊重し、人を活かす」という理念のもと、人材育成やダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョンなど「人材」への投資も続けていきます。グループの事業に携わるすべての人の健康と安全は、私たちが事業を行ううえでの前提です。また、人権の尊重と責任ある調達を推進し、サプライチェーン全体で持続可能な価値創造に取り組みます。

私たちは、国連グローバル・コンパクトならびにSDGsの理念を支持します。私たちのサステナビリティ目標は、NSGグループの目指す姿とステークホルダーの皆様にとっての重要課題を踏まえて定められています。

これらのNSGグループのサステナビリティに対する取り組みについて取りまとめたものが、この統合報告書になります。

ステークホルダーの皆様におかれましては、この統合報告書をご一読のうえNSGグループをより一層ご理解いただき、引き続きご指導、ご鞭撻を賜ることができますと非常に幸いです。

代表取締役社長 兼 CEO (最高経営責任者)
細沼 宗浩



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
▶ CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

2030 Vision : Shift the Phase

当社が強みを持つ「ガラスとその周辺技術」に焦点を当て、社会の持続可能な発展に貢献する高付加価値領域での収益拡大を目指す

ゴール

企業としてのフェーズを変え、持続可能な社会の発展に不可欠な存在を目指す

コミットメント

- 私たちは、すべてのステークホルダーのために、そしてステークホルダーとともに、持続可能な社会を実現する価値を創造する
- 私たちは、顧客のソリューションにおいて重要な役割を果たすガラスとその関連技術・サービスを開発し、提供する
- 私たちは、顧客の潜在的なニーズを深く理解し、有形無形の資産を活用して顧客に適したソリューションを提供する
- 私たちは、グローバルで多様性に富み、ガラスに情熱を持ち、才能あふれるチームを誇りとし、人材への投資を続けていく

NSGグループ戦略方針 4つの「D」

新生NSGグループに向けた抜本的施策の下でも中期経営計画の4つの「D」に対するコミットメントは不変。リソースを柔軟に確保しつつ戦略の推進を継続。

2025年3月期および2026年3月期の主要な進捗

Business Development
新製品および事業開発の強化を図り、

- 米国オハイオ州ロスフォードの既存フロートラインの転換工事が完了、太陽電池パネル用ガラスの生産を開始
- ペロブスカイト太陽電池市場の開拓に向け、グループ横断の運営委員会を設置
- 省エネガラス向けコーティング設備投資が日本およびポーランドで順調に進捗
- 北米の自動車用ガラス事業でフロントガラスおよびルーフガラス用高精度合わせガラスの生産が拡大

Decarbonization
社会の脱炭素化への貢献を目指す

- 米国・オタワ事業所に太陽光発電システムを新設
- 英国・グリーンゲート事業所に移設した型板ガラス製造ラインが稼働、窯を2ラインで共用
- 日本において使用済太陽パネルのカバーガラスの水平リサイクルに成功
- 2026年3月期　CDP評価（「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」、気候変動「Aリスト」）

Digital Transformation
デジタルをフル活用した付加価値の高いオペレーションを構築し、

- 映像解析AIを活用した職場安全管理システムの導入がグローバル全体で進行

Diverse Talent
フェーズシフトをもたらす真に多様で包括的なチームを実現する

- 女性管理職比率は2025年3月期の18.0%から2026年3月期に18.2%に上昇
- 2026年3月期に従業員意識調査「Your Voice」の実施



千葉事業所(千葉県市原市)において、省エネガラス向けコーティング新設備の本格稼働に先立ち、安全祈願祭を実施
(2026年6月10日リリース)

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画
▶「2030 Vision : Shift the Phase」
事業概要
特集
エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

建築用ガラス事業

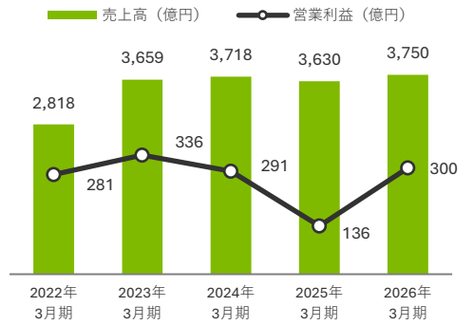
建築用ガラスと薄膜太陽電池パネル用ガラスの
リーディングサプライヤー





事業環境

足元は需要が弱めで推移する見通しですが、エネルギー効率改善のためのリノベーション需要は中長期的に拡大し、建築ガラス市場の成長を後押しすると想定しています。特に先進国ではカーボンニュートラルを目指した需要が堅調に拡大していくことが見込まれています。南米においても2030年前後で本格拡大が期待され、脱炭素ソリューションの提供能力の構築と市場におけるリーダーポジションの確保が重要になっていきます。また、太陽電池パネル用ガラスは再生可能エネルギーへの転換により引き続き需要も堅調に推移することが見込まれます。



事業戦略

脱炭素を中心に、持続可能性に貢献する建築用ガラスのリーディングサプライヤーを目指します。当社独自の先進的なコーティング技術を活用し、再生可能エネルギー等における顧客製品の性能実現に不可欠なキーコンポーネントの開発･供給パートナーになることを目指します。主な重点施策としては以下の通りです。

サステナビリティソリューション開発のためのケイパビリティ強化

- ガラスコーティング技術開発/設備への集中的投資
- 脱炭素だけでなく生物保護等も視野に入れた開発（例：AviSafe™等）

自社製品の脱炭素化

- Low carbon/No carbon燃料でのガラス製造技術確立と設備投資
- Lowカーボンガラスの市場投入(例：Mirai™等)

地域戦略の継続的見直し

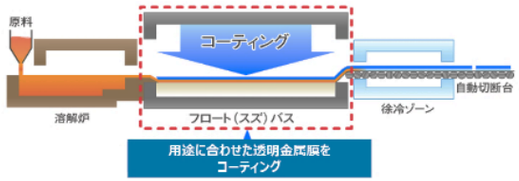
- 欧州域内における事業の選択と集中
- 東南アジアでの資源配分を見直し、ソーラー事業へ転換
- 中長期的に付加価値創出が見込める地域への展開

長期的に成長が見込まれる新技術の開発

- 多様な再生可能エネルギー産業の発展に貢献する技術
  ペロブスカイト太陽電池、色素増感太陽電池、建材一体型太陽光発電　等

当社の強み～オンラインコーティング（CVD）技術

ガラスの表面にコーティング加工を施すことにより、透明性を損なわず、可視光を透過しながら、従来のガラスよりも効率的に熱の出入りを抑制します。寒冷地で建物内からの熱を逃しにくくする断熱コーティングや、外からの日射熱を遮断し、冷房効率を向上させる遮熱コーティングなどがあり、これらのコーティングは、建物全体のエネルギー効率だけでなく、室内の快適性を高める上で重要な役割を担っています。



ガラスの表面にコーティングを施す当社の独自技術として、オンラインCVD(化学気相成長法)があります。これはフロートガラスの製造プロセスに、オンラインコーティングを組み込んだものです。全世界でオンラインコーター付きのフロート窯を10窯(アメリカ5窯、イギリス1窯、ドイツ1窯、ベトナム2窯、マレーシア1窯)保有しています。溶解炉から出てくるガラスが持つ熱エネルギーを利用する化学反応により、ガラス表面に強固な膜を形成します。ガラスの製造工程で成膜されるため省エネルギーかつ量産性に優れ、また、膜の耐久性が強いことから二次加工も可能です。

これらの技術を活用することで、透明導電膜付きガラス(NSG TEC™)や高反射ガラス(MirroView™)等のさまざまな製品を製造しています。特に、NSG TEC™は薄膜系太陽電池メーカー向けの主力製品であり、再生可能エネルギーの普及に貢献しています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画
「2030 Vision：
Shift the Phase」
▶ 事業概要
特集
エンプロイヤー
ブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

建築物の脱炭素化に貢献する製品

日本におけるオフラインコーティング設備が新たに稼働開始
Low-Eガラス
(Low Emissivity、低放射ガラス)



新設備の立ち上げに携わった製造部門のメンバー

近年、日本ではカーボンニュートラルの実現に向け、住宅や建築物の省エネ基準の抜本的な見直しや引き上げ、規制の対象範囲拡大等の施策が進められています。これに伴い、より省エネ効果の高いLow-Eガラス(Low Emissivity、低放射ガラス)の需要は、住宅分野のみならず、商業ビルなどの非住宅分野や、既存建築物のリフォーム分野などにおいて、さらなる拡大が見込まれています。当社はこれまで日本国内においては、大半のLow-Eガラスをグループ内外から調達していましたが、脱炭素化の流れとともにLow-Eガラスの需要が高い水準で継続していくことが見込まれるため、建築用ガラス事業の主要製造拠点である千葉事業所(千葉県市原市)へ、最新鋭のスパッタリングコーティング設備を導入、2026年夏より稼働を開始しました。Low-Eガラスは、ガラス表面に透明金属膜をコーティングしたもので、建築物の脱炭素化に貢献可能な高い省エネ性能を発揮するLow-E複層ガラス製品(ペアマルチLow-E®)や真空ガラス製品(スペーシア®)に欠かすことのできない重要な構成部材です。ガラスにコーティングされたLow-E膜が太陽の熱や部屋を暖房で暖めた熱を吸収・反射することで、日射を軽減するとともに室内の暖冷房効率の向上に貢献します。



建築ガラス事業部門 千葉事業所素板製造部
スパッタリング設備導入プロジェクトメンバー
上野　勝也

今回の設備導入にあわせ、日射を多く取り込むタイプ(日射熱取得率0.53)から、日射遮蔽するタイプ(日射熱取得率0.26)まで、品揃えを5種類に増やすとともに、より大寸法の製品(最大6メートル×2.5メートル)まで製品寸法を拡大しています。千葉事業所で製造されたLow-Eガラスは、同事業所内においても複層ガラスへと加工される予定であり、これによりフロートガラスからLow-Eガラスへの成膜、複層ガラス加工まで一気通貫で生産・供給可能な体制が整います。これを強みとして、私たちはお客様の期待に応え、信頼されるパートナーになるよう、日々、安定した供給体制の構築に取り組んでまいります。

ガラスコーティング技術を通じた持続可能性への貢献

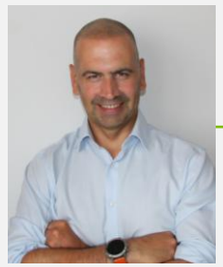
英国ケンダルにおける景観保全と洪水対策を両立するガラス技術
自己洗浄ガラスPilkington Activ™と
高透過ガラスPilkington Optiwhite™



当社グループは、英国カンブリア州のケンダル洪水リスク管理計画において、異常気象に伴って高まりつつあるリスクから地域社会を守ることに貢献しました。このプロジェクトは、地域全体で1,480戸以上の住宅と1,100社以上の事業所を守ることが期待される、大規模な洪水対策プログラムの一環です。

このプロジェクトの大きな特徴は、ガラスの洪水防止壁を採用している点です。これは、ケンダルの歴史的な川沿いの景観やケント川の眺めを保ちつつ、強固な洪水対策を講じるように設計されています。クラレ社およびフラッド・コントロール・インターナショナル社と共同で、自己洗浄機能を持つPilkington Activ™と高透過ガラスのPilkington Optiwhite™を組み合わせた、特注の合わせガラスによるソリューションを開発しました。この高性能なシステムは、洪水による水圧や衝撃に耐えるとともに、高い透明性と耐久性を維持できるよう設計されています。

この共同プロジェクトは、当社の先進的なガラス技術が、気候変動に対するレジリエンスの確保や地域社会の保護に貢献するとともに、将来に向けた持続可能なインフラの構築に貢献していることを示しています。



建築用ガラス事業部門　VA営業部
テクニカル・カスタマーサポートマネージャー
リー・ショー

ケンダル洪水リスク管理計画に携わることができたことは、私たちのチームにとって誇らしいことです。技術力の高いパートナーと連携し、地域環境の特色を保ちつつ、住宅や事業所を洪水から守る革新的なガラスソリューションの実現に貢献しました。このプロジェクトは、高度なガラス技術が気候変動に対するレジリエンスの向上にどのように貢献できるかを示すものです。優れた性能、持続可能性、低メンテナンス性を兼ね備えるとともに、景観や美観に配慮しながら、地域社会に不可欠な価値を提供しています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画
「2030 Vision：
Shift the Phase」
▶ 事業概要
特集
エンプロイヤー
ブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

自動車用ガラス事業

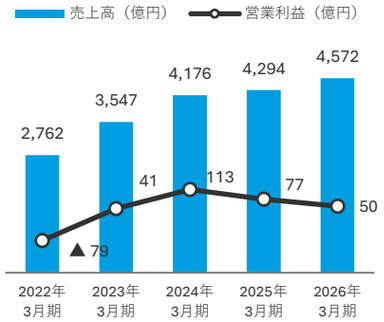
世界最大級の自動車用ガラスメーカーとして
新車用（OE）と補修用（AGR）を供給





事業環境

新車用市場の需要は回復傾向にあります。一方で当社の主要市場の自動車生産台数は Covid-19前の水準にまでは戻らない見通しです。特に人口減少・高齢化、移動の多様性（カーシェアリングなど）、BEVの普及遅れにより日本国内販売台数は減少していく見通しです。CASE*1の進展を受けたADAS*2/EVの普及により1台当たりの付加価値は上昇する想定です。ADAS/EV対応のため、より高機能、先進性が求められ、ガラスへの多様な高付加価値、成形要求水準の高度化、機能性コーティング需要増などが期待され、開発・技術水準の向上と製造能力強化が収益性改善と競争力強化の鍵になっていきます。補修用ガラス市場では、新車でのADAS搭載比率の上昇に伴い、高度化するADAS対応フロントガラスのタイムリーな供給が課題になってきます。補修用製品の開発/製造能力に加えて、修理交換をするフィッターまでの高品質サービスの提供が一層重要です。



*1 CASE：Connected、Autonomous、Shared、Electric　*2 ADAS：先進運転支援システム Advanced Driver Assistance System

事業戦略

コネクテッドカーとして通信にも対応し、より安全で環境に優しい自動車をつくるために顧客が必要とする製品製造技術の開発を加速します。それとともに重要な戦略的グローバルサプライヤーかつ持続可能な収益事業となるべく変革を継続していきます。主な重点施策としては以下の通りです。

ADAS/EVの拡大に対応するためのケイパビリティ強化

- 高度なガラスベンディング技術開発
- 多様化するラミネートガラス用途に対応した製造技術開発　等

補修用ビジネスの強化

- 在庫管理水準の向上と市場へのタイムリーな供給能力の強化
- 新車用・補修用（アフターマーケット）の統合的マネジメントによる効率化
- ソーシング戦略の最適化　等

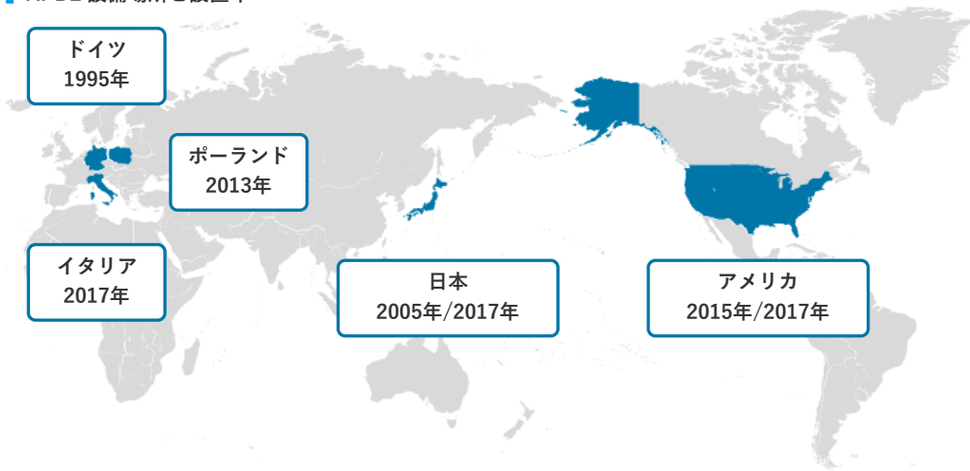
徹底的な収益性の改善

- 価格戦略の継続的見直し
- フットプリントの更なる最適化
- オペレーションコストの削減

当社の強み～高精度プレス工法

近年はADASやHUDなどのニーズが高まっており高精度なフロントガラスの製造が求められています。当社では1995年以降、世界に先駆けて当社独自のAPBL*1（高精度プレス工法）設備の設置を開始し、グローバルでの生産体制をいち早く整備しました。

APBL 設備場所と設置年



ADASおよびHUD付きフロントガラス

正確にADASを機能させて事故を防止したり、速度やナビゲーションを投影させたりするためには高精度なフロントガラスの加工技術が必要となります。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
▶ 事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

自動車産業の進歩に貢献する製品

先進運転支援システム（ADAS）
– センサーとガラスの適合性



Zoox社のロボ・タクシー。レベル 4の自動運転に対応。
センサーは外部設置だが、ドアにNSGのガラスを使用。

自動運転の開発は、既存の自動車メーカーだけでなく新規参入プレイヤーによっても進められています。自動運転機能を確実に実装し、顧客の求めるより高いレベルへと進化させるためには複数のセンサーによる冗長性の確保が必要となってきます。また、自動運転へのお客様の期待は、より高い速度域においても高まっています。より高い速度域での自動運転を実現するためには、センサーがより遠くの道路状況を適切に把握できている必要があります。そのためには、センサーがフロントガラス越しに認識するため、フロントガラスの精度をより厳密に管理しなければなりません。NSGグループは、フロントガラス背後のカメラシステムに関して長年の実績を有しており、現在、主要なお客様と連携しながら、当社の製造プロセスにおける対応領域の拡大を進めています。これにより、これまで以上に厳しい公差要求に対応し、より大型のカメラ窓付フロントガラスの提供を可能にするための取り組みを進めています。光学式カメラシステムはフロントガラス後方に設置される従来型ののセンサーです。レベル3以上の自動運転の実現に向けては、LiDARセンサーを車両上部ではなくフロントガラス後方に設置することが、合理的であると考えられます。このため現在では、LiDAR対応のフロントガラスの開発が重要となっています。



自動車用ガラス事業部門　グローバルプロダクトマネージャー
（フロントガラス＆サステナビリティ）
フィル・バクスター

業界の動向を見ると、自動運転には主に2つの方向性があるようです。1つ目は、一般乗用車向けです。乗用車向けでは、既存の運転支援技術(例えば、クルーズコントロールを進化させ、ハンズフリーで高速道路の最高速度域にも対応できる「ハイウェイ・パイロット」技術)の拡張による対応が中心となり、自動運転レベルはレベル3までとなる可能性が高いと見込まれます。2つ目は商業利用で、レベル4や5はロボ・タクシーや貨物輸送用途として拡張されていくと見込まれています。車両カテゴリーごとに、ガラス関連のビジネスオポチュニティも異なっています。一般乗用車のカテゴリーでは、フロントガラスの背後にセンサーを設置するため、当社製品にとって大きな機会があります。一方、レベル4のロボ・タクシーは従来の乗用車とは大きく異なる形態となっており、目立ちにくいセンサー設置方法を採用しています。

脱炭素社会の実現に貢献する製品

自動車用ガラスにおける最先端技術
– 主要な顧客との協働によるNSGの成果



写真は調光機能付き濃色ルーフガラスの開発品によるイメージ。
左が調光オン（透明状態）、右が調光オフ（不透明状態）。
調光オフ時には雲などの空の様子が視認しにくくなっている。

調光機能付き濃色パノラマルーフガラス

2026年は調光機能を組み込んだ重要な製品の発売が予定されており、当社のルーフガラス製品ラインナップにとって転換点となる年です。中でも最も重要なマイルストーンは、新型レクサスES向けに採用されている、濃色調光機能付パノラマルーフガラスの生産開始であり、NSGグループにおいては初めて製造される製品です。この製品を採用することにより、景色と開放感を楽しめる透明状態から、日差しによるまぶしさを防ぐ濃色状態へと、瞬時に切り替えることが可能となります。さらに、内側に施された当社の低放射率(Low-E)コーティングが、遮熱・断熱効果を発揮します。夏でも冬でも車内を快適な状態に保ちます。

化学強化超薄板ガラスを使用した超軽量合わせガラス

2018年にポルシェ911(992型)が発売された際、NSGグループはフルカーセット(1台の車の全てのガラスを1社で供給する)合わせガラスの先駆者でした。厚さ0.5mmの化学強化ガラス「glanova®」の加工と成形技術を開発・確立したことで、超軽量合わせガラスの製造において世界的なリーダーとなりました。当社の合わせガラスは、軽量性、強度、そして静粛性を兼ね備えています。性能、スタイリング、そしてドライビング体験のいずれにおいても妥協を許さない車両にとって、これらは技術的に最適な選択肢であるため、多くの顧客から関心を集めています。



自動車用ガラス事業部門
グローバル・プロダクト・マネージャー（ルーフガラス）
ザビエル・アルノー

コンポジットガラス製品と、調光機能付き濃色ルーフガラスの市場投入は、お客様とNSGグループとの緊密な連携が実を結んだことを示す二つの象徴です。先進的なパノラマルーフガラスの開発が、検証の各段階を順調にクリアしていく様子を見るのは、たいへん誇らしい気持ちになります。当社グループは引き続き、発光パターンや新たな調光技術などの機能開発を通じて性能の強化を進めていきます。また、設備投資についても、米国において超大型合わせルーフガラス製造の新生産ラインなどの投資を進めており、引き続きお客様を支援してまいります。私たちの目標は明確です。それは、新製品において、お客様から最も選ばれるサプライヤーとなることです。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画
「2030 Vision：
Shift the Phase」
▶ 事業概要
特集
エンプロイヤー
ブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

高機能ガラス事業（クリエイティブ・テクノロジー）

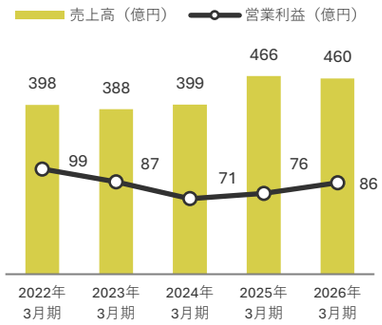
顧客製品の進化に貢献するユニークな素材を
開発・提供し、市場に新たな価値を創造



事業環境

既存製品が対象とする用途市場が代替材の脅威に直面しており急激な市場縮小は想定されないものの、成長も見込めない状況です。（例：プリンター、自動車用エンジン等） 一方で、隣接領域の市場は拡大傾向にあり、用途拡大を通じた成長機会が生まれつつあります。

例えば、自動光学検査装置（AOI）はCAGR10％程度の成長が期待され、工場自動化（Factory Automation）やeバイク等の市場も拡大傾向です。また、AIの進化に伴う記憶容量の増加、IT関連製品の小型化・薄型化、高速度通信に対応する半導体・データセンター向け材料も高い成長を期待できます。



事業戦略

顧客製品の進化に貢献する独自の素材開発を通じて、新たな収益の柱をつくります。主な重点施策としては以下の通りです。

隣接市場での事業拡大

- ガラスフレーク・繊維技術の応用と用途開拓
- 光学レンズで培った光学材料技術の発展と用途展開
- 高強度と熱加工性を両立した化学強化用薄板ガラスの用途展開

新技術の商業化

- 顧客市場・地域への拠点拡大・人員配置
- 顧客課題の把握と継続的な技術開発
- 顧客との共創途上にある開発パイプラインの着実な事業化

技術・事業シーズの取捨選択

- 継続的なニーズの掘り起こし・シーズの創出
- シーズの商業可能性判断と撤退

当社の強み～独自のガラス材料技術を基にした設計・量産化

材料設計から成形、表面処理、後加工、量産技術、検査技術までを一貫して自社で検討・最適化することができ、各技術を組み合わせ、電気特性、光学特性、機械特性、耐久性、意匠性など、多様な特性を産業規模で実現することを可能としています。プリンター用レンズや自動車エンジン用タイミングベルト向けの補強材等高い市場シェアを維持している製品が多くあります。



環境ソリューション

材料開発の技術・知見を通じ、省エネ・軽量化・環境性能向上に貢献し、環境負荷の低減を実現します。次世代エネルギー社会を見据え、全固体電池向けのガラス材料開発にも注力しています。
（主要製品例（開発品含む）：Glass Cord、MAGNAVI®、Eフレークなど）



デジタルソリューション

ガラスの組成開発・成形技術を通じ、情報量増大・高速通信に関わる顧客課題を解決し、次世代デジタル社会の構築に寄与します。次世代半導体パッケージの高性能化・小型化を実現する低誘電ガラスペレットやガラスフレーク、TGV用薄板ガラスの開発を推進します。（主要製品例（開発品含む）：低誘電ガラスペレット、低熱膨張ガラスペレット、低誘電ガラスフレーク、TGV用薄板ガラス、glanova®など）



オプティカルソリューション

長年培ってきた光学技術を通じ、顧客の多様な光学課題を解決し、次世代モビリティ・デジタル社会の構築に貢献します。また、AI・データセンター・通信ネットワークの飛躍的な高度化を支える光電融合の実現に向け、当社独自のGRINレンズや微細光学素子、反射防止コーティングなどの光学技術のさらなる開発を推進します。（主要製品例（開発品含む）：SELFOC® LENS ARRAY、SLR、マイクロ光学素子など）



ライフスタイルソリューション

ガラスの溶融・加工で培ってきた技術を通じ、意匠性や生体適合性といった特性を活かし、豊かなくらしの実現に貢献します。今後のさらなる価値観の多様化やQOL向上のニーズを見据え、機能性材料の開発や伝統工芸の継承を推進していきます。
（主要製品例（開発品含む）：METASHINE®、江戸切子、グラヴィール彫刻など）

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
▶ 事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

脱炭素社会の実現に貢献する製品

脱炭素社会を背景に伸びる複合材市場に新たなソリューション

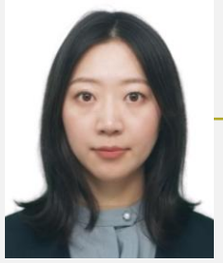
-高弾性・高強度ガラスファイバー
MAGNAVI®（マグナヴィ）-



脱炭素社会の実現に向けて、輸送機器や産業機器の軽量化によるエネルギー消費量の削減が世界的な課題となっています。また、再生可能エネルギーや次世代通信インフラの拡大に伴い、高強度と軽量性、電波透過性、耐久性を兼ね備えた材料への需要が高まっています。

NSGグループは、こうした社会課題の解決に向け、高弾性・高強度ガラスファイバー「MAGNAVI®」を展開しています。MAGNAVI®は、従来のガラスファイバーを超える機械特性を持ちながら、ガラス素材特有の電波透過性や耐熱性、耐酸性を兼ね備えています。さらに、複合材料の補強材として活用することで部材の軽量化を実現し、エネルギー消費量や環境負荷の低減に貢献します。

また、高い耐衝撃性は、FRP補強材として広く使用されるカーボンファイバーに対する新たな選択肢として、ドローン、電力機器、水素タンク、再生可能エネルギー関連部材など幅広い分野で活用が期待されています。NSGグループはMAGNAVI®を通じて、持続可能な社会の実現と新たな産業基盤の創出に貢献していきます。



クリエイティブ・テクノロジー事業部門
ファンクショナルプロダクツ事業部　グラスファイバー統括部
戴　可晨

当部署では、独自の組成設計技術と製造技術を活かし、さまざまな特性を持つガラス材料の開発・量産に取り組んでいます。高強度・高弾性を備えたガラスファイバー「MAGNAVI®」をはじめ、低熱膨張・低誘電特性を備えたガラスペレットなど、スポーツ用品分野や半導体分野を中心に、幅広い用途への提案・提供を行っています。

今後もお客様との対話を重ねながら、市場や用途ごとのニーズに応じた材料の提案や新たな製品開発に挑戦し、社会やお客様の課題解決に貢献していきます。

高性能部品の開発を可能にする製品

省エネと高速通信を支えるデータセンター向け液浸冷却技術

-極細径SELFOC®MICRO LENS-

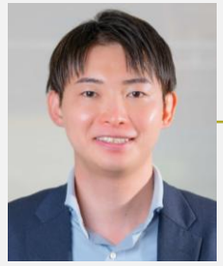


生成AIの急速な普及やデジタル化の進展に伴い、データセンターの新設・増設が世界的に進んでいます。一方で、データ処理量の増加によりサーバーの消費電力や発熱量も増大しており、データセンターの省エネルギー化は重要な社会課題となっています。

こうした課題への対応策として注目されているのが、サーバー機器を冷媒液に直接浸して効率的に冷却する液浸冷却技術*です。従来の空冷方式に比べて高い冷却効率が期待されており、データセンターの消費電力削減に貢献する技術として、国内外で導入や実証が進められています。

NSGグループは、冷媒液中でも使用可能で光ファイバーと同じ125um径の極細径SELFOC®MICRO LENS「HOSOMICHI®」の特長を活かし、液浸冷却環境に対応した多心光コネクタの共同開発を進めています。本開発品は、従来課題であった冷媒液の混入による通信品質の低下に対し、 SELFOC®による光制御技術によって高速かつ安定した光通信の実現を目指しています。

*液浸冷却：絶縁性を有する専用液体にサーバー機器を直接浸し、高効率な冷却を行う技術。



クリエイティブ・テクノロジー事業部門
情報通信デバイス事業部
永守　隆人

極細径SELFOC®MICRO LENS「HOSOMICHI®」は、光ファイバーと同じ外径125μmを実現したGRINレンズで、高効率な光結合と位置合わせの容易さを特長としています。AIの普及に伴い、データセンターでは通信容量の拡大と省電力化が重要な課題となっており、次世代光通信技術であるCo-Packaged Optics(CPO)や液浸冷却対応システム向け光部品として期待されています。今後は、お客様の声を取り入れながら製品価値をさらに高め、次世代通信インフラの発展に貢献していきたいと考えています。

*GRINレンズ：内部で屈折率が徐々に変化することで光を曲げる円筒形のレンズ

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
▶ 事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

エグゼクティブバイスプレジデント最高人事責任者(CHRO) デニース・ヘイラーより

NSGグループにとって、人材は最大の強みです。このたび、グループ人事部門の中期計画の一環として、NSGグループがどのような組織であり、なぜ働きがいのある職場なのかを表現したエンプロイヤーブランドを新たに発表しました。中心となるメッセージ「Create. Inspire. Belong.」は、世界中にいる従業員にとって大切なものは何かを表現しています。このブランドは、NSGグループのストーリーを一貫して伝え、エンゲージメントを高め、世界中で従業員体験の向上を担っています。このエンプロイヤーブランドのローンチにあたり、「Create. Inspire. Belong.」が生まれるまでの道のりと、関連するグローバルでの様々な取り組みについてご紹介します。一人ひとりの情熱と、NSGグループを誰もが力を発揮できる職場にしていくというグループ共通の決意を多くの方に知っていただければ幸いです。



デニース・ヘイラー
エグゼクティブバイスプレジデント
CHRO（最高人事責任者）

CREATE. INSPIRE. BELONG.



NSGグループのための、グローバルで一貫性のある新たなエンプロイヤーブランドの構築

当社グループはこれまで培ってきた技術と世界にまたがる製造拠点で業界をリードするガラス製品を提供しています。ガラスは、何百万人もの人々の生活にかかせないものです。そのようなガラスビジネスに世界中の素晴らしい人材を惹きつけ、育成していくためには、当社グループで働くことが実際にどのようなものなのかについてをリアルに伝える必要がありました。その強い思いを「**CREATE. INSPIRE. BELONG.**」に込めました。このエンプロイヤーブランドは、NSGグループがどのような組織なのか、そしてなぜ人々がNSGグループでキャリアを築くことを選ぶのかをグローバルで一貫したアプローチで伝えようとするものです。単なる人材採用キャンペーンではなく、私たちのカルチャーと全員が力を発揮できる環境づくりへの姿勢を表すことを目指しました。

従業員が築いた自分たちのブランド

互いのストーリーに耳を傾けることから始まりました

ブランディングにあたり、NSGグループ全体で12,000人を超える従業員が、ここで働く経験を共有し、何が自分を動かしているのか、何を誇りに感じているのか、何がインスピレーションを与えているのかを語りました。また、将来に向けたNSGグループの目指す姿も反映できるよう、リーダー層にも話を聞きました。

さらに、社外にも目を向け、採用候補者からフィードバックを集め、他社とのベンチマークも実施し、今、キャリアに何が求められているのか、そしてNSGグループがどのように価値を生み出せるのかを見極めました。

調査の内訳：

12,707 社内調査の回答数	**900** 社外調査の回答数
77 グローバルのフォーカスグループ数	**9** 経営陣へのインタビュー

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
▶ 特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報



一人ひとりのストーリーがグローバルで共有されました

世界各地で実施した数々の調査を通じて、NSGグループについて私たち自身がイメージする全体像を明確化しました。

その調査結果や従業員の声をもとに、NSGグループがどのような組織なのかを世界に伝えるブランドエッセンスとブランドストーリーを策定しました。

私たちは、ガラスの世界を再定義しています。

他の人が限界を見るところに、私たちは可能性を見出します。

そして、何百年にもわたり培ってきた知識と専門性をもとに、最先端の研究を現実の革新へと変えていきます。

信頼と自由が、人々の成長とキャリア最高の仕事を後押しし、より持続可能な社会という私たちのビジョンを実現します。

世界中で、熟練した職人やクリエイター、優れた発想を持つ専門家やつくり手が、互いに刺激し合い、支え合いながら協力しています。

私たちは共に、バランスを見出し、品質を生み出し、ガラスの未来を切り拓きます。

NSGグループ. **Create. Inspire. Belong.**

4つの約束

社内での膨大なディスカッション、社内外で実施したアンケート、あるいはワークショップといった様々な調査には、一貫して共通していた概念を言語化し「People Promises(人材との約束)」を制定しました。これらの約束は、従業員とNSGグループ相互の約束です。従業員一人ひとりと会社が互いに求めることを明確にし、あらゆる局面で「**Create. Inspire. Belong.**」を体現するものです。

この4つの約束は、従業員としてのキャリアのあらゆる段階で一貫した基盤です。NSGグループで働くとはどのようなものか、世界中の従業員と当社グループへ応募してくれた方々が、どこにいても同じ価値観を体験することを可能にします。

WE'RE TRUSTED TO SUCCEED

皆さんのアイデアと仕事が、成功を導き、事業の方向性を定め、品質の新たな基準を打ち立てます。信頼を基盤とした文化のもと、私たちは一人ひとりが自らの業務に主体性を持って取り組めるよう支援します。そして皆さんが率先して行動し、自発性を示すとき、それは全員のための基準を確立する一助となるのです。

WE ACHIEVE AS ONE TEAM

私たちは成功を共に実現します。私たちは協力し、支え合い、互いに刺激し合います——地域レベルでも、グローバルネットワーク全体でも。私たちは懸命に働き、品質を追求し、ガラス産業の未来を確固たる決意と誇りをもって形作ります。同時に、楽しみを共有し、永続的な絆を築き、道中の成功を共に祝う時間も大切にしています。

WE SHAPE THE FUTURE OF GLASS

何世紀にもわたり、私たちはガラス業界をリードしてきました。フロートガラス製造プロセスの先駆者から、あらゆる事業活動におけるサステナビリティの追求まで、品質と革新性で高い評価を得ています。ガラスで創造できる限界に挑戦する私たちと共に歩むことで、誇り高き伝統を受け継ぎ、未来に大きな影響を与える機会を得られるのです。

WE SUPPORT EACH OTHER TO DELIVER

私たちは献身的で情熱的なチームを誇りに思っています。だからこそ、一人ひとりが仕事と私生活の両方で成長できるよう支援し、バランスを実現するための環境とサポートを提供します。なぜなら、社員が必要とする時に寄り添うことが、正しいことだからです。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
▶ 特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

エンプロイヤーブランドの完成まで

ブランドをゼロから構築し発表するまでの1年間で、調査結果、数多くの従業員のエピソード、そして「People Promises(人材との約束)を「**Create. Inspire. Belong.**」というメッセージに凝縮するための試行錯誤がありました。

各地域でブランドを形にする

エンプロイヤーブランドは、自分事だと感じることで初めて機能します。NSGグループは世界中に拠点があるため、カルチャー、対象となる人が多様であるという特徴があり、グローバルで統一するにあたってそれが共通理解の壁となる可能性がありました。そこで各地域の特色に合わせた展開を支援する「エンプロイヤーブランドチャンピオン」を各国・各地域で任命し、ネットワークを構築しました。

チャンピオンには理解に必要なツールや様々なビジュアル素材を提供し、積極的に活用してもらいました。また地域性を反映した独自のアプローチで推進する裁量も持ってプロモーション活動しました。グローバル共通のツールを活用しつつ、それぞれが地域の特性を反映した独自の展開計画を策定し、「**Create. Inspire. Belong.**」を各拠点に合った形で展開しました。これにより、グループ全体で一貫性を保ちながら、各地域毎にブランドを自分たち独自の手法で展開できるようになりました。現地の言語や文化に合わせたコミュニケーションの工夫はその一例です。

各地域からの声が、ひとつのグローバルなストーリーに

誰もが「Create. Inspire. Belong.」を自分たちなりに体現できるツールを提供

新しくエンプロイヤーブランドのハブとなるページを作り、ガイドラインを策定し、地域の独自性を尊重しつつ、一貫性のあるコミュニケーションを図ることができる柔軟性は当社グループの強みでもあります。採用イベントから社内コミュニケーションやソーシャルメディアに至るまで、従業員は一定のルールのもとでメッセージ、写真、テンプレート、様々な共有データを活用し、当社グループのエンプロイヤーブランドを利用できます。

- **エンプロイヤーブランドハブページ：1万回以上の視聴**
- **エンプロイヤーブランド動画の再生回数：14.4K以上**
- **従業員が登場するグローバルUGC動画の共有数：65本**
- **ローンチ月のViva Engageにおける従業員の反応数：過去最高を記録**

従業員の声をありのままに見せる

従業員の声を通じて当社グループのエンプロイヤーブランドを表現するため、従業員自身が個人的な体験を紹介する専用サイトも制作しました。

その中心となったのは、世界中の従業員が登場する65本以上の動画です。動画では、従業員自身がNSGグループで経験したエピソードや、「**Create. Inspire. Belong.**」が自分にとって何を意味するのかについて語っています。率直に自身の経験、所属するチーム、キャリア、そしてNSGグループの一員であることを誇りに思う理由を語ることで、「People Promises(人材との約束)」を自然体で伝えています。現在、このサイトは貴重なオンボーディングリソースとしても機能しています。新入従業員が世界中の仲間のエピソードやメッセージを聞き、NSGグループのカルチャーやこれから経験することを知る機会を提供しています。



加藤瑞
製品開発



イーサン・ロース
上級研究開発エンジニア



イーディス・ゴンザレス
Value-addedプロセスアソシエイト



ケイラ・ナティビダッド
ATSエンジニア

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
▶ 特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

世界中で一つのストーリーを共有する

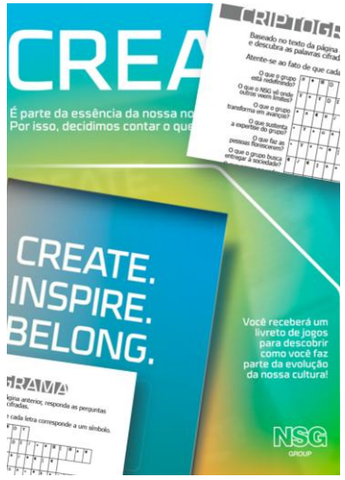
世界各地で、「Create. Inspire. Belong.」を日常に定着させるための独自の取り組みを実施

ブラジル

ブランドの要素を社内会議に取り入れる、ブランドデザインのノベルティを制作する、トレーラーに大胆にブランドイメージを塗装する、といった大々的なキャンペーンを実施しました。またローンチ期間中にはパズルブックを配布するなど、遊び心のある形で従業員の理解を促す取り組みを行っています。



ブランドイメージを塗装したトレーラー（カサパーバ）



従業員にパズルブックレットを配布

ベトナム

毎年実施しているチームビルディング活動に「**Create. Inspire. Belong.**」を取り入れ、エンプロイヤーブランドを紹介するとともに、人同士のつながり、協働すること、ウェルビーイングについて取り上げました。ブランドロゴ入りのTシャツを従業員に配布し、イベント後もブランドを目にする機会を広げました。「People Promises(人材との約束)」を日常に取り入れ、現地チームがグローバルブランドを自分たちのものとして展開した好例です。



ベトナムのチームビルディング活動

ポーランド

オフィス内だけでなく社屋の外にもブランドデザインのパネルを設置しました。また社内イベントにエンプロイヤーブランドを取り入れています。アースデイのサンドミエシュ事業所の清掃活動では、社内ボランティア参加者全員に清掃用品が入ったオレンジ色の「**Create. Inspire. Belong.**」バックパックを支給しました。



従業員のファミリーイベント
（サンドミエシュ）

北米

ノベルティやブランドデザインを施したスイーツなどを用意したイベントやスポーツ観戦を楽しみ、世界各地の従業員のストーリー動画を視聴する上映会を開催しました。



ブランドデザインを施したスイーツ(コロンバス)



エンプロイヤーブランドストーリー上映会(レキシントン)



ブランド発表イベント(ロスフォード)

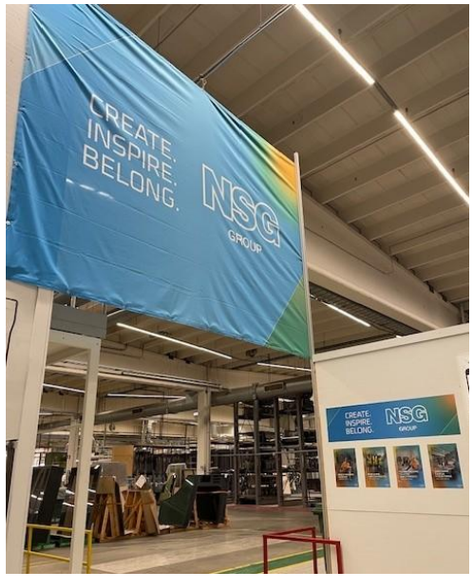
目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
▶ 特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

ストーリーの可視化

ポスター、看板、オフィスの掲示板など、世界中のNSGグループ拠点で「**Create. Inspire. Belong.**」が目に入るようになりました。こうした視覚的アプローチにより、エンプロイヤーブランドが日常に溶け込み、一貫した従業員体験を提供するとともに、各拠点が独自の方法でブランドを形にすることを可能にしてます。



ポーランド、サンドミエシュ



北米



英国、レイザム



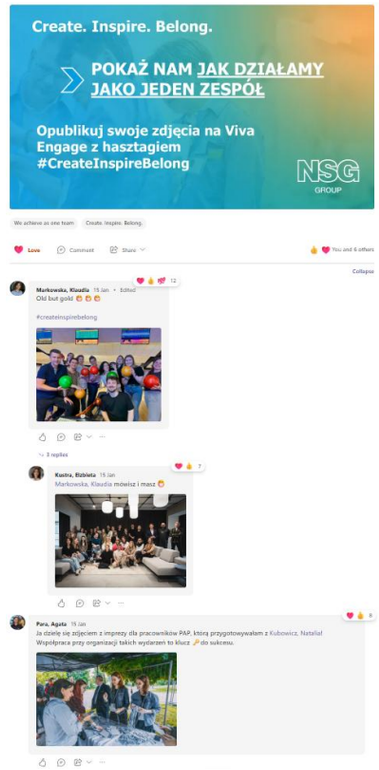
ブラジル、カサパーバ

情報共有から対話へ：従業員のエンゲージメントを高める

グループ内で「**Create. Inspire. Belong.**」を形にする、その他の取り組みの一つとして、経営陣がメッセージ動画を通して自身の「**Create. Inspire. Belong.**」体験を共有し、従業員にとって身近で親しみやすい姿で語りかけました。

また、会議をスタートする際のアイスブレイクになるきっかけを提供して対話を促し、参加者が自身の役割や経験において「People Promises(人材との約束)」に紐づけて考える仕組みをつくりました。そうした工夫によって活性化された対話は会議の枠を超えつつあります。社内SNSであるViva Engageでは世界中の従業員同士で自由に質問を投げかけ、それに対して顔をみたことのない仲間から反応や回答が得られるようになりました。そうしたコミュニケーションや写真の共有といった発信が活性化しました。

世界中からエンプロイヤーブランドに対する感想が数多く寄せられました。ユニークなリアクション、オリジナルの詩、さらには「**Create. Inspire. Belong.**」に着想を得た楽曲など、従業員からはさまざまな反応が見られました。これは、エンプロイヤーブランドが単なるメッセージの集合を超え、一人ひとりが共感し、解釈し、自分なりに表現できるものになったといえるでしょう。これこそがエンゲージメントの最も明確な証です。従業員は単に提供されたストーリーを情報として理解するだけでなく、そこに自分たちなりの解釈を加えました。このように、誰もがブランドを自分と関連づけることが私たちの重視することです。



社内SNSへの従業員の投稿（ポーランド）



ミハエル・キーファー
CLO（最高法務責任者）兼 CE&CO
（最高倫理・コンプライアンス責任者）

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画
「2030 Vision：
Shift the Phase」
事業概要
▶ 特集
エンプロイヤー
ブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

社外への発信

NSGグループの枠を超えて ストーリーを伝える

世界中の従業員が「**Create. Inspire. Belong.**」を知り、解釈を形にし始めたところで、NSGグループのストーリーをより広く共有する段階へと進みました。NSGグループで「**Create. Inspire. Belong.**」とは何かを伝えるため、従業員の声や体験談を活用して未来の人材に向けて社外への発信を開始しました。

ミッション:INSPIRE —ありのままのストーリーで人々をインスパイアする



エンプロイヤーブランドを形にする上で、最も大きな力となった取り組みの一つが、グローバルな従業員アドボカシー・プログラム「ミッション:INSPIRE」です。

「私たちの人材こそが最良のアンバサダーである」という考えのもと、従業員がLinkedInなどの信頼性の高いネットワークを通じて、NSGグループで働く自分の体験を発信する取り組みが「ミッション:INSPIRE」です。様々な社内での経験や自身のストーリーを社外に発信してコミュニティを拡大しています。

このプログラムでは、ガラスビジネスを支える従業員にフォーカスし、NSGグループ全体の多様なキャリア、専門性、様々な成長機会を紹介しています。そうしたストーリーが「People Promises(人材との約束)」を体現し、従業員の声を通じて、社外に向けて当社グループのカルチャーをリアルに伝えることを可能にしています。

LinkedIn：ストーリーテリングで成果を上げる

LinkedInは、従業員のストーリーを共有し、ビジネスを支える人々を紹介するための、最も効果的なチャネルの一つです。私たちのコンテンツは、人材育成・コラボレーション・イノベーションを中心に据え、一貫して高いエンゲージメントを生み出し、社外への情報発信を推進しています。また、製造・エンジニアリング業界におけるNSGグループの「選ばれる企業」としての存在感を高めています。

アドボカシー・プログラムを継続的に拡大していくことで、コンテンツのリーチも広がり、従業員がNSGグループのアンバサダーとして活躍することで、公式チャネルを超えたエンゲージメントも高まっています。

NSGグループのローンチ前の 平均エンゲージメント率：3〜5%

- **エンプロイヤーブランドのセンターピース動画：12%**
- **社内グローバル研修プログラムのストーリー：16%**
- **People Promise（人材との約束）スライドショー：47%**
- **エンプロイヤーブランド動画の総視聴時間：49時間以上**
- **エンプロイヤーブランド立ち上げ以降の新規フォロワー：3,500人以上**

社内のエンゲージメントが高まるにつれ、社外での存在感も高まっています

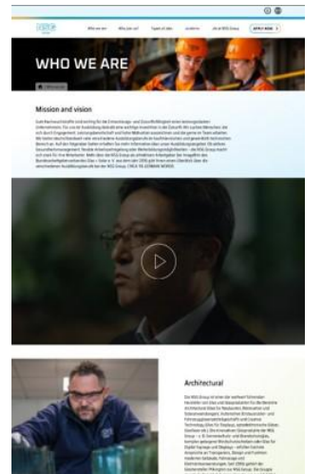
エンプロイヤーブランドは、キャリアフェア、学生向けイベント、採用活動においても活用されています。展示物や配布資料のデザインを刷新し、グローバルで一貫したメッセージを発信することで、採用候補者に強い印象を残し、採用チームが場所を問わず、明確で説得力のある企業としての価値提案を伝えられるようになりました。

このアプローチにより、学生だけでなく、経験豊富なプロフェッショナルの認知度が高まり、技術系、製造系、コーポレート部門など幅広い職種の採用を支えています。

今後の採用活動に向けて

当社グループの新しいグローバル採用ウェブサイトは、この勢いをさらに強め、従業員の体験談、キャリアパス、そして「People Promises(人材との約束)」を、求職者が得られる様々な情報の中心に位置づけています。この新しいプラットフォームは、求職者のニーズは何か？というところに立ち返って設計しました。その結果、情報をより魅力的で利用しやすい「体験」のかたちで提供しています。NSGの事業、文化、そしてNSGグループ全体で提供されている多様な機会をより深く理解いただけるはずです。ウェブサイトは、従業員の体験談、キャリアパス、そして当社グループの「People Promises(人材との約束)」について深く知っていただけるようにデザインしました。NSGグループでの働き方をよりリアルに伝え、求職者に当社グループのグローバル事業全体にわたるあらゆるキャリアの可能性を分かりやすく伝えます。さらに、このプラットフォームは今後の展開を見据えて設計されています。次会計年度中には、当ウェブサイトを各地域の言語で世界的に展開し、世界中で一貫したエンプロイヤーブランドを用い、世界各地の大きなマーケットにおける候補者に対し、よりインクルーシブで利用しやすい「体験」を提供していきます。





目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
▶ 特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

今後の展望

当社グループのエンプロイヤーブランドは、独立したプロジェクトではなく、より広範な当社グループの事業戦略と絡みあった取り組みです。

まず従業員の声に耳を傾け、その実際の体験をもとにエンプロイヤーブランドを構築することで、今日のNSGグループの姿を映し出し、明日の未来を形づくる人材を支える、いわば「ストーリーを分かち合う」体験が生み出されました。

イノベーション、デジタル化、サステナビリティ、多様な人材の育成への投資を続ける中で、優れた人材を引きつけ、定着させることは、今後も成功の基盤であり続けます。従業員体験を提供し、従業員が自らのストーリーを発信し、未来の同僚ともコミュニケーションを強化することで、持続可能な成長に向けたより強固な基盤を築いています。

この1年間の進展は、従業員の実際の体験を反映しながら各地域のマーケットを支える、グローバルに統一されたエンプロイヤーブランドの価値そのものです。今後も幅広く社外との接点を広げ、採用候補者がNSGグループを理解する過程での情報提供をさらに充実させ、当社グループが生み出す製品だけでなく、一人ひとりが「**Create. Inspire. Belong.**」できる機会を提供する企業としても認知されるよう取り組んでいきます。



- **12000人以上の従業員が「Create. Inspire. Belong.」が生まれる過程に寄与**
- **グローバルで統一したエンプロイヤーブランドガイドラインとツールを導入**
- **従業員によるアドボカシーネットワークが拡大を続け、従業員のリアルなストーリーに多数のアクセス**
- **人材にスポットライトを当てたコンテンツにより、LinkedInで高いエンゲージメントを獲得**
- **新しいグローバル採用ウェブサイトを立ち上げ、次期会計年度に多言語展開予定**
- **一貫したエンプロイヤーブランディングが、世界中のキャリアフェア、採用イベント、採用候補者とのコミュニケーションを支援**

終わりに

「**Create. Inspire. Belong.**」の立ち上げは、NSGグループ全体で人材を惹きつけ、エンゲージし、定着させる力を高める上で重要な節目となりました。世界中の従業員の声によって形づくられたこのブランドは、NSGグループがどのような組織なのか、そしてどのような従業員体験を提供したいのかを、明確かつ率直に表現しています。

ここまでの道のりで、ベースは整いました。今後もエンプロイヤーブランドを日々の体験、コミュニケーション、採用活動に定着させ、組織全体と世界各地のマーケットでブランドが多くの人にとってインパクトのある体験になるよう取り組んでいきます。

この取り組みの成功は、すでに社内における「NSG アワード」Diverse Talent部門の受賞や、社外の複数の業界賞へのノミネートという形でも認められています。これは、関わったすべての人々の情熱と協力、そしてコミットメントの表れです。

この取り組みに貢献したすべての皆さんに感謝します。これからも共に、よりつながりがあり、エンゲージメントの高い、誰もが受け入れられる職場をつくり、従業員一人ひとりが真に「**Create. Inspire. Belong.**」できる環境を実現していきます。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
▶ 特集 エンプロイヤーブランド
マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

マテリアリティ

当社グループでは、「NSGグループ サステナビリティ基本方針」に基づき、中長期的な企業の持続的成長と持続的社会の実現への貢献を両立するために認識すべき課題として、マテリアリティを特定しています。

2024年、社会状況の変化等を踏まえ、改めて重要課題の見直しを実施しました。安全は当社事業の前提であるという会社のポリシーを明確にするためこれを見直し、これまで「人的資本」の一部に含まれていた「健康と安全」を独立させマテリアリティの項目の1つとしたうえで、経営の基本となる要素と競争力の源泉となる要素に区分しました。

健康と安全、倫理・コンプライアンス、安全で高品質な製品・サービスの3つのマテリアリティは、事業遂行上、必達すべき経営の基本事項としてグループ全体での最優先事項として管理し継続的に啓発・改善していきます。

競争力の源泉となる環境、社会シフト・イノベーション、ヒューマンキャピタルの3つのマテリアリティは本中計の4つの「D」(Business Development, Decarbonization, Diverse Talent, Digital Transformation)に対応しており、企業価値向上のため中期経営計画にて戦略的に取り組みます。



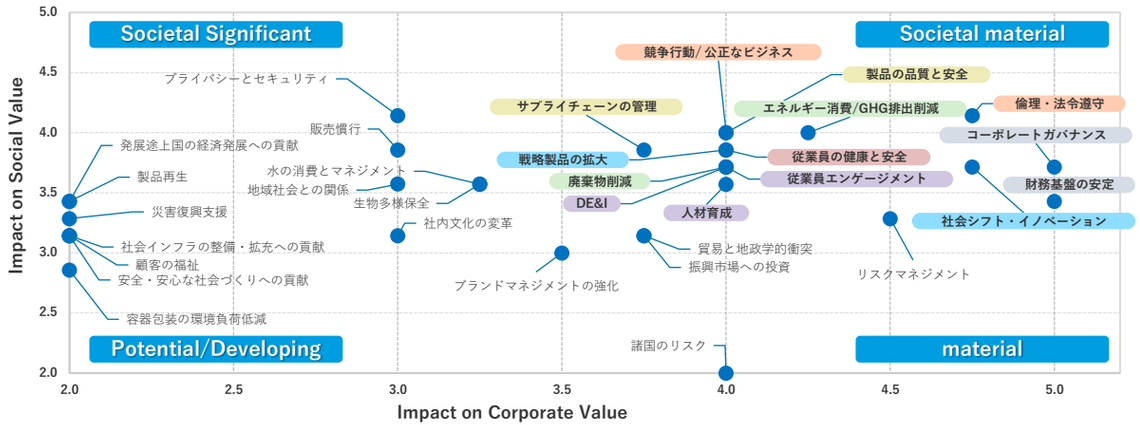
マテリアリティの特定プロセス

各項目はGRI、SASB、IIRCなどの基準における分類を参照してカテゴリー化を行い、各ステークホルダーへの社会的インパクト(Impact on Social Value)と当社への財務的インパクト(Impact on Corporate Value)を点数付けして2軸上で評価し、点数が高い項目を"重点領域"として選定しました。点数付けにあたっては、当社を取り巻く様々なステークホルダーの視点を加味しました。例えば投資家、従業員、顧客、バリューチェーン上のビジネスパートナー、地域住民などです。このうち、コーポレートガバナンス、および財務基盤の確保は会社へのインパクトが極めて強く、会社の基盤ともなるものであり、マテリアリティ選定とは別建てとして当社グループとして重点的に取り組む課題としています。このマテリアリティは、2024年3月期のサステナビリティ委員会での議論、および取締役会での承認を経て決定されました。

なお、2024年より、欧州のサステナビリティ報告指令(Corporate Sustainability Reporting Directive, CSRD)の要求に対応するため、新たなアセスメント(ダブルマテリアリティアセスメント)の準備を開始しました。2025年2月、欧州委員会によりオムニバス法令が公表され、当社への適用開始は2年延期となりましたが、当社内では引き続き適用開始にむけて準備を進めています。

マテリアリティ	本中計の方針		
健康と安全	事業遂行上、必達すべき基本的な経営事項として グループ全体での最優先事項として管理し継続的に啓発・改善していく		
倫理・コンプライアンス			
安全で高品質な製品・サービス			
環境	Business Development	Decarbonization	企業価値向上のため 中計にて戦略的に取り組み
社会シフト・イノベーション			
ヒューマンキャピタル	Diverse Talent	Digital Transformation	

Revised NSG Sustainable Value Matrix



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画
「2030 Vision：
Shift the Phase」
事業概要
特集
エンプロイヤー
ブランド
▶ マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

新たなサステナビリティ目標とKPI

当社グループは、2025年3月期開始の中期経営計画に沿って、当社が取り組むべき重要課題として特定した6つのマテリアリティについて、サステナビリティ目標とKPIを設定し活動を行っています。目標とKPIは、以下の通りです。

健康と安全（中計で独立させた項目）

死亡災害ゼロの目標は継続します。災害度数率(SIR)目標は大幅に引き上げ、製造拠点におけるAIやCCTVカメラ導入などの新たなアプローチにより、目標達成に向けて取り組みます。

詳細は、社会編「健康と安全」をご参照ください。

倫理・コンプライアンス

ホットライン報告については、一定の報告件数(「量」)が得られるようになったため、次のステップとして報告の内容(「質」)に着目した目標を設定しています。また、これまでの倫理・コンプライアンスウィークに関するフィードバックから、懸念事項を報告したことに対する報復を恐れる声が依然として存在することがわかりました。そこで、目標として報復件数ゼロを掲げています。さらに、コンプライアンスプログラムに対する従業員からの評価に関するKPIも設定し、プログラムのさらなる改善を目指します。詳細は、社会編「倫理・コンプライアンス」を参照ください。

安全で高品質な製品・サービス

品質については、「メジャー品質スパイク(外部顧客に影響を与え、財務的影響が1億円を超える品質事故)ゼロ」という目標を掲げ、取り組んでいます。

サプライチェーンにおいては、2025年3月期の目標達成状況を鑑み、いくつかの項目で目標をレベルアップしています。引き続きサステナブル・サプライチェーン憲章のサプライヤーへの浸透を図ることで、目標達成に向けて取り組みます。

また、スコープ3の削減目標についても設定しています。当社のスコープ3排出量のうち最も大きな割合を占めるのはカテゴリー1(購入した製品・サービス)であり、当社のスコープ3全体の約50%を占めます。これらのホット・スポットに関与するサプライヤーとの継続的なエンゲージメントを通じて、スコープ3削減目標の達成を目指します。詳細は、社会編「安全で高品質な製品とサービス」を参照ください。

環境

単位生産量あたりのCO_2削減目標を引き上げ、再生可能電力比率を目標に掲げ取り組んでいます。これまで当社における再生可能電力の比率は順調に推移しています。再生可能電力は市場の価格変動の影響を受けやすいのですが、グローバルレベルでより経済合理性の高い調達方法を模索する努力を通じて、さらなる比率の向上を目指します。取り組みの詳細は、環境編「気候変動・TCFD」、および「エネルギー」を参照ください。

また近年の社会要請を鑑み、水リスクの高い地域における水資源保全と、ガラスリサイクルの向上に関する目標を設定しています。特に自動車用ガラス事業では、顧客との協働によるガラスリサイクルの取り組みを積極的に進めています。取り組みの詳細は、環境編「事業による貢献(サステナビリティと製品)」「水」、および「サーキュラーエコノミー(廃棄物)」を参照ください。

社会シフト・イノベーション

本項目の目標は、戦略製品の売上構成比拡大です。特に、当社の主力商品である太陽電池パネル用ガラスをはじめ、今後のEV市場拡大に向けたヘッドアップディスプレイやルーフライトなどの自動車用ガラス、また高機能ガラス分野においては、LPH（LEDプリントヘッド）や、将来のデータ流通量増大における省エネ課題に対応したデータセンター向け液浸冷却対応多心光コネクタなどの戦略製品の売上拡大により、目標の達成を目指します。詳細はダイジェスト編「事業概要トピックス」、および環境編「事業による貢献(サステナビリティと製品)」を参照ください。

ヒューマンキャピタル

従業員エンゲージメントに関しては、中期経営計画の戦略に即して、「従業員に対する提供価値の向上(Employee Value Proposition)」の向上を目標に掲げています。測定指標としては、社内の従業員意識調査「Your Voice」サーベイにおける「NSGグループを働きがいのある職場として推薦する(Net promoting score, 略してNPS)」という設問の数値を用います。2025年9月における従業員意識調査では、この設問への回答結果が会社のサステナビリティへの取り組みに関する設問の回答結果と高い相関性を見せており、サステナビリティに対する会社の取り組みが、従業員の意識にプラスの効果をもたらすことで、ひいては企業価値向上に貢献することを示唆する興味深い結果が得られています。

DEIに関しては、日本政府が掲げる女性管理職比率目標(2030年までに30%)を鑑み、さらに高い目標に引き上げています。

ヒューマンキャピタルについての取り組みの詳細は、社会編「ヒューマンキャピタル(人的資本)」を参照ください。

詳細は次頁の通りです。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
▶ マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

6つのマテリアリティにおける目指すべき姿とサステナビリティ目標及びKPI

経営の基本となるマテリアリティ

マテリアリティ	2030年3月期 目指すべき姿	2027年3月期 新目標		2027年3月期 KPIs	SDGs 17の目標 （169のターゲット）
健康と安全	強力なリーダーシップの下、全員が安全を価値と考え、安全な職場づくりに協力する安全文化が醸成されている。すべてのリスクが適切に管理されている。特に重要なリスクについては、高いレベルの管理が行われている。デジタル技術の使用により、管理レベルを大幅に向上する。	死亡率	●死亡災害、後遺症の残る重大災害	0	8.8
		災害度数率（SIR）		0.20	8.8
倫理・コンプライアンス	倫理・コンプライアンス（E&C）プログラムの定期的な改善によりグループリスクに対処し、ステークホルダーとのパートナーシップと信頼を獲得する。	立証されたホットライン報告率		45%	16.5
		懸念事項報告に対する「報復」件数		0	16.5
		競争法、贈収賄汚職関連法違反にかかる課徴金納付		0	16.5
		E&C教育実施完了率/有効性		100%/上記KPIの達成/改善	16.5
		コンプライアンスプログラムの評価と効果		90%の好評価	16.5
安全で高品質な製品・サービス	持続可能なサプライチェーン戦略を実施し、環境と社会への悪影響を最小限に抑え、イノベーションを促進し、廃棄物とリスクを削減し、NSGのブランドを高める。	サプライチェーン	●スコープ３	3.2百万トン	13.3
		サプライヤーとの協業	●サプライチェーン憲章の浸透率（金額）	63%	8.7 / 12.4 / 17.16
			●サプライヤーアセスメントカバー率（金額）	74%	8.7 / 12.4 / 17.16
			●アセスメント平均スコア（EcoVadis）	60以上	8.7 / 12.4 / 17.16
			●“多様なサプライヤー”の金額ベース比率	2%	10.3
	顧客満足は、当社グループの中核的な使命であり続ける。より高度な自動化とデジタル化をプロセスに取り入れることにより、安全で高品質な製品とサービスの提供を強化する。	品質	●メジャー品質スパイク(外部顧客に影響を与え、財務的影響が1億円を超える品質事故)ゼロ	0	9.1

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
▶ マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

6つのマテリアリティにおける目指すべき姿とサステナビリティ目標及びKPI

競争力の源泉となるマテリアリティ

マテリアリティ	2030年3月期 目指すべき姿	2027年3月期 新目標		2027年3月期 KPIs	SDGs 17の目標 （169のターゲット）
環境	持続可能なプロセスを導入して環境に配慮した製品を生産し、脱炭素社会と循環型社会に積極的に貢献することで、ステークホルダーの期待を超える	脱炭素	●単位生産量あたりCO_2	YoY3%減	7.2 / 7.3 / 13.2
			●再生可能エネルギー電力比率	65%	7.2 / 7.3 / 13.2
			●スコープ1+2	絶対量減	7.2 / 7.3 / 13.2
		埋め立て廃棄物		20%削減 (2024年3月期比)	12.5
		カレット比率		3%ポイント増 (2019年3月期比)	7.3 / 12.5 / 13.2
		水資源		取水量50%減 (2019年3月期比、水ストレス地域)	6.4
社会シフト・イノベーション	NSG独自のガラス技術を強みに、ステークホルダーの皆様から信頼されるパートナーとなり、持続可能な社会の実現に貢献することを目指す。	戦略製品の売上構成比		23%から29%に拡大	9.4
ヒューマンキャピタル	**従業員に対する提供価値:** グローバルに一貫した雇用者ブランドにより、NSGを競合他社と差別化し、各地域での適応を可能にするとともに、特徴的で希望と信頼性のある価値提供を目指す。 **DEI:** 誰もがベストを尽くせるインクルーシブな組織となる(“#BeYourselfAtWork”活動)。 外部機関からの受賞に値するリーダーとして認められる。	従業員エンゲージメント	●Your Voice調査のNPS設問における肯定的回答比率	80%	4.4 / 8.5
		DEI	●女性管理職比率	24% (2023年6月末実績16%)	5.5

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
▶ マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

2026年3月期の目標に対する達成状況

一部未達の項目がありましたが、おおむね目標を達成することができました。スコープ1+2の絶対排出量の削減も順調に推移し、2026年3月期までに、SBTi well below 2°C目標(2030年までに2018年対比で30%削減)の半分を上回る18%の削減を達成しています。また、責任ある調達では、サステナブル・サプライチェーン憲章の浸透率やサプライヤーアセスメントのカバー率などが、順調に推移しています。また、2025年3月期の死亡災害を受け、19種類の高リスク作業に関するガイドライン策定などの対策を重点的に進めた結果、2026年3月期は死亡災害の発生を0件とすることができました。全体の進捗状況については、以下を参照ください。

2027年3月期目標と2026年3月期進捗状況

	2027年3月期に向けた目標	2027年3月期 KPI	2026年3月期の進捗状況	関連するSDGs
健康と安全	死亡率 ● 死亡災害、後遺症の残る重大災害	0	2026年3月期の死亡災害の発生件数は0件でした。こうした重篤な災害を根絶するため、昨年は19種類の高リスク作業に関するガイドラインの策定を開始しました。また、製造拠点を対象とした「無災害認定制度」を開始しました。各製造拠点はこの認定取得・維持を目標として、日々の安全活動と無災害の継続に取り組んでいます。	
	災害度数率(SIR)	0.20	2026年3月期のSIR目標は0.27でしたが、結果は0.28となり、2025年3月期と比較して10%改善しました。特に経験の浅い作業者への教育訓練、およびルール遵守に重点を置いて活動を進めた結果、1年未満の経験の浅い従業員に関する労働災害の比率が約50%低減しました。	
倫理・コンプライアンス	立証されたホットライン報告率	45%	2026年3月期の報告件数のうち、35%が立証されており、14%が部分的に立証されていました。引き続き、ホットラインの利用に関する社内教育などを通じて、目標値の達成に向けた取り組みを進めています。	
	懸念事項報告に対する「報復」件数	0	2026年3月期の懸念事項報告に対する報復件数は0件でした。報復行為とは何を指すのかについて、管理職に加え、従業員に対しても継続的な教育を行っています。	
	競争法、贈収賄汚職関連法違反にかかる課徴金納付	0	2026年3月期の競争法、贈収賄汚職関連法違反にかかる課徴金納付は0件でした。	
	E&C教育実施完了率/有効性	100%/上記KPIの達成・改善	2026年3月期に実施した年次教育では、対象社員の100%が当該教育を修了しました。引き続き、同水準を維持できるよう取り組んでいきます。	
	コンプライアンスプログラムの評価と効果	90%の好評価	2025年3月期に実施した倫理・コンプライアンスに関するカルチャーサーベイにおいて、コンプライアンスプログラムに対する従業員からの好評価率は70%でした。本結果をもとに、改善すべき重要な領域を明確化し、倫理・コンプライアンスについて、従業員のエンゲージメントおよび意識醸成に向けた重点施策を推進しており、新たな倫理規範の展開、コミュニケーション施策の強化、および期待される行動や企業文化の浸透を図るための経営層からのメッセージ発信の拡充に取り組んでいます。	
安全で高品質な製品・サービス	サプライチェーン ● スコープ3	3.2百万トン	2026年3月期のスコープ3は3.4百万トンとなり、対前年比で8%の削減を達成しました。これは、サプライヤーから直接入手した認証済み一次データの割合が向上したことによるものです。現在、スコープ3の75%を占めるカテゴリーについて、一次データを用いています。引き続きサプライヤーと協業し、目標達成に向けて取り組んでまいります。	
	サプライヤーとの協業 ● サプライチェーン憲章の浸透率	63%	金額ベースで60%のサプライヤーがサプライヤー憲章に同意しました。主要サプライヤーに対する個別のアプローチを続けており、目標達成に向けて取り組んでいます。	
	● サプライヤーアセスメントカバー率(金額)	74%	サプライヤーアセスメントカバー率については、金額ベースで73.8%のサプライヤーがEcoVadisのサステナビリティに関する評価を受けました。順調に推移しています。	
	● アセスメント平均スコア(EcoVadis)	60以上	サプライヤのEcoVadisアセスメント平均スコアは60となり、目標レベルを維持しました。低スコアのサプライヤー数が減少する一方、アセスメントを受けたサプライヤー数は対前年比で30%増加しており、全体的が改善が進んでいます。	
	● “多様なサプライヤー”の金額ベース比率	2%	2026年3月期における“多様なサプライヤー”の金額ベース比率は3.7%となり、目標を達成しました。『多様なサプライヤー』に関するポリシーの制定や、多様なサプライヤー向けの契約条件を導入するなど、実践的な支援を提供しています。	
	品質 ● メジャー品質スパイク	0	メジャー品質スパイク(1億円以上）の発生件数は0件となり、目標を達成しました。	

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画「2030 Vision：Shift the Phase」
事業概要
特集 エンプロイヤーブランド
▶ マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

マテリアリティ

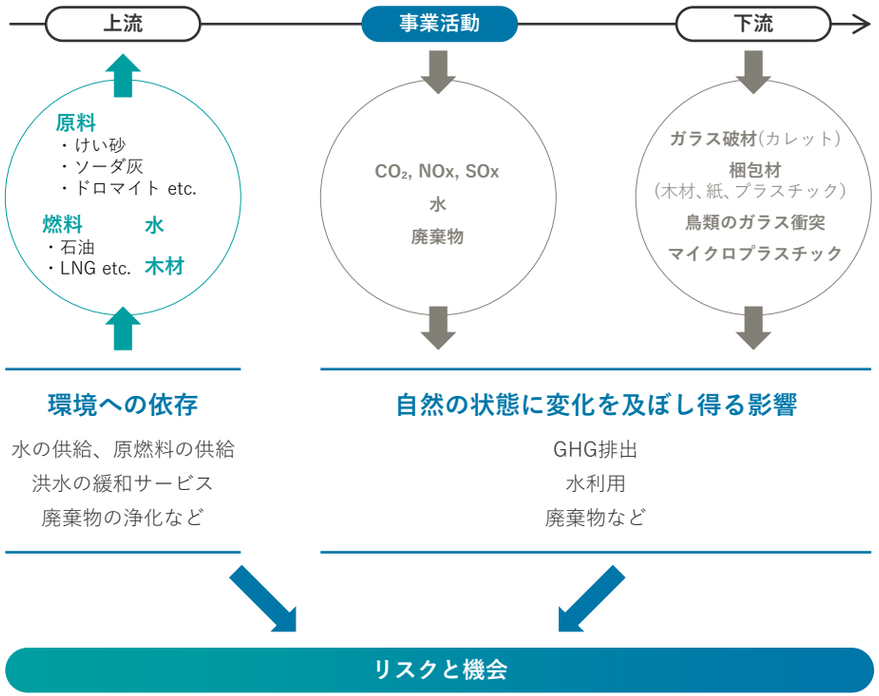
	2027年3月期に向けた目標		2027年3月期 KPI	2026年3月期の進捗状況	関連するSDG s
環境	脱炭素	● 単位生産量あたりCO_2	YoY3%減	2026年3月期のガラス単位生産量当たりCO_2排出量は0.66kgとなり、2024年3月期(0.67kg)対比で3%の改善目標には届きませんでした。対前年比で1.5%の削減となりましたが、再生可能エネルギーの利用可能性やコスト面に課題がありました。年間を通じて複数の改善プロジェクトを実施しており、引き続きこれらの施策に重点的に取り組んでまいります。	
		● 再生可能エネルギー電力比率	65%	2026年3月期の再生可能エネルギー電力比率は35％でした。証書の価格上昇や供給状況の制約を受けましたが、米国オタワ事業所での太陽光発電システムの設置などを継続して推進しました。当社はさまざまな選択肢の中から経済合理性のある最適な調達方法を模索する努力をグローバルで続けています。短期的には財務安定性とサステナビリティの両立を目指しつつ、市場の状況を継続的に注視しながら目標達成に向けて取り組んでいます。	
		● スコープ1+2	絶対量減	スコープ１とスコープ２の絶対量は、2026年３月期までに2018年対比で約18％削減しており、2030年までに2018年対比30％削減の目標に対して順調に推移しています。	
	埋め立て廃棄物		20%削減 (2024年3月期比)	埋め立て廃棄物は2025年3月期の22.4千トンより増加し25.2千トンとなり、12.5%の増加となりました。北米主要工場における不良原料の埋立廃棄が最大の課題です。新たなリサイクルパートナーとの協働を模索するなど、引き続き、グローバルで取り組みを進めています。	
	カレット比率		3%ポイント増 (2019年3月期比)	2026年3月期のカレット比率は、2019年3月期比で2.1%ポイントの増加となりました。当社は顧客と協働して、自動車用ガラスにおける廃車からのガラスリサイクルを行うなど、積極的な取り組みを進めています。	
	水資源		取水量50%減 (2019年3月期比、水ストレス地域)	2026年3月期における総取水量は1.46百万㎥となり、2019年3月期対比で59%削減し目標を達成しました。水ストレス地域であるサンサルボ工場において、水のリサイクリングプロジェクトを継続して実施しており、目標の達成に貢献しています。	
社会シフト・イノベーション	戦略製品の売上構成比		23%から29%に拡大	2026年3月期における戦略製品の売上構成比率は22.2％でした。市場・需要環境の悪化などの影響を受け、売上拡大が進みませんでした。建築分野では、千葉とポーランドでの新たなオフラインコーティング設備を導入しており、高機能ガラス分野では半導体用プリント基板などの基礎原料として使用するガラスペレットの増産などを行っています。新規顧客獲得や市場拡大に向けて、引き続き取り組みを進めています。	
ヒューマン・キャピタル	従業員エンゲージメント	● Your Voice調査の NPS設問における肯定的回答比率	80%	2026年3月期の従業員意識調査「Your Voice」における、Net Promoter Score(NPS)設問*の肯定的回答比率は、前回の調査より3ポイント下がり、75%となりました。目標には届きませんでしたが、結果を全従業員と共有し、Let's talkセッションを開催するなど、引き続きチームのコミットメント形成に向けて取り組んでいます。	
	DEI	● 女性管理職比率	24% (2023年6月末実績16%)	2026年3月期におけるNSGグループの女性管理職比率は18.2%となりました。順調に推移しています。今後も、半期ごとに進捗を確認し、ベストプラクティスを共有し、さらなる向上を目指します。	

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
CEOメッセージ
中期経営計画
「2030 Vision：
Shift the Phase」
事業概要
特集
エンプロイヤー
ブランド
▶ マテリアリティ
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報

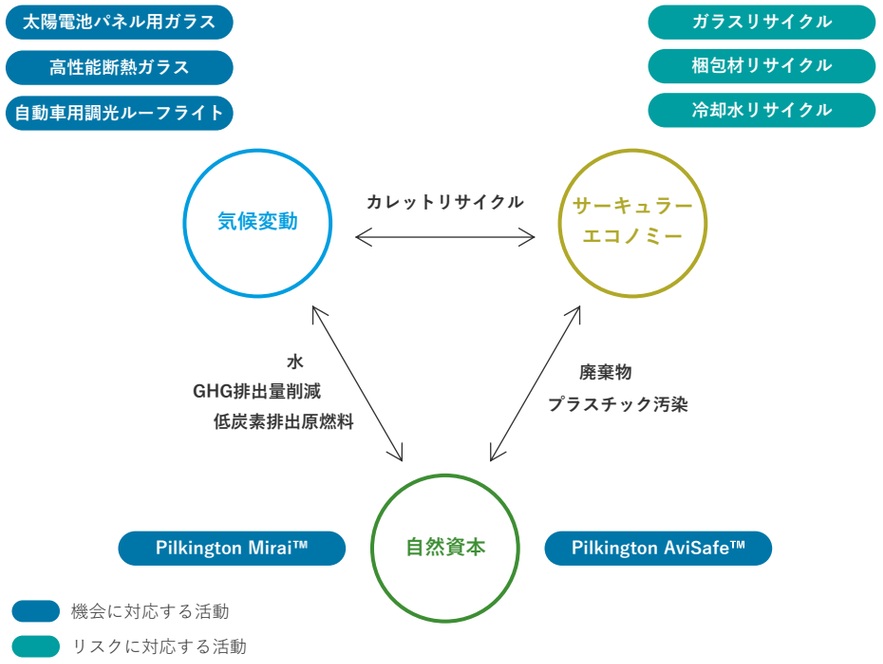
NSGグループのビジネスと環境

当社グループのビジネスは、珪砂やソーダ灰などの原料、ガラス溶融工程における燃料、製造工程における水の使用や、輸送工程における木材など、あらゆる側面において環境に依存しています。また、製造工程からのGHG排出や廃棄物の発生など、当社のビジネス活動が環境への影響を及ぼしています。
このような関係が、当社ビジネスにリスクと機会をもたらしています。当社グループは、気候変動、サーキュラーエコノミー、自然資本に対する取り組みを通じて、環境に対する影響を低減すると共に、当社製品を通じた環境負荷の低減に貢献してまいります。

当社のビジネスと環境の関係



ネイチャーポジティブへの道



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
▶ ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

NSGグループの脱炭素・環境負荷低減への取り組み

エネルギー集約型・炭素集約型の製造業である当社グループにとって、気候変動への取り組みは必要不可欠であり、当社製品・サービスを通じた脱炭素社会への貢献は「快適な生活空間の創造で、より良い世界を築く」という当社グループの使命を果たすことにもつながります。気候変動等の社会的課題全般に積極的に取り組み、持続可能な社会への貢献と企業価値の向上に努めています。当社グループは引き続き気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)に賛同しており、2019年にSBTi*1認定されたスコープ1*2およびスコープ2*3の目標引き上げとスコープ3*4の目標追加を実施し、2022年5月にスコープ1,2,3すべての温暖化ガス削減目標についてSBTiの認定を取得しました。また、2050年のカーボンニュートラルの達成もコミットしています。達成に向けたロードマップの実現により、CO_2排出量の削減、ひいては当社の事業による貢献を支える戦略製品の継続的な開発と当社事業に関連する機会の拡大につなげます。

*1 SBTi：CDP(旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)、国連グローバル・コンパクト、WRI(世界資源研究所)およびWWF(世界自然保護基金)による共同イニシアティブで、気候変動リスクの低減に向けて企業に対し、科学的知見と整合した温室効果ガス科学的知見と整合した温室効果ガス削減目標の設定を推進しています。
*2 スコープ1:事業者からの直接排出（製造工程における燃料の使用等）
*3 スコープ2:ロケーション基準: エネルギー起源の間接排出(製造工程における購入電力等)
*4 スコープ3:組織活動の上流と下流を含むバリューチェーン上の排出
当社が排出するGHGの99.9%以上はCO_2であるため、CO_2のみについて言及

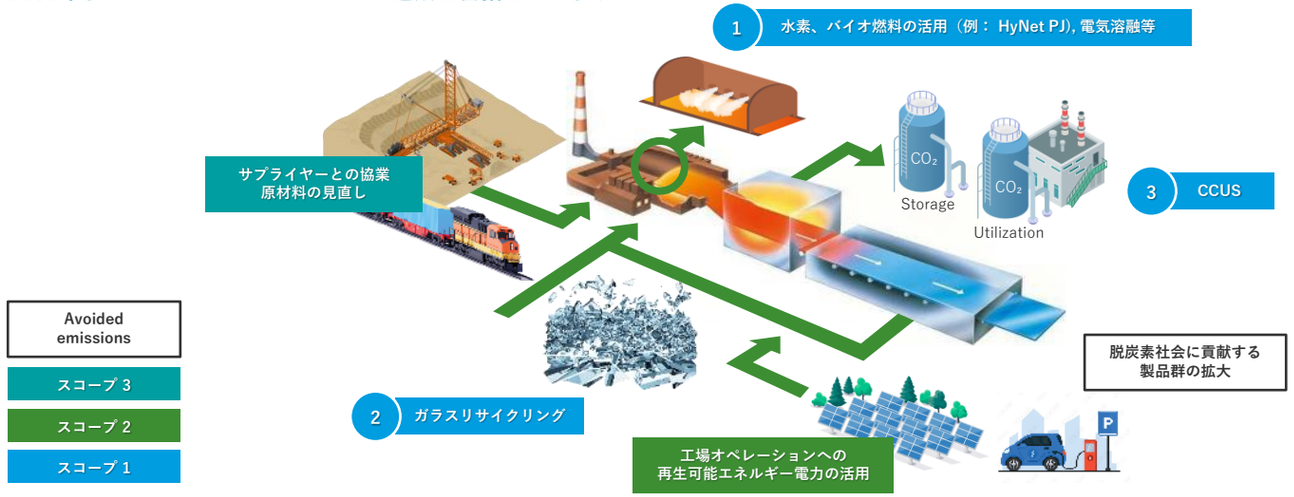
SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



※2025年1月-12月の合計値

脱炭素化への取り組み

NSGグループは、2030年までにCO_2排出量を30%削減、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指しています



スコープ1（自社排出）の削減に向けた取り組み

スコープ1のCO_2排出量は257万トン(2024年は270万トン)でした。これらの直接排出は、製造プロセス内の化石燃料の燃焼、およびガラス溶融プロセスにおける炭酸塩原料の分解の組み合わせから発生します。当社はスコープ1の排出量削減に向け、さまざまな技術的選択肢を引き続き実施しております。

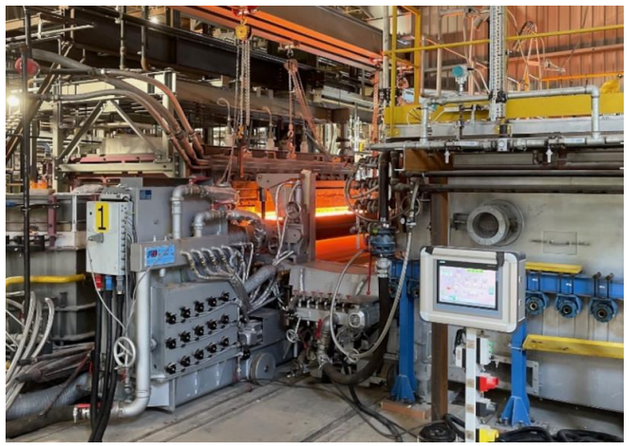
1. **代替燃料の使用**：2021年9月に世界で初めて水素エネルギーを利用した建築用ガラスの製造に成功*5、また2022年2月にバイオ燃料を100%利用したガラス製造にも成功する等、積極的な技術開発の取り組みを行っています。
2. **ガラスの電気溶融**：ガラス製造工程における化石燃料の代替として再生可能電力の使用量を増やす取り組みを計画しています。フロート窯の定期修繕や補修にあわせて、電気溶融能力を拡大するための設備の導入や整備を進めています。
3. **ガラス製造原料の代替**：ガラス溶融工程では、ガラス製造の原料である炭酸塩鉱物が炉内で分解することにより、大量のCO_2が排出され、ガラス溶融における当社のスコープ１排出量のおよそ20%を占めています。この原材料由来のCO_2排出量を削減するために、材料の炭酸塩をさまざまな酸化物に置き換える試みを行っています。2022年には、チリのフロート窯で「ドライム(CaOMgO)」を使用したガラス製造に初めて成功しました。これまでの研究により、原材料由来のCO_2削減効果に加え、ドライムを使用することによるエネルギー削減の効果もあることがわかってきました。粉体のハンドリングが今後の課題です。研究開発活動では、より低炭素の代替原材料の特定を進めており2025年には実証実験を行いました。引き続き取り組みを進めています。

*5 英国事業所にグリーン水素製造プラントを設置

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
▶ 気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

4. **カーボンキャプチャー**：ガラス溶融窯から排出されるCO_2を回収するプロセスは、一般的なCO_2回収プロセスとは異なります。2025年も、引き続きCCS/CCUSの導入に関する研究開発が進められました。現在、さらなる実証実験の機会創出に重点を置きながら、さまざまなソリューションを提供する企業について案件ごとに評価を行っています。これらのプロジェクトでは、2024年に英国工場でC-Capture社と実施した実証実験で得られた知見をベースとしています。
5. **製造工場の統合**：NSGグループは2025年に、もう一つの世界初の取り組みを達成しました。それは、英国・セントヘレンズにあるグリーンゲートのフロートガラス製造拠点への、型板ガラス製造ラインの移管です*6。この移管では、フロート窯の生産を維持しながら、新しい型板ガラス製造ラインをフロート窯に接続し設置しました。1つの窯から型板ガラスとフロートガラスの両方を製造するこの統合により、スコープ1およびスコープ2のCO_2排出量が年間約15,000トン削減されると見込まれています。こうした操業の統合は、グループの脱炭素化活動の一環であり、製品の環境持続可能性の向上に貢献しています。

英国・グリーンゲート事業所の型板ガラス製造ライン



スコープ2(自社排出)の削減に向けた取り組み

スコープ2のCO_2排出量(マーケット基準)は、53万トン(2024年は53万トン)でした。これらの間接的な排出は、購入した電気と熱の使用から発生します。

2024年に発表された中期経営計画を受け、当社グループは再生可能電力の比率向上という新たなサステナビリティ目標を設定しました。この目標では、2027年3月期末(中期経営計画フェーズ1)までに再生可能電力比率を65%、2030年3月期末(中期経営計画フェーズ2)までに85%に引き上げることを目指しています。NSGグループが操業している複数の国において、実現可能な再生可能電力ソリューションの調達可能性やコスト面に課題があったため、2025年におけるこの目標に向けた進捗は限定的でした。そのため、2025年の再生可能エネルギー電力比率は35%となり、2024年の36%と同水準でした。引き続き財務安定性とサステナビリティの両立を図りながら、目標達成に向けて取り組んでいきます。

当社グループでは、英国レイザム研究所や米国オハイオ州ロスフォード工場など、オンサイト太陽光発電の導入を引き続き進めています。グループ全体で多くの太陽光発電プロジェクトが進行中であり、米国・オタワのフロートガラス工場では、最大規模のオンサイト太陽光発電設備が最近稼働を開始しました。*7また、発電源証明の購入や再生可能電力の長期購入契約(PPA：Power Purchase Agreement)等も、グローバルで積極的に導入を進めています。

2024年3月には、当社舞鶴事業所において、当社グループの国内事業所としては初めて、事業所敷地内に設置する太陽電池パネルから生成される再生可能電力のPPA契約を締結し、*8同年に試験稼働を完了しました。2025年も引き続き同事業所に電力が供給されました。昨今の世界的なCO_2削減を背景とした市場におけるグリーン電力の需要が増加し、購入電力価格高騰のリスクがある中、当社はさまざまな選択肢の中から経済合理性のある最適な調達方法を模索する努力をグローバルレベルで続けており、再生可能エネルギーの中長期的な安定調達を目指しています。

オタワ事業所



舞鶴事業所



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
▶ 気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

*6: 英国・グリーンゲート事業所に移設した型板ガラス製造ラインが稼働

*7: 米国・オタワ事業所に太陽光発電システムを新設

*8: 舞鶴事業所内の太陽光発電による長期電力購入契約（PPA）を締結 (nsg.co.jp)

スコープ3の削減に向けた取り組み

スコープ3のCO_2排出量は340万トン(2024年は363万トン)と検証されています。2024年、NSGグループは2018年から2023年までのスコープ3排出量を再計算することを決定しました。これは、より堅牢なスコープ3排出量の算出手法が確立されたことを受け、外部からのフィードバックや社内レビューを踏まえて決定されたものです。新たな算出手法はSBTi(Science Based Targets initiative)によって承認されています。この再計算の結果、2018年から2023年の各年におけるスコープ3排出量は増加しました。2026年3月期も引き続き同様の算定手法により算出しました。

スコープ3排出量の詳細は、以下の通りです。2018年以降、スコープ3排出量は年々改善されており、2025年は、2018年の基準値に対し絶対量で約12%削減されています。

スコープ3の排出量削減の取り組みは、ESG全般を対象とするサステナブル・サプライチェーン委員会のもとで継続的に管理されています。2026年3月期においては、特に影響度の高いサプライヤーに重点を置き、脱炭素に関する取り組みの理解を深めるための活動を実施しました。これらのワークショップから得られた知見は、全社的なスコープ3ロードマップの継続的な改善に活用されています。特にスコープ3排出量算定におけるデータ収集の改善が進みました。具体的には、算出手法において活用する、サプライヤーから直接入手した一次データ(排出係数)の比率が継続的に増加し、スコープ３の排出量の削減に大きく寄与しました。各拠点においてはスコープ3排出量の削減に向けて、継続的に改善活動を推進することが奨励されています。グループ内の各事業所で実施されている施策は全拠点で共有され、ベストプラクティスの横展開を通じて、スコープ３の排出量削減に向けた継続的改善を推進しています。各拠点での施策は、地域別カーボンマネジメント委員会において定期的に報告されています。

このような当社グループのサプライチェーンにおけるマネジメントは、CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)のサプライヤー・エンゲージメント評価において、最高評価である「A」を取得し、「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に4年連続で選定されました。

Supplier Engagement Leader
CDP
2025

CO_2排出量（スコープ３）内訳 *GHGプロトコルガイドラインに従い、売却した事業所に由来する排出量を、過去の排出量から減算しました 。

	カテゴリー	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
1	購入した製品・サービス	2,218	1,872	2,059	2,192	2,223	1,480	1,709	1,674
2	資本財	42	100	66	75	75	59	72	43
3	スコープ1, 2 に含まれない燃料・エネルギー活動	526	515	454	557	511	475	545	504
4	輸送・配送（上流）	59	57	54	59	58	53	58	39
5	事業から出る廃棄物	11	10	17	16	16	1	2	2
6	出張	9	8	1	0	3	4	3	3
7	従業員の通勤	13	10	2	2	2	11	15	15
8	リース資産(上流)	0	0	0	0	0	0	0	0
9	輸送・配送（下流）	158	145	224	168	175	260	241	202
10	販売した製品の加工	600	600	600	600	600	553	714	643
11	販売した製品の使用	0	0	0	0	0	0	0	0
12	販売した製品の廃棄	10	10	10	11	11	11	6	5
13	リース資産(下流)	0	0	0	0	0	0	0	0
14	フランチャイズ	0	0	0	0	0	0	0	0
15	投資	200	200	200	200	170	243	261	266
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計（千トン）	3,846	3,528	3,687	3,880	3,843	3,152	3,625	3,397

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
▶ 気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

TCFDに沿った情報開示

ガバナンス

気候関連のリスクと機会は取締役会によって監督されており、グループCEOおよび取締役会は、気候変動を含むグループのサステナビリティ活動の基本方針と目標を定めています。気候変動関連の課題は、すべてのサステナビリティ目標の達成と、関連するすべての事業につなげることを目的として、経営会議、サステナビリティ委員会、戦略的リスク委員会で議論されています。これには、企業の成長と積極的な社会貢献の双方を達成するためのリスク分析と機会分析に基づく戦略や行動等が含まれます。各事業部におけるエネルギーやCO_2排出量削減状況等、それぞれの分野での活動や進捗は、サステナビリティ委員会の下部委員会において管理されています。2026年3月期においては、2022年5月にSBTiの認定を取得した新目標の達成に必要な、脱炭素化行動計画の進捗状況および活動の優先順位付けを議論しました。また、中期経営計画とサステナビリティ戦略を整合させてDecarbonizationを含めた4つの「D」の実現を支援すること、さらに社会へのポジティブ・インパクトに貢献する製品群の特定と、中期経営計画の中でそれぞれのマテリアリティにおける2030年の目指すべき姿を定め、そこからバックキャストすることにより、2025年3月期から2027年3月期までの中期経営計画フェーズ1、および2028年3月期から2030年3月期までの中期経営計画フェーズ2におけるそれぞれのKPIを策定しました。

NSGグループのサステナビリティに関するガバナンス体制

会議体名	役割	対応するマテリアリティ
取締役会	基本方針/目標策定	
経営会議	戦略/中長期計画&目標	
サステナビリティ委員会	目標と重要事項に関する進捗管理 ← 進捗報告	
エネルギー＆カーボン委員会		環境
サプライチェーン委員会		安全で高品質な製品・サービス
タレント・オーガナイゼーション委員会		ヒューマンキャピタル
倫理・コンプライアンス委員会		倫理・コンプライアンス
安全衛生委員会		健康と安全
ビジネス・デベロップメント委員会		社会シフト・イノベーション
戦略的リスク委員会	企業リスク管理	

リスク報告

戦略

短期・中期・長期の気候変動に関連するリスク・機会および対応について

当社グループでは、短期(1-2年)、中期(2-4年)、長期(5年以上、通常15年まで)の気候変動に関連するリスクと機会について、次の３つの主要シナリオに従ってリスク分析を行い、2100年までのタイムスケールにおける物理的リスクと移行リスクを特定しています。

低炭素世界シナリオ（<2℃）	低炭素経済への移行を目指し、今後30年間に炭素排出量を抑制するための積極的な緩和策を講じるシナリオ。
RCP 4.5 中位安定化シナリオ（2-3℃の温度上昇）	現在の政策、誓約、目標が達成されることを想定した、中間的シナリオ。
RCP 8.5 高位参照シナリオ（>4℃）	物理的リスクを回避するための施策をほとんど何も行わず、排出量を増やし続けた結果、世界の気温は大幅に上昇し続け、壊滅的な結果を迎えるシナリオ。

特定されたリスクと機会には、次の影響が含まれます。

現在の規制	欧州エネルギー指令に関連した高性能製品の供給機会等
新たな規制	新しい排出量取引スキーム（ETS）による製造コスト増加のリスク、高性能な省エネ建築部材を共有する機会につながる新たな欧州排出量取引制度（ETS）
技術開発	EV市場や省エネルギー建築物市場の成長等
法令遵守	将来のコンプライアンスに対応するためのリスクとコスト、より高性能な製品需要の機会、NSGの競争力のある製品開発等
市場	顧客による建物/自動車の効率化につながる仕様に基づく製品開発の機会
社外からの評判	顧客等のステークホルダーからの評価に関連するリスク
突発的物理的リスク	洪水、台風リスクが事業とバリューチェーン(供給継続性)に与える影響、特定の製品開発の機会(防風窓ガラス等)
慢性的物理的リスク	現在および将来の事業やバリューチェーンに影響を及ぼす海面上昇等

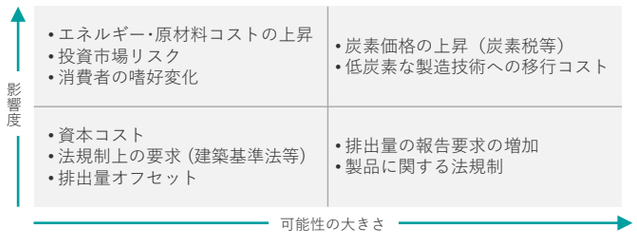
目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
▶ 気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

気候変動・TCFD

特定されたリスクと機会は、当社グループの標準的なリスク管理フレームワークに従って定量化と分類、優先順位付けを行っています。それには、ポリシーと法的側面、技術側面、市場側面、評判の側面における影響も含みます。昨年より、欧州CSRD等の法規制の追加や、生物多様性、循環性、地域社会への影響といったステークホルダーの視点からも分析の見直しを行っています。この分析に基づき、NSGグループの次期中期計画が策定されます。

年間影響と移行リスク可能性の評価範囲

2050年ネットゼロシナリオ下での長期的視野（2035年）における残留リスク:



特定されたリスクのうち影響度や緊急度が高いリスクの例

気候変動がNSGグループに及ぼす影響		影響度	緊急度
移行リスク 低炭素世界シナリオ	炭素価格の上昇（炭素税等）	**大** >40億円/年	高
	低炭素な製造技術への移行コスト	**大** >40億円/年	高
	エネルギー・原材料コストの上昇	**大** >40億円/年	中
	投資市場リスク 東証プライムの非適合*	**大** >40億円/年	中
物理リスク RCP8.5, 4℃シナリオ	干ばつによるストレス	**中** 10 – 20億円/年	中
	慢性的な気温上昇	**小** 1.2 – 10億円/年	中

*評価対象期間：2025年4月1日から2026年3月31日

このように特定されたリスクと機会は、当社グループが発表した中期経営計画「2030 Vision : Shift the Phase」の中でさらに強化され、施策や対策が行われます。その取り組みが、例えば、サプライチェーンにおけるCO_2排出量を含むさまざまな持続可能性の側面に焦点をあてた「サステナブル・サプライチェーン」プロジェクトの発足や、温室効果ガス排出量削減に向けた研究・技術開発への投資、社会の脱炭素化を支える新製品の開発等につながりました。サステナブル・サプライチェーンプロジェクトの活動により、2023年には「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」が発行されました。このような活動は、「快適な生活空間の創造で、より良い世界を築く」という当社グループの使命と一致しています。

また、前述した複数の温暖化シナリオに基づき、気候変動に対するレジリエンスの定量的・定性的な分析と、今後実施すべき行動の優先順位付けも行いました。その結果、当社グループにとって最も影響度が高く可能性も大きいリスクは、GHG排出に関連するコストの増加であるとの分析結果に基づき、中長期にわたるグループの脱炭素目標を策定しました。当社グループが策定した削減目標は2019年にSBTiにより認定されましたが、2022年には、パリ協定の2°Cを十分に下回る温暖化シナリオに沿った、より野心的な目標に更新しています。

この目標を遵守することで、気候変動に関する物理リスクと移行リスク双方に対するグループのレジリエンスが向上します。2024年も継続してレビューが行われました。

リスク管理

気候関連のリスクは、戦略的リスク委員会が特定・監視を行い、財務への影響、事業への影響、コンプライアンスへの影響、外部評価への影響の４つのベクトルについて定量的基準で評価しています。戦略的リスク委員会は、リスクに対応する統制と緩和策を評価し、必要に応じて追加措置の実施を指示します。リスクオーナーは、グループの許容範囲内でリスクを管理するために、決められたアクションプランに対応する進捗状況をモニタリングし、報告する責任を負っています。個々の統制と対策は、各事業部(SBU)およびグループファンクション内で進捗管理され、経営会議およびサステナビリティ委員会に報告されます。戦略的リスク委員会に報告された特定のリスクと機会は、リスクマネジメントと事業戦略の統合を確実にするため、定期的に(最低６か月に１回以上)経営会議に報告されます。

指標と目標

当社グループは、グループ内(スコープ１、２)、サプライチェーン(スコープ３)および顧客(スコープ３)全体に影響を与えるすべての温室効果ガス(GHG)排出量をモニタリングしています。当社グループのSBTの基準年(2018年1月から12月の１年間合計)におけるCO_2排出量は以下の通りです。GHGプロトコルガイドラインに従い、売却した事業所に由来する排出量を、減算しています。

スコープ1	スコープ2		スコープ3
	ロケーション基準	マーケット基準	
2,960千トン	1,001千トン	841千トン	3,846千トン

最新年(2025年１月から12月の１年間合計)の３つのスコープのCO_2排出量は以下の通りでした。

スコープ1	スコープ2		スコープ3
	ロケーション基準	マーケット基準	
2,573千トン	638千トン	533千トン	3,397千トン

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
▶ 気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

気候変動・TCFD

（千トン）	スコープ1	スコープ2		スコープ3
		ロケーション基準	マーケット基準	
2018	2,960	1,001	841	3,846
2019	2,819	834	740	3,528
2020	2,681	681	484	3,687
2021	2,889	704	578	3,880
2022	2,785	694	518	3,843
2023	2,794	706	492	3,152
2024	2,696	693	527	3,625
2025	2,573	638	533	3,397

※ CO_2排出量は各年度１月から12月の１年間合計
※ GHGプロトコルガイドラインに従い、売却した事業所に由来する排出量を、過去の排出量から減算しました 。当社グループは2024年にスコープ３の温室効果ガス（GHG）排出量について、より高い精度とカバー範囲を確保し、ベストプラクティスに準拠するよう、計算方法を見直しました。この手法は引き続きSBTiとGHGプロトコルガイドラインに従っています。2023年よりこの計算方法でスコープ３を算出しています。2025年（2026年3月期）も引き続きこの計算を方法用いて排出量を計算しました。

さらに、2018年から2025年までのCO_2排出量の傾向は上記の通りです。

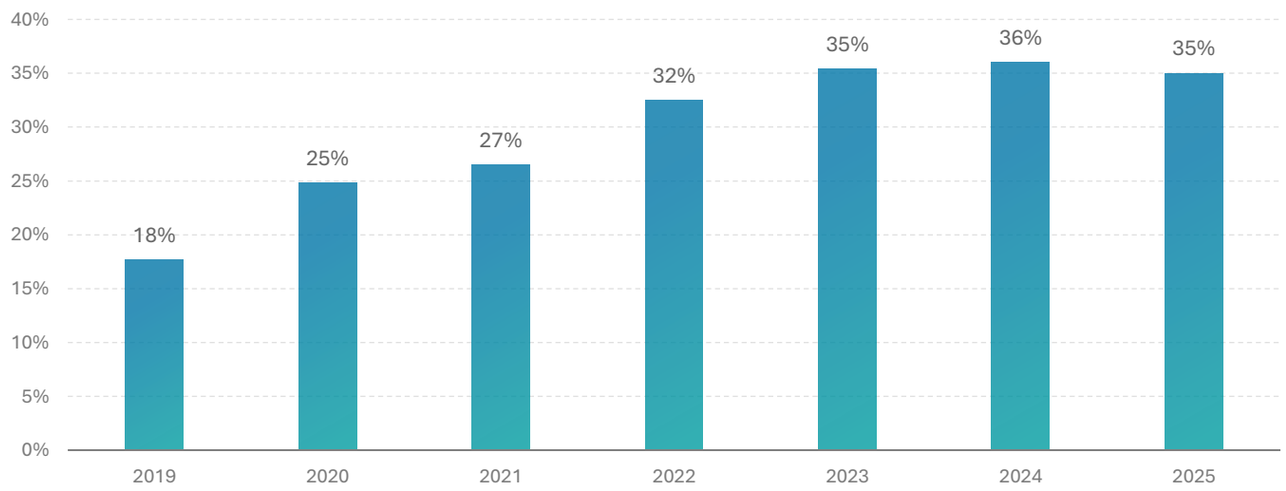
2024年5月に発表した中期経営計画においても引き続き、ガラス製造工程における生産単位量当たりの温室効果ガス排出量を、対前年比で3%削減するという目標を継続して掲げています。2026年3月期における実績値は0.66(2025年3月期は0.67)であり、3%の改善目標には届きませんでした。前年度対比で1.5%削減となりましたが、再生可能エネルギーの利用可能性やコスト面の課題により、対前年比3%という目標の達成は容易ではありませんでした。こうした状況の中でも、3%削減の目標を達成するために、年間を通じて複数の改善プロジェクトを実施しました。2026年も引き続き重点的に取り組む予定です。

当社グループは、スコープ1とスコープ2のCO_2排出量を2030年までに21％削減するという目標について、2019年にSBTiの認定を取得しましたが、2021年にこの目標を見直し、より野心的な目標に引き上げると共に、スコープ３の目標を設定しました。改訂後は、スコープ１とスコープ２、およびスコープ３のCO_2排出量を2030年までに2018年対比で30％削減するという目標です。目標設定としては1.5°Cシナリオが望ましいことは認識していますが、そのためには当社のCO_2排出量の半分近くを占めるスコープ1の排出量を大幅に削減(半減)する必要があります。当社のスコープ１はガラス溶融工程での化石燃料の燃焼によって発生するため、スコープ１の排出量を削減するには再生エネルギー由来の燃料等への転換を行う必要があります。燃料転換に必要な技術開発は進んでおり、それほど大きな設備投資が必要となるわけではありませんが、当社が必要とする量のグリーン燃料が適切な価格で供給される時期は2030年以降と予想しています。従って、1.5°Cシナリオではなく2°Cを十分に下回るシナリオで目標を設定しています。この目標は、2022年5月にSBTiの認定を取得しました。スコープ2の削減に関しては、2027年3月期までに再生可能電力の割合を65%にするという目標が掲げられています。2025年の再生可能電力の割合は35%でした(2024年は36%)。市場の状況を継続的に注視しながら、目標達成に向けて取り組んでいます。

2025年3月期において、NSGグループはサステナビリティ目標達成に連動した借入契約(サステナビリティ・リンク・ローン)を新たに締結しました。この借入契約では、3つの気候変動に関する影響評価指標(KPI)が設定されています。これらのKPIは、前述のCO_2排出量(スコープ1およびスコープ2)の削減など、NSGグループの温室効果ガス削減目標、およびカーボンニュートラル達成目標に沿ったものを含むものですが、さらに、スコープ3のCO_2排出量(スコープ3カテゴリ1：購入した製品およびサービス)に特化したKPIが新たに導入されました。このKPIの追加は、SBTiに承認されたスコープ3削減目標の達成に対するグループの強いコミットメントを示すものです。

また、当社グループは、日本の経済産業省が設立したGXリーグに2024年より参画しています。2026年から義務化が始まる排出権取引制度(GX-ETS)に関しては、現在、業界団体を通じて制度設計に関する議論に参加しています。

NSG グループ - 再生可能電力比率



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
▶ 気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

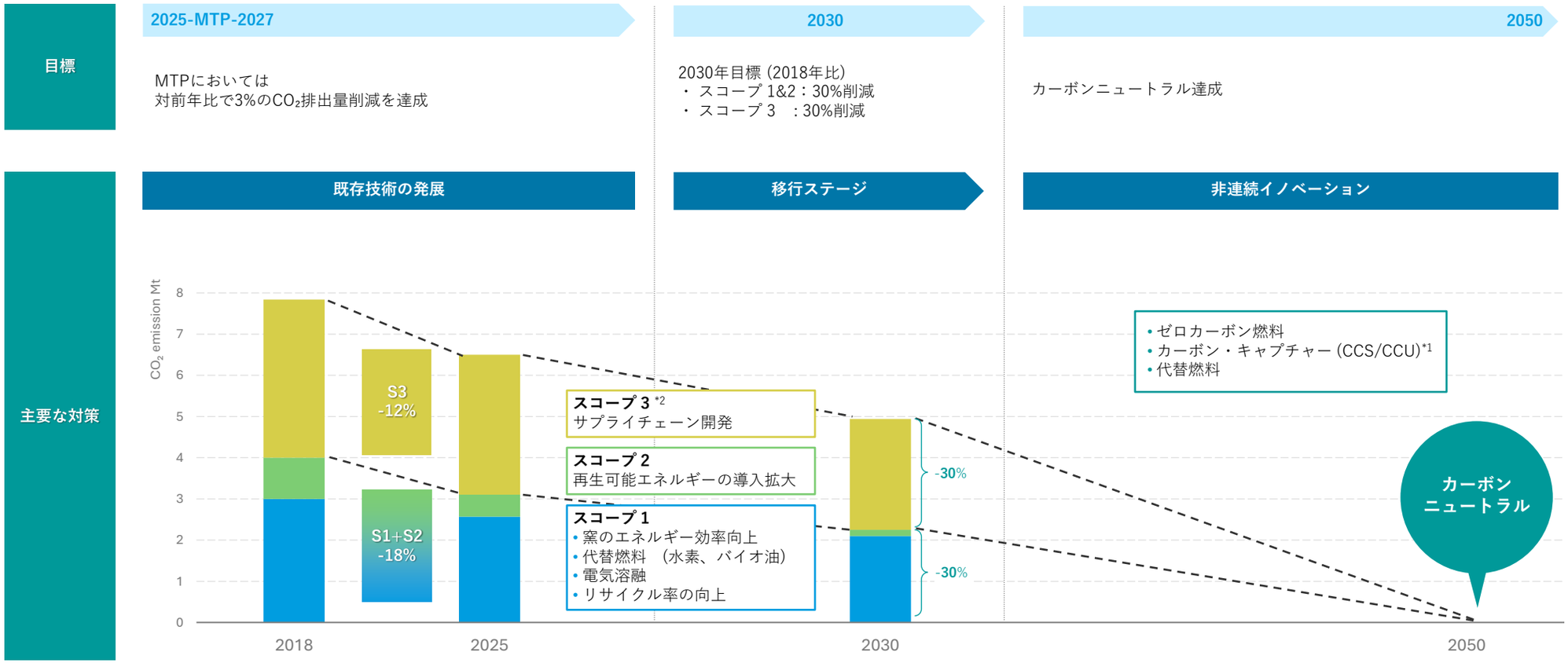
カーボンニュートラル

当社は2050年のカーボンニュートラルの達成をコミットしています。これは、当社グループの使命「快適な生活空間の創造で、より良い世界を築く」に沿うものであるとともに、お客様や投資家からの要請、当社従業員の期待に応えることにもなります。

フロート操業による排出量を削減するための活動は、従来、使用燃料を重油から天然ガスに転換することに重点が置かれてきました。これにより、過去40年間にわたってCO_2排出量を約50%削減することができました。大幅な設計変更やさまざまな操業上の工夫と組み合わせることで、私たちはさらなる進歩を続けています。この操業効率の向上は、NSGグループの脱炭素化ロードマップにおける重要な要素のひとつであり続けています。

以下に掲げるロードマップは、全社レベルおよび各製造拠点で行動計画として組み込んでいます。このロードマップの実施により、CO_2排出量の削減、環境貢献製品の継続的な開発と当社事業に関連する機会の拡大につなげます。

2050年カーボンニュートラル達成へのロードマップ



*1：二酸化炭素の分離回収と有効利用
*2：データ収集方法の見直しに伴いスコープ3の基準値を更新

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
▶ 気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

事業を通じた貢献

makechange™

NSGグループは、持続的な社会への貢献だけではなく、中長期的かつ持続的な企業の成長にも重要な課題であることから、当社のマテリアリティの一つに「環境」を掲げています。独自性が高く付加価値のある製品とサービスのタイムリーな提供を通じて、気候変動や生物多様性といった社会の重要課題の解決に貢献することを目指しています。



Business Developmentと戦略製品

NSGグループは、2030年に向けた中期経営計画「Shift the Phase」のもと、ガラスとその関連技術を核とした価値創造を加速しており、その中心にあるのが「Business Development」です。社会課題の解決と企業の持続的成長を両立するため、各事業部門がそれぞれの市場特性と技術力を活かし、新たな製品・サービスの開発に取り組んでいます。当社グループは、マテリアリティの一つである社会シフト・イノベーションの目標として、戦略製品の売上比率向上を掲げており、目標達成に向けて継続的に努力しています。以下、各事業部におけるサステナビリティと製品を通じた取り組みについて紹介します。戦略製品については、事業概要の項も参照ください。

建築用ガラス事業

建築用ガラス事業では、脱炭素社会の実現に向けて、建築物の省エネ性能と再生可能エネルギー活用を推進させる製品開発が進められています。2026年3月期には、環境対応製品である省エネガラス向けコーティング設備の生産能力を増強しました。

- 薄膜太陽電池パネル用ガラスやコーティングガラスは、脱炭素社会への貢献と建築物の省エネ性能向上に寄与する戦略製品です。
- オンライン・オフラインコーティング技術を活用した、複層ガラス、真空ガラス（スペーシア®）などは、建築物の断熱・遮熱性能を高め、都市のエネルギー効率向上に貢献しています。今後も新たな設備導入や技術開発により、製品の差別化と供給体制の強化を進めていきます。

自動車用ガラス事業

自動車用ガラス事業では、EV化・自動運転化の進展に伴い、自動車用ガラスの機能高度化が求められています。

- 世界最高品質のフロントドア用紫外線および赤外線カットガラスは、快適性と省エネ性能を両立する製品として、長年に渡り多くのユーザーにご愛用いただいています。又、先進運転支援システム対応フロントガラスは、次世代自動車の安全性向上に不可欠な存在となっています。
- さらに、調光機能付きルーフガラス、拡張現実ヘッドアップディスプレイ（Augmented Reality Head-Up Display, AR-HUD）対応フロントガラス、および加熱機能付きフロントガラスなど、快適性と安全性に加えて先進性を兼ね備えた、高機能製品群の開発・供給が始まっています。

高機能ガラス事業（クリエイティブ・テクノロジー）

高機能ガラス（クリエイティブ・テクノロジー）事業は、顧客製品の進化に貢献する独自の素材開発を行い、多くの市場セグメントにわたって、省エネおよび持続可能性の向上に寄与しています。

- 今後の環境課題の解決に向けては、各種部材の軽量化に貢献する高強度・高耐熱・高弾性のガラス繊維があります。また、長年にわたり当社が培ってきたオプティクス領域では、プリンター用レンズをはじめ、光通信や製品の不良削減に寄与する自動光学検査装置向けのガラスレンズ、ディスプレイ向けの高強度の薄板ガラスなどを展開しています。高速通信の進展に対応するデジタル関連領域では、低誘電特性を持つガラスフレークや、多様な光通信デバイス向けのコーティング液などを提供しています。
- グローバルマーケティング機能の拡充や、研究開発部門との連携により、事業開発の加速化を図ります。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
▶ 事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

当社製品の使用による世の中のCO_2排出量削減への貢献（削減貢献量）

当社の高い薄膜形成技術により製造された高付加価値ガラス製品は、再生可能エネルギーの創出や建築物における冷暖房削減を通じて、世の中のCO_2排出量の削減に貢献しています。

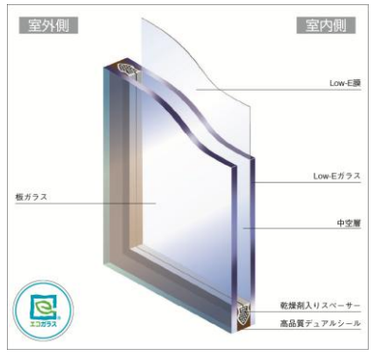
再生可能エネルギー創出による貢献

当社が提供する透明導電膜(TCO)付ガラスは、薄膜系太陽電池における重要な構成部品です。
ファーストソーラー社によると、同社は2002年から2025年までの間に100GW以上の太陽光発電による再生可能電力エネルギーを創出しており、当社グループはこの再生可能なエネルギーの創出に大きく貢献しています。当社のガラス製品が持つ、高い光透過性や優れたエネルギー変換効率などの特性を通じて、ファーストソーラー社のソーラーパネルによる再生可能エネルギーがもたらす低炭素社会の実現に貢献しています。

また、当社のガラスフレーク製品は、洋上風力発電設備の塗装材料として重要な役割を担っています。過酷な海洋環境下において優れた防食性能を発揮し、設備の劣化を抑制することで、メンテナンス頻度の低減に寄与します。ガラスフレーク入り塗料の重防食効果は、補修塗装が難しく耐久性が求められる領域で採用され、洋上風力発電設備はその主力の1つです。耐用年数が向上し、長期にわたる安定的な発電を可能にします。
当社製品の塗装が採用された洋上風力発電設備は、耐用年数の向上を通じて、間接的に再生可能エネルギーの安定供給を支えています。これにより、風力発電による累積発電量の拡大を通じて化石燃料由来の発電を代替し、CO_2排出削減に貢献しています。
当社は、このような製品提供を通じて、再生可能エネルギーの普及と低炭素社会の実現に貢献してまいります。

高断熱Low-E複層ガラスによる建物の冷暖房起因CO_2排出量の削減

当社のLow-E複層ガラスは高い断熱性能を有することから、建物における冷暖房起因のCO_2排出量を削減する効果があります。地域を日本に限定した上で、活動量の把握が可能な一部の建物*についてその効果を算出したところ、2024年4月から2025年3月の1年間に当社が販売したLow-E窓ガラスによる、建物寿命を通じたトータルのCO_2削減量は、約15万トンでした。一方、代表的な窓ガラスの1年間における製造時CO_2排出量は約8.4万トンでした。当社のLow-E窓ガラスを採用することで、製造時の排出量を十分に上回るCO_2削減効果を発揮していることがわかります。

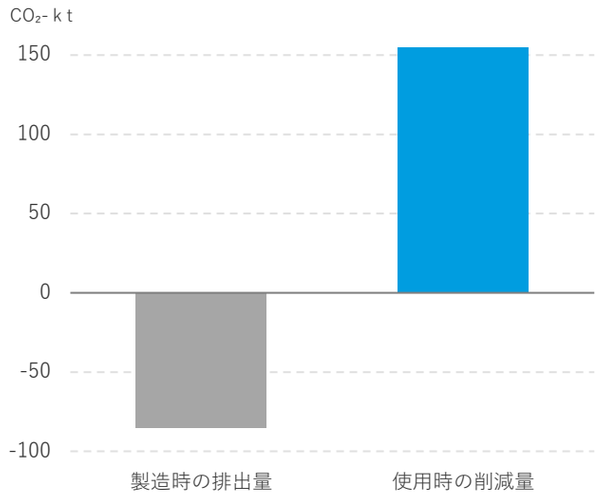


*検討条件
住宅(戸建住宅、共同住宅)および非住宅(事務所)について、
板ガラス協会が提供するエコガラスシミュレーション を用いて試算。
地域区分は6地域(東京23区、大阪市など)、新築(等級4)を選択。
製造時の排出量は、
“建築物におけるガラスの品種毎のエンボディドカーボンの算定”
一般社団法人板硝子協会、2025年9月 日本建築学会にて発表)を参照して算出。

	戸建住宅	共同住宅	非住宅（事務所）
対象製品	Low-E複層及びトリプル (LE3-A12-FL3)	Low-E複層ガラス (LE6-A12-FL6)	Low-E複層ガラス (LE10-A12-FL10)
比較製品	透明複層ガラス (FL3-A12-FL3)	透明複層ガラス (FL3-A12-FL3)	透明単板ガラス (FL)
ガラス使用期間	20年	20年	30年

注：今回の算定はガラスによる貢献に着目して算出しています。
窓枠には対象製品と比較製品とで同じ材料(アルミ)を用いています。

2024年4月から2025年3月に当社が日本で販売した Low-E窓ガラス等によるCO_2排出量とCO_2削減量の比較



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
▶ 事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

建築用ガラス事業および太陽電池パネル用ガラス

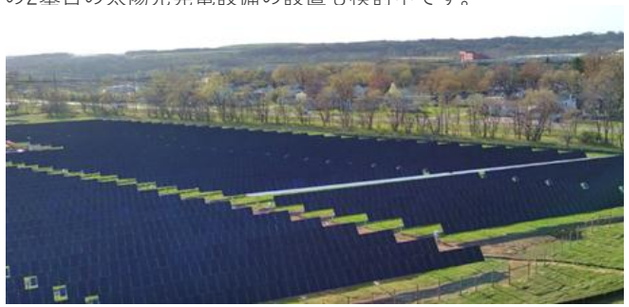
当社グループの優れた性能を持つ製品は、環境・社会課題の解決に貢献する重要なソリューションとして、建築物のさらなる省エネルギー化やCO_2排出量の削減を支えるとともに、重要な成長機会にもなっています。以下、当社の事業による貢献(サステナビリティと製品)の一例を紹介します。

NSGグループのオンラインコーティング能力拡大

NSGグループは、2025年初頭に米国オハイオ州ロスフォード工場の生産ラインを、建築用および自動車用フロートガラスから、太陽電池パネル用透明導電膜(TCO：Transparent Conductive Oxide)付きガラスの製造ラインへ転換しました。このプロジェクトにより、グループのオンラインコーティング能力が拡充され、ファーストソーラー社をはじめとする世界的な需要の高まりに対応することが可能になりました。これは、再生可能エネルギー市場へのNSGグループのコミットメントを改めて強く示すものです。また、本プロジェクトでは、大気汚染物質を削減し、従業員、地域社会、そして環境を守るために、汚染制御設備 (PCP) の設置も行われました。

米国に太陽光発電システムの新設

NSGグループは2025年、米国イリノイ州オタワ事業所において、最新の2.0MWpの太陽光発電設備を稼働させました。本システムにより、年間約3.9GWhの再生可能電力を供給することが可能となります。本システムは、ジョージア州アトランタを拠点とするSolAmerica Energy社が所有・運営し、当グループとの電力購入契約に基づき、今後15年間にわたって同設備で発電された電力がオタワ事業所に供給されます。新設された太陽光発電システムには、ファーストソーラー社製の最新型薄膜太陽電池パネル(Series7)が、5,000枚以上設置されています。このパネルには、NSGグループの透明導電膜(TCO)付きガラスが使用されています。NSGグループは、世界中で複数の太陽光発電プロジェクトを展開しています。北米では、今回の太陽光発電システムに加え、2011年2月にオハイオ州ノースウッドのR&Dセンターで稼働を開始した0.25MWの太陽光発電システム、2022年4月には、オハイオ州ロスフォード事業所にて1.4MWの太陽光発電システムを整備しました。さらに、ロスフォードでの2基目の太陽光発電設備の設置も検討中です。



米国・オタワ太陽光発電システム

Pilkington Mirai Øne™(ミライワン) – サステナビリティへのさらなる一歩

建設業界では、建物のライフサイクル全体で排出される「エンボディドカーボン(内包炭素)」の削減に向けた取り組みが加速しており、ガラスをはじめとする建築材料はその実現において重要な役割を担っています。NSGグループは、2023年に建築用ガラス市場において最も低いエンボディドカーボンを実現したフロートガラス製品として、従来品比52％の削減を達成したPilkington Mirai™を発売しました。Pilkington Mirai Øne™はPilkington Mirai™の新シリーズであり、用途やニーズに応じたLowカーボンガラス選択の幅を広げます。

Pilkington Mirai Øne™は、従来品と比較して35％以上のエンボディドカーボン削減を実現しながら、仕様選定や調達の柔軟性を両立しており、より幅広いお客様にご利用いただけるソリューションとなっています。この削減は、リサイクルガラス(カレット)の使用拡大による天然資源採掘量の削減に加え、当社の脱炭素化ロードマップに沿ったさまざまな施策によって実現されています。本製品は、建物のライフサイクル全体にわたる環境負荷の低減を目指す設計者やお客様にとって、実用的な選択肢を提供しています。

renew:glass-ガラスに新たな命を吹き込む取り組み

2024年の開始以来、renew:glassは、建築用ガラスのバリューチェーン全体における循環型経済の実現とガラスリサイクルの促進を目指す長期的な戦略プログラムとして発展を続けています。本プログラムは、NSGグループのサステナビリティプラットフォームであるmake***change***™のもとで展開されており、製造時のCO_2排出量削減に最も効果的な手段の一つであるカレット利用拡大を支える重要な取り組みなっています。使用済みフロートガラスを1トンリサイクルすることで、最大700kgのCO_2排出量削減が可能となるほか、天然資源採掘量の削減にもつながります。

renew:glassは、パートナーシップの強化、お客様との連携拡大、プロジェクトの実施を通じて着実な成果を上げており、ガラスリサイクルに対する認知向上、パートナー企業の活動支援、教育およびベストプラクティスの普及に取り組んでいます。また、本取り組みは啓発活動の段階を超え、欧州各地において使用済みガラスの回収・再資源化・再利用を実現する具体的な成果を生み出しています。

英国では、セントヘレンズ市議会が推進し、VINCI Building社が主契約者であるセントヘレンズ中心市街地再開発プロジェクトの一環として、英国の当社グループ子会社(Pilkington UK)がrenew:glassスキームを活用したガラスリサイクルを実施しました。解体工事において、ハードショー・センターおよび市中心部バスステーションから回収されたガラスは、カレットとして加工された後、当社グループの生産設備で再溶融されました。その結果、7トンを超えるガラスが回収・再利用され、埋立処分

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
▶ 事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

を回避するとともに、CO_2排出量および天然資源採掘量の削減を実現しました。本プロジェクトは、都市再開発において循環型建設の考え方が実践可能であることを示す好例となっています。



イタリアでは、renew:glassがバリューチェーン全体にわたる協働を通じて実施されており、循環型社会の実現において川下パートナーが果たす重要な役割を示しています。使用済みガラスは、既存窓の選別解体によって回収され、再びガラス製造に利用できるよう、異物の混入を防いだ状態で分別・回収されました。この取り組みは、加工業者や施工業者が資源循環の実現に積極的に貢献できることを示すものであり、使用済みガラスを高品質なガラス製造のための価値ある二次原料へと再生することで、資源循環の実現に貢献できることを示しています。

renew:glassの取り組みは、研究開発、製造、購買および営業部門が連携した部門横断的な活動によって推進されています。今後、renew:glassは、持続可能な原材料の安定確保、一次資源価格変動リスクの低減、および当社グループの脱炭素化ロードマップの推進において、さらに重要な役割を果たすことが期待されています。また、リサイクル材の供給量拡大と利用促進を通じて、renew:glassはPilkington Mirai™やPilkington Mirai Øne™をはじめとする次世代低炭素製品の開発にも貢献しています。これらの製品においては、製品ライフサイクル全体で排出されるエンボディドカーボンの削減が重要な価値となっています。





自動車用ガラス事業

サステナビリティは現在、自動車業界の最重要課題の一つです。自動車メーカーは新規ビジネスの調達判断の一環として、ガラス部品を含む自動車部品に対してサステナビリティ目標を導入しています。ガラスは、車両の製品の開発から出荷におけるカーボンフットプリントの5〜6%という無視できない割合を占めています。これらの目標はメーカーによって異なるものの、カーボンニュートラルの目標達成時期、製品のカーボンフットプリントに関する中間目標、再生可能エネルギーの使用、リサイクル素材の活用といった主要サステナビリティテーマが中心となっています。NSGの脱炭素ロードマップとその取り組みは、お客様である自動車メーカーの期待に沿うものですが、一部の自動車メーカーはNSGグループのロードマップよりもさらに厳しい目標を設定しています。そのため、当社グループからも積極的な情報発信を行い、ガラス業界が非常にエネルギー集約型の産業であるという課題を自動車メーカーに理解いただくとともにより良い協力関係を築くよう努力しています。当社が進めている多岐にわたる取り組みを促進し、自動車メーカーの目標達成に向けて経済的に実現可能な協力分野を見出すことが極めて重要です。

マスバランス方式による100%ポストコンシューマーリサイクル素材に向けた取り組み

自動車用ガラス事業の主要なお客様とのパートナーシップのもと、自動車用ガラス事業部門、建築用ガラス事業部門、研究開発部門、購買部門、およびサステナビリティ部門を横断する連携を通じて、マスバランス方式により再生材含有率100%を実現する製品の上市に向けた先進的な取り組みを進めています。これは、循環型経済の目標達成に向けた重要な取り組みであり、実際に道路を走っていた自動車のガラスを回収し、新車の自動車用ガラスとしてリサイクルすることを可能にするものです。

フロートガラスは連続的に生産が行われるプロセスであるため、当社としてはマスバランス方式を採用するのが適切でした。この方式では、お客様に販売された製品の総量は、製造工程に投入されるリサイクル素材の総量と等しくなります。例えば、サイドガラスが1,000トン販売される場合、同期間中に1,000トンの使用済みガラスカレットが製造プロセスに投入されることになります。

このプロジェクトには2つの利点があります。第一に、ガラスという無限にリサイクル可能な素材を再利用することで循環型経済の目標を達成できること、第二に、フロートガラス製造プロセスへのガラスカレット投入比率を高めることで必要な燃料使用量が減り、その結果CO_2排出量の削減にもつながり、脱炭素化の目標達成にも貢献することです。

自動車用ガラス事業のお客様による見積時の製品カーボンフットプリント(PCF)要求

NSGグループの自動車用ガラス事業のお客様からは、見積もり段階で価格情報に加え製品のカーボンフットプリントの提示を求められるケースがますます増えています。このことは、脱炭素化への取り組みがお客様にとって不可欠な要素となっていることを示しています。当社グループのサステナビリティ部門は、過去12か月間で約50件のRFQ PCF(見積もり時における製品カーボンフットプリント)を作成しました。その内訳は、欧州向けが約80%、南米向けが約20%となっています。PCFの算定には、ISO 14067に準拠した自社開発のツールを使用しています。当社はこれをデジタル化と脱炭素化の重要な融合と捉えています。今後もPCFデータに対する需要の拡大を見据え、対応能力を強化していく予定です。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
▶ 事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

高機能ガラス事業(クリエイティブ・テクノロジー)

ガラスは、軽く、強く、燃えにくく、電気を通さず、薬品にも強いという特性を持つ、環境にやさしい素材です。原料には珪砂やソーダ灰などが使われており、使用後もリサイクルが可能です。さらに、原料の配合を工夫することで、強度や耐熱性などの性能を向上させることが可能です。

高機能ガラス事業では、こうしたガラスの特性を活かし、製品の開発や製造プロセスの改良を進めています。顧客の課題を解決することで、持続可能な社会の実現に貢献しています。

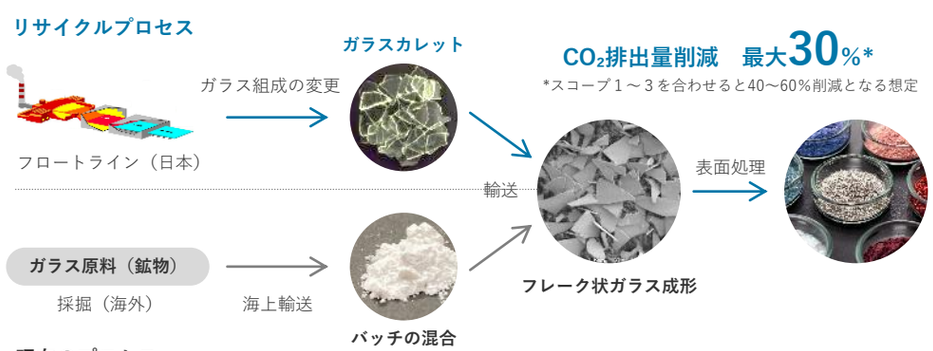
以下に、私たちの技術が活かされている分野の一例をご紹介します。

廃棄材のアップサイクル

当社グループは、資源循環の促進と環境負荷の低減に向け、廃棄材を新たな価値へと転換するアップサイクルに取り組んでいます。これは、天然資源の使用量削減や廃棄物の有効活用を通じて、循環型社会の実現に貢献する取り組みです。

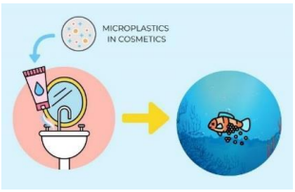
その一例として、フロート板ガラスの品種切り替え時に発生するガラス端材(ガラスカレット)を活用し、産業用途向けリサイクル光輝材「METASHINE ECO®」を開発しました。廃棄ガラスの削減に加え、「採掘」「海上輸送」「混合」「溶融」といった従来品の製造プロセスで使用されるエネルギーの低減を通じて、CO_2排出量の削減にも貢献しています。独自技術を活かして廃棄材に新たな価値を付与することで、持続可能な社会の実現を目指しています。

ガラスカレットを使用するメリット



環境負荷の低減に貢献する素材開発

近年、マイクロプラスチックによる海洋汚染への対応が世界的な課題となる中、化粧品分野でも代替材料への需要が高まっています。当社では、長年培ってきたガラスの製造・加工技術を活用したベースメーク用粉体「MAR'VINA®」シリーズ(SILKYFLAKE®、GLACIA DROPS®等)を提供しています。これらは厳選された自然由来の原料から製造されており、無機物でありながら柔らかな触感を持ち、肌にやさしく環境負荷の低減にも貢献します。当社は、こうした環境配慮型素材の提供を通じて、海洋環境の保全と持続可能な社会の実現に貢献していきます。





脱炭素社会の実現に向けて

地球温暖化の抑制に向け、CO_2排出量の削減は世界的な重要課題となっています。当社の化学強化用ガラス「glanova®」は、原料の30%以上にリサイクル原料を使用しており、2023年10月にSCS Global Servicesのリサイクル認証を取得しました。また、厚さ1.1mm以下でありながら高い強度を有し、自動車用軽量ウィンドシールドなどに採用されています。リサイクル原料の活用による製造時のCO_2排出量削減と、軽量化による使用時の省エネルギー化を通じて、脱炭素社会の実現と持続可能な未来への貢献を目指しています。





省電力化の実現

地球温暖化対策や電力コストの上昇を背景に、省電力化の重要性が高まっています。当社は、この課題の解決に向けて独自の光学技術を活用し、さまざまな分野で消費電力の低減に貢献しています。屈折率分布型レンズ「SELFOC®」シリーズは、シンプルかつコンパクトな光学設計を実現します。LEDプリンターのLPH[1]には当社のSLA[2]が採用されており、複雑な光学系や駆動機構を必要せず、省電力化を実現します。また、データセンターではサーバー冷却に多くの電力を消費することが課題となっています。当社は、省エネルギー化が期待される液浸冷却技術*[3]向けに、冷媒中でも使用可能な極細径SELFOC®MICRO LENS「HOSOMICHI®」(光ファイバーと同じ直径)を開発し、お客様と共に次世代通信インフラの省電力化に貢献する技術の確立を目指しています。

*1 LPH： LED Print-head　*2 SLA：SELFOC® LENS ARRAY
*3 液浸冷却技術：絶縁性の専用の液体の中にサーバー機器を丸ごと浸し、冷却を図る技術

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
▶ 事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

エネルギー



エネルギー使用

NSGグループは、ガラスのライフサイクルを通してサステナビリティに貢献するため、すべての工程におけるエネルギー使用量を最小限に抑える活動を継続的に行っています。

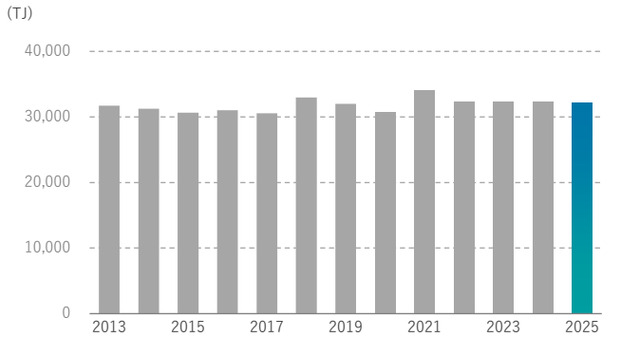
詳細はNSGグループ エネルギーポリシー をご覧ください。

NSGグループのエネルギー使用とCO₂排出量

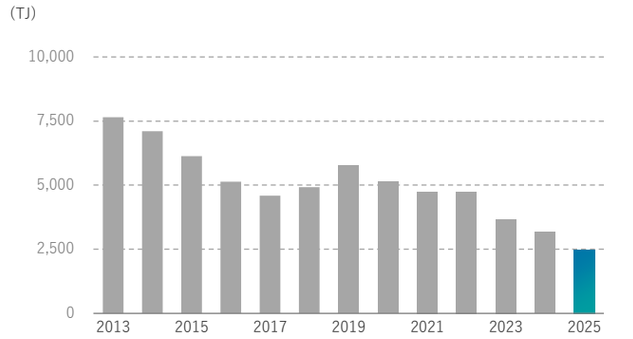
環境とコストに配慮し、ガラス溶解用の燃料には主に天然ガスを使用しています。一部の溶融窯は重油を使用しています。自動車用のフロート窯は、再生可能エネルギーに由来した電力のシェア拡大に伴い、天然ガスから電気溶融へ移行が進められています。また、暖房設備とバックアップ用発電機には少量のディーゼルとLPGが使用されています。消費の詳細は、グラフをご覧ください。

データはこちらを参照下さい。

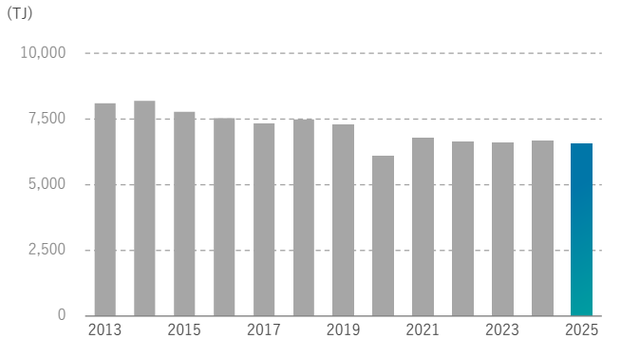
天然ガス



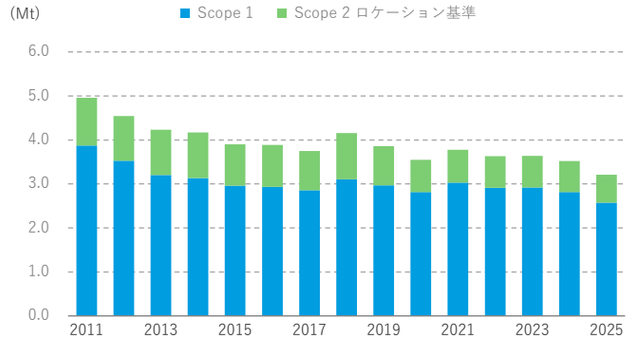
重油



電力



CO_2排出量



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

エネルギー使用量およびCO_2排出量削減の取り組み

エネルギーおよびカーボンマネジメント

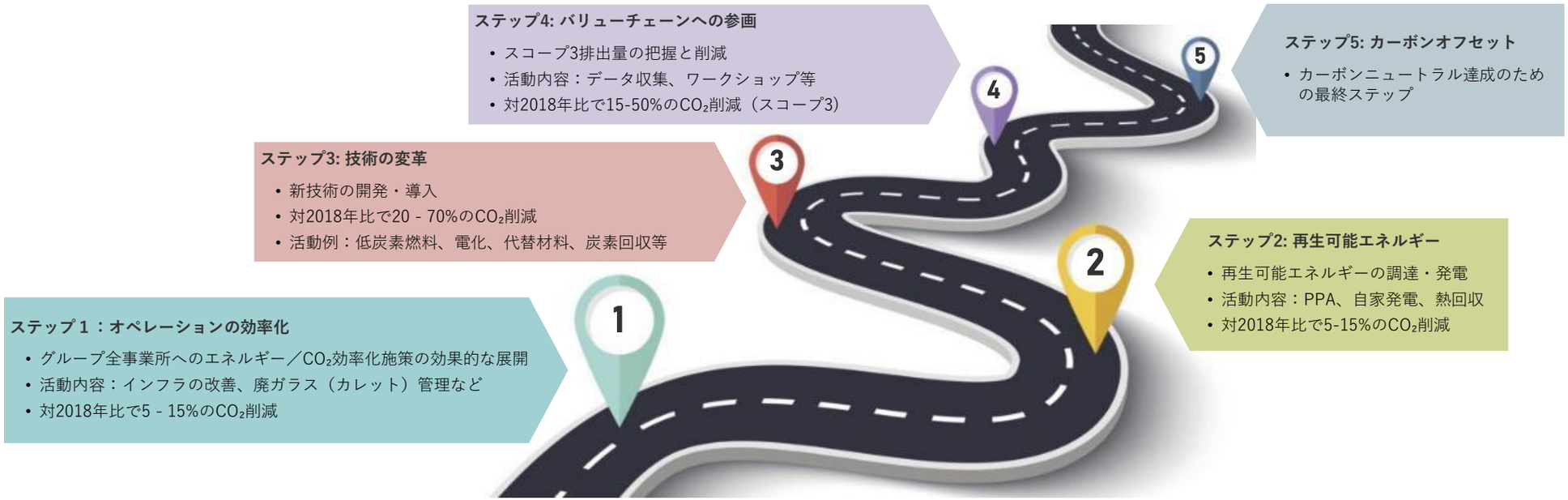
すべての取り組みは、半年に1回開催されるエネルギーおよびカーボンマネジメント委員会で各事業部門長および本社の各部門長により進捗が確認されます。

エネルギーおよびカーボンマネジメント責任者チーム

2022年3月期に、エネルギーパイロットプラントプログラムがSBU(製造、エンジニアリング、購買および研究開発を含む主要部門)レベルの管理委員会に導入されました。これらの委員会の役割は、SBUのエグゼクティブチームやその他の関連する主要な部署と連携しながら、SBU全体での取り組みを促進することです。これにより、一般的なグループレベルのアプローチだけではなく、SBUごとに特有の課題に焦点を絞った取り組みが進められることを期待しています。エネルギー効率化の施策と並行して、委員会は、エリアおよび地域工場からの提案等を含むSBUレベルでの脱炭素化ロードマップの進捗状況をモニタリングします。この「ボトムアップ」アプローチを行うことが、脱炭素化の目標達成に向けたロードマップで各生産拠点レベルでもオーナーシップを発揮する重要な要素の1つになっています。

こうしたマネジメント・アプローチを通じて、NSGグループの脱炭素化へのロードマップの実効性を高めています。当社のロードマップは、中期(2030年)の科学に基づく目標の達成と長期(2050年)のカーボンニュートラルの達成に向けて、5つの主要な施策に焦点を当てています。5つのステージは並行して実行され、既存の取り組みだけではなく、将来における技術やプロセスの開発・実装も見据えています。取り組む内容は以下の図に示す通りです。

このロードマップの進捗状況は、エネルギー&カーボンマネジメントの中核である多機能チームによってモニタリングされ、管理委員会は6か月ごとに進捗状況をレビューします。ロードマップの最初の見直し・改定サイクルでは、目標を達成するために必要な事項とアクションプランをグループレベルで特定するための「トップダウン」アプローチに焦点を当てました。このロードマップは、「ボトムアップ型」の活動に基づくものであり、継続的な活動評価のもと、さらに発展し続け、NSGグループの脱炭素アクションプランも定期的に改訂されています。現在は第6版にあたり、これらの具体的な取り組みの例については、以下のセクションで紹介しています。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

エネルギー&カーボンマネジメントプロジェクト

オペレーションコスト削減(OCS)プログラムでは、直接費用・間接費用を問わずあらゆる事業経費の削減に取り組んでいます。グループの直接費用の主要項目の一つはエネルギーコストです。

NSGグループ中期経営計画の一環として、エネルギー・カーボンマネジメントおよびコスト削減活動は、財務上の節約、コスト、および/または技術革新の水準に応じて、以下の3つのカテゴリのいずれかに分類されます。

改善	継続的な改善プロジェクト。このプロジェクトは、オペレーショナルコスト削減活動(Operational cost saving activities, 以下略してOCS)と呼ばれます。
改革	効率の大幅な改善/コスト削減を達成するための「大きな変革」プロジェクト
革新	相応のイノベーションを伴いながら効率の大幅な改善/コスト削減を追求する「イノベーション」プロジェクト

各拠点のコスト削減活動をサポートするために、変革プログラム(上記の改善、改革、革新を指す。略して３K)およびOCSデータベース内のすべてのエネルギープロジェクトの詳細な分析を定期的に更新します。2026年3月期も、エネルギー消費、CO_2削減、コスト削減を早期に実現するための複数のプロジェクトを立ち上げました。グループ内の各製造拠点では、2026年3月期に1件以上の3K OCSエネルギープロジェクトに取り組みました。NSGグループの各拠点は、製造革新部の主導と関連する部署のサポートのもと、エネルギーと炭素の最適化に向けた200以上の改善点を特定し、年間55GWhを超えるエネルギー効率の改善と40ktを超えるCO_2削減を実現しました。2025年3月期には、地域ごとのエネルギー＆カーボン・チャンピオンによる隔月のレビュー会議の導入により、情報共有の方法がさらに強化されました。これらの会議では、優良事例の特定と共有に重点が置かれています。プロジェクトを実施した拠点のチャンピオンは、その概要をまとめ、会議の中で発表することが推奨されており、他の拠点がその詳細を理解し、自拠点での導入計画を立てられるようにしています。

主なプロジェクトとして、炉内燃焼の最適化、モーターの省エネ化、圧縮空気システムの最適化、エネルギーのサブメータリング、エネルギー効率の高い照明や燃料への切り替え、コージェネレーションシステム、廃熱およびエネルギー回収、などが挙げられます。

2026年3月期においても、エネルギー管理においてインダストリー4.0やモノのインターネット(IoT)を活用する取り組みをさらに進めました。この一環で、エネルギー消費とCO_2排出量の最適化を目的としたエネルギー計測等のプロセスデータの分析も行っています。この分析は、エネルギー廃棄物の特定や関税の管理など、新しいプロジェクトの特定と開発を支援しています。これらのプロジェクトは、グループレベルの取り組みである業務オペレーションのデジタル化と幅広く関連しています。これは、NSGグループの中期経営計画戦略における4つの「D」のうちの1つDigital Transformationです。その他、エネルギー効率を改善するための複数のデジタル化プロジェクトを推進中で、英国、北米、南米で試験導入しています。

2020年3月期から、フロート窯の定期改修時にエネルギー・炭素効率を高める取り組みを開始し、2026年3月期も継続して実施しました。このプログラムは、フロート窯の改修による一般的な効率向上効果に加え、さらなる効率改善を目的とした具体的なアクションの一環として、引き続き重要な活動として位置づけられています。これまでに複数のフロート窯改修において本プログラムが導入されており、2024年3月期には実施された2件のフロート窯改修および2027年3月期に予定されている改修にも適用されています。これにより、フロート窯の稼働期間(少なくとも15年)全体にわたって、大幅な効率改善が期待されています。

研究開発活動

フロート窯のCO_2排出量の削減とエネルギー供給の確保は、事業継続の基盤であり根幹です。そのための設備投資を最小限に抑えるためには、短期的および中期的に段階的な技術変更を行う必要があります。

2021年3月期に、グループ戦略中期目標(RP24)と長期科学ベース目標の実現に向けて、当初のR&D脱炭素化プロジェクト(Project Carbon 2050)を個別プロジェクトのセットに分割しました。2023年3月期においても、実行可能なソリューションのもとでターゲットに向かって進んでいくために、個々のプロジェクトでさまざまな技術を「テスト」する複数の具体的なプロジェクトを実施しました。

当社は、フロートガラス製造プロセスに低炭素代替燃料として水素を活用する取り組みを行っています。2021年8月、英国セントヘレンズのグリーンゲート工場において、世界初の水素を使用した製造実験を行い、成功しました。

この取り組みは、イングランド北西部の産業コンソーシアムであるHyNetが主幹するプロジェクトの一部であり、産業、家庭、輸送からの炭素排出量の削減を目的としています。この実証実験は、産業用燃料切り替えスキームに基づき、英国政府から520万ポンドの資金提供を受けて行われました。

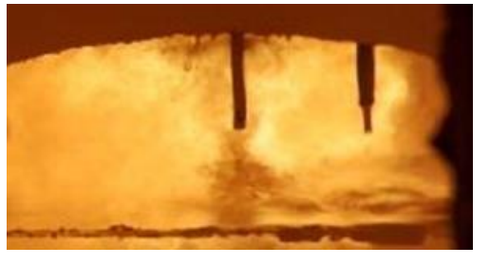
NSGグループは、ガラス製造の標準燃料である天然ガスや石油の全てまたは一部を水素に代替できないかを検証しています。天然ガスを全て水素に置換できれば、スコープ1のCO_2排出量を約80%削減できます。

水素を活用して製造された実証実験のフロートガラスは、標準的なプロセスで製造されたフロートガラスよりもCO_2排出量が全体で40%少なくなります。

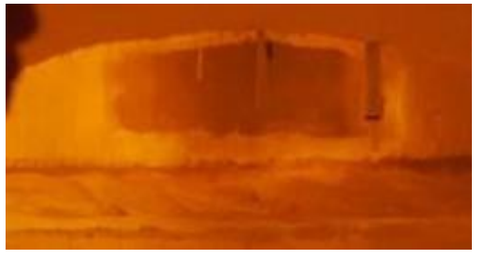
水素およびその他の代替燃料(低/ゼロ炭素燃料)の活用検証は、2021年から2025年にかけて行われ、2022年にバイオ由来の燃料油を使用したフロートガラスの製造にも世界で初めて

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

成功しています。フロートガラス製造プロセスにおける水素の活用は、コスト競争力のある水素を生産するための技術開発の進展と、安定的かつ十分な供給を確保できるインフラの整備拡大に密接に関連しています。NSGグループでは、市場動向や新たなソリューションを積極的に注視するとともに、水素技術への移行に関連するあらゆる取り組みに参画しています。



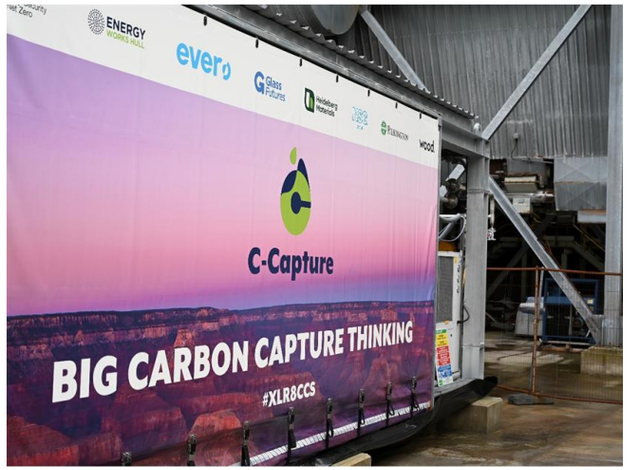
80%の天然ガスと20%の水素の燃料ブレンドを使用した窯内の火炎外観。



100%水素の燃料ブレンドを使用した窯内の火炎外観。

当社グループの英国セントヘレンズにあるグリーンゲート事業所のフロート窯において、ガラス製造窯から排出される排気ガスを対象とした小規模な炭素回収設備を設置しました。第三者機関であるC-Capture社と共同の実証実験の一環として行われ、排気ガスからCO_2を分離することに成功しました。これは、当社のカーボンニュートラルのロードマップに従い、製品中のCO_2含有量を削減するための選択肢を模索する試みの一つです。この実証実験は、脱炭素化が難しいとされる産業向けの低コストのCO_2回収ソリューションを実用化することを目的とした英国の国家プロジェクト「XLR8 CCSプロジェクト」の一環で、C-Capture社との協力で実施しました。このプロジェクトにより、低コストの炭素回収ソリューションが、脱炭素化の難しい産業におけるネット・ゼロ実現の手段として現実的であることが実証されました。今後のCCSU関連技術の発展は、NSGグループの脱炭素目標の達成を後押しすることが期待されます。

カーボンキャプチャー(CO_2分離回収)
英国セントヘレンズにある当社グリーンゲート事業所のフロート窯に設置された、排出ガスからのカーボンキャプチャーと貯蔵のための小型ユニットのシステム





エネルギー管理システム

ドイツ、イタリア、フィンランドのすべての工場は、エネルギー管理システムの国際規格であるISO 50001認証を取得しています。さらに、この認証は南米(チリ)の事業拠点にも拡大されており、2026年3月期中にはブラジルおよびアルゼンチンへのさらなる導入計画が進捗しました。サブメーター機器および関連ソフトウェアへの投資により、エネルギー消費の高い透明性が確保され、改善活動、目標設定、定期的なレビューを含む高度なエネルギー計画プロセスの構築が可能となります。この取り組みは、NSGグループの戦略的な4つの「D」のうち、Digital TransformationとDecarbonizationという2つの活動を連携させるものであり、2026年3月期における継続的な戦略の重要な要素です。

省エネ推進スキーム (ESOS: Energy Savings Opportunity Scheme)

英国のすべての製造拠点は、英国政府の省エネ推進スキーム(ESOS)に継続して参画しています。

このスキームはEUエネルギー指令第8条に対する英国政府のコミットメントとリンクしており、現在、フェーズ4のエネルギー監査の完了に向けた準備を進めている段階です。各拠点は、実行可能な省エネプロジェクトであるかどうかを確かめるために、外部機関による認定を受けます。その際、エネルギー消費データの検証や現場のエネルギー監査を含めて評価され、その結果は、英国の上級管理職の代表者による承認を受けた後、各種の推奨事項がレポートとして提出されます。このスキームを通じて多くのことが特定され、英国だけではなく他の地域でも取り組みが展開されています。同様のスキームは、EUおよび他の国々でも必須あるいは自発的なかたちで行われており、多くの拠点がそれらのスキームに参加しています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

再生可能な
オンサイトエネルギー生成と代替燃料

当社グループは(CDP対応を通じて)認証された再生可能エネルギー電力(購入および/またはオンサイト発電による)の割合を2027年3月期までに65%とする目標を掲げていますが、2025年における再生可能電力の割合は35%となりました。この実績は再生可能電力の比率を着実に高めていることを示していますが、2025年における再生可能電力の価格や供給状況の制約を受けました。2025年3月期には、新たなプロジェクトの取り組みもスタートしました。その成果の1つとして、2024年に世界第4位の再生可能エネルギー会社であるEDP再生可能エネルギー(EDPR)と、ポーランドの風力発電所が生成する再生可能エネルギーを利用する電力購入契約(PPA)を結びました。



PPAプログラムは、複数地域の複数拠点に拡大し、欧州、米国、アジアの国々でも認定された再生可能エネルギー発電(REC)を購入しています。

今後数年間、RECの購入は脱炭素化移行プロジェクトの重要な取り組みの1つと位置づけられますが、将来的にはRECの購入比率は減少し、その代替としてPPAからの電力購入量が増加する見込みです。さらに、オンサイトでの再生可能エネルギーの生成に向けた継続的な調査と投資(内部資金での設備投資または第三者からの資金調達を活用)を行っています。

2020年にオンサイト発電設備の稼働を開始した英国のNSGテクニカルセンター(レイザム)、2021年に稼働開始した米国オハイオ州のノースウッドテクニカルセンター、2022年に稼働開始した同州ロスフォードに続き、2023年3月期にはドイツのアーケンの自動車用製造施設にも現地発電設備が導入されました。さらに、2024年には日本の舞鶴そして2025年には米国イリノイ州オタワでもオンサイト発電プロジェクトの拡大が実施されました。2026年には、ポーランドに新たな設備が設置される予定であり、さらにヨーロッパ、北米、マレーシア、日本およびその他拠点においてもプロジェクトの検討が続けられています。

当社は、グループ全体で代替となる低炭素/再生可能燃料の供給ソースの評価と利用を継続しています。英国では水素やバイオ由来燃料の実証実験を行いましたが、他の地域の拠点でもそのような燃料を具体的に供給できるソースの調査を行っています。2024年に、外部専門家と連携して、このようなバイオ由来燃料のサプライチェーンに関する実現可能性調査が完了しました。この分析の焦点は、主にアジア地域におけるバイオ由来燃料の現在の市場と将来の市場動向を把握することでした。この調査とは別に、欧州における機会に関するレビューも完了しました。これらの分析結果は、関連するフロートガラス製造拠点のボトムアップ型ロードマップに統合されています。



米国オハイオ州ロスフォード工場における薄膜型ソーラーパネル



米国イリノイ州オタワのオンサイト太陽光発電施設。
NSG グループ最大の集光型太陽光発電プロジェクト



ポーランドサンドミエシュ事業所のオンサイト太陽光発電施設。
2026年の稼働を予定

＜関連プレスリリース＞

舞鶴事業所内の太陽光発電による長期電力購入契約(PPA)を締結　(2024年3月28日付)

米国・オタワ事業所に太陽光発電システムを新設　(2025年5月30日付)

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

サプライヤーとのパートナーシップ

私たちは、主要なサプライヤーと連携し、製造拠点におけるエネルギー消費量を削減するためのプロジェクトを継続的に行っています。特定の技術に強みを持つ企業と緊密な連携を図ることで、当社のエネルギー管理の課題に対して最適なソリューションを実施することができます。電力需要のピークを抑えるための蓄電システムの活用、コンプレッサーの効率向上と高効率モーターの設置、ガラス製造工程で発生する廃熱の有効利用など、さまざまな共同プロジェクトを推進しています。



従業員のエネルギー効率に関する意識向上

グループのコスト削減とCO_2排出量削減を実現するためのエネルギー管理トレーニングプログラムを、引き続きグローバルで展開しています。2016年に開始されたこのプログラムは、ヨーロッパ、南米、日本、東南アジアで実施されており、2024年には米国でも展開されました。2025年には、全世界でのバーチャルトレーニングに焦点を当て展開されました。

エネルギーに対する意識レベルを高め、継続的な再生可能エネルギーの生成と炭素マネジメントのプロジェクトをサポートする「バック・トゥ・スクール」と名付けられた最初のプログラムは、現地拠点のエネルギー・チャンピオンが参加するかたちで行われました。このトレーニングの重要な点は、参加者がエネルギーおよび炭素マネジメントに対するアプローチを理解し、自分の拠点で課題の抽出と対策が実行でき、その成果を共有できるようにすることにあります。

2023年3月期のリモートでのトレーニング・ソリューションを成功裏に終えたことに続き、新しいエネルギー・チャンピオンを育成するため、あるいは以前参加した人たちに「再教育」を行うために、個別トレーニングセッションを開催しました。このトレーニングセッションでは、ベストプラクティスの共有を支援するために、さまざまな進化したエネルギー管理監査ツールが活用されました。2026年3月期は、グループ全体で実施されている既存のベストプラクティス管理活動を継続的に採用すると共にさらなる発展を目指しり、基本に立ち返ったプログラムの継続的な実施に重点を置きました。

現在までに150人以上のチャンピオンがこのトレーニングに参加し、750以上のプロジェクトを特定・実施しています。

省エネ効果は2億3,000万円を超え、CO_2排出量を18,000トン以上削減する成果を上げています。これまでの実績を踏まえ、2027年3月期のコスト削減額およびCO_2排出削減量は、前年度とおおむね同水準になると見込んでいます。

この取り組みは、3段階のレベルのトレーニングで構成されており、レベル1ではエネルギーマネジメントのあらゆる要素について50時間のトレーニングが行われます。このコースは、現場のエネルギー管理活動をサポートし、受講者に正式な資格を与えることが目的であり、受講者がエネルギーコスト削減プロジェクトを推進することで、コース費用が回収されるかたちになっています。

このコースは、現地の機能チームの支援を受けて開催され、NSGグループ環境・気候変動ディレクターのデビッド・キャスト氏、NSGグループエネルギー・カーボンマネージャーのグレゴリー・コチウボフスキ氏、および気候変動技術マネージャーのジーシャン・カマール氏が主導しました。2024年10月、彼らは米国を訪問し、現地チームとの現地視察を実施するとともに、建築、自動車、高機能ガラス(クリエイティブ・テクノロジー)のSBU(事業部門)の「エネルギー・チャンピオン」を対象にエネルギー管理トレーニングを提供しました。このプログラムが米国で実施されたのは初めてであり、現地チームの能力向上や、参加者が具体的なエネルギー・カーボン管理プロジェクトを実行する成果が得られました。2026年3月期の主な取り組みは、エネルギー削減プロジェクトの特定・提案に際し、CO_2排出量削減による効果を考慮することについて、エネルギー・チャンピオンおよび各チームの意識向上を図ることでした。また、Energy & Carbonチームは、各地域のチームによるCO_2排出削減見込量の算定および報告を積極的に支援しました。

これらの取り組みは、具体的な成果につながっています。3K OCSプロジェクトによるCO_2排出削減見込量および実績は、2024年3月期から2026年3月期にかけて、前年比で平均約28%増加しました。この結果は、CO_2排出量削減の視点を取り入れた3K OCSの新規プロジェクトが増加していることに加え、CO_2排出削減効果をプロジェクトの重要な評価指標として捉える意識が、組織全体で着実に高まっていることを示しています。

エネルギー管理トレーニングとワークショップは、2027年3月期も継続的に実施される予定であり、特に欧州の事業に重点を置いて行う計画です。これにより、トレーニング活動の範囲がさらに広がり、脱炭素化とエネルギー効率の目標を達成するために必要なスキルを組織全体で開発できるようになります。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報



レベル1の研修を修了した従業員には、受講者の職務内容に応じて外部機関が実施するエネルギー管理研修を継続的に受講し、レベル2およびレベル3の資格取得を目指すことを推奨しています。NSGグループでは、すでに複数の従業員がレベル3資格を取得しています。これまでに実施したプロジェクト例は以下の通りです。

- モーターとドライブの可変速装置への交換
- 炉やボイラーにおける燃焼の最適化
- LED照明への交換と省エネ化
- 圧縮空気の漏れ低減と圧縮空気生成効率の最適化
- 「シャットオフ」活動や不必要なエネルギー使用の削減等、スタッフの意識改革キャンペーン
- 日常業務のなかでエネルギーの「ミニ監査」を実施することを含め、エネルギー管理における「基本に戻る」プログラム（5S活動の一部）

2024 年より、北米とヨーロッパのすべてのチーム(建築および自動車用ガラス事業部門)を対象に、3K OCS プロジェクトとこれによるCO_2排出量削減への影響を確認するためのワークショップを開催しています。このワークショップを通じて、それぞれの3K OCSプロジェクトがもたらすCO_2排出量削減の影響を検討する理由について理解を深め、参加者全員がすべてのプロジェクトをもう一度確認しました。併せて3K OCSシステムへの入力のプロセスも変更されました。

従業員エンゲージメント・プログラム ― JUMPとのコラボレーション



2021年、NSGヨーロッパのテクニカルセンターに勤務する従業員を対象に、エネルギーと炭素に関する意識向上プログラムを開始しました。このプログラムでは、ネット・ゼロ・チャレンジ(NZC)と呼ばれるサードパーティのソフトウェア・プラットフォーム(JUMP)を利用しています。NZCは、どのような状況においても、より持続可能な社会に貢献するためのシンプルな方法を提供します。NZCは、職場や家庭の活動とリンクし、実用的なアイデアや提案を行います。目標に対する進捗状況が測定され、参加者には報奨金や表彰制度などのインセンティブもあります。2022年、このプログラムの対象を英国の全事業に拡大しました。2025年にはJUMPを活用したシンプルな取り組みの推進により、英国の従業員は23トンを超えるCO_2削減を達成しました。これはNSGグループの英国における総排出量のごく一部ですが、プログラムへの参加による意識向上の効果は非常に大きく、NSGグループのエネルギー・炭素目標の達成に向けてのサポートになると考えています。

アースデイ2026

2026年4月22日のアースデイに合わせ、当社グループの多くの拠点でイベントを実施しました。参加した従業員からは高い関心と積極的な参加が見られ、大きな盛り上がりを見せました。活動事例の一部を紹介します。

ハーブ植栽セッション：英国レイザム拠点では、ハーブの植栽を通じて持続可能な未来につながるものを育てる大切さを再認識しました。小さな取り組みの積み重ねが大きな変化をもたらします。今後も多くの植物や果物の栽培を通じて、従業員の環境意識のさらなる向上を目指します。

参加型オンラインクイズ：クイズの内容は、カーボンフットプリントや再生可能電力などを含む多岐にわたり、会場は大いに盛り上がりました。気候変動に関する豊富な知識を持つ参加者の姿も見られました。

ポスターセッション：多くの従業員が参加し、以下の分野について理解を深めました。

- サステナビリティの取り組み
- 脱炭素化戦略
- グループ全体で進行中のエネルギープロジェクト

米国ロスフォードおよびメキシコのメヒカリでは入口周辺の清掃やマルチング材の散布、花の植栽を行いました。このような参加者同士の交流を通じて、私たちは一つひとつの小さな取り組みが大きな意味を持つこと、そして力を合わせてることで未来に向けた前向きな変化を生み出せることを改めて実感しました。ポーランドのサンドミエシュでは、この特別な一日をエネルギッシュなクイズイベントでスタートしました。10名の勇敢な挑戦者が、サステナビリティ、省エネルギー、イノベーション、サーキュラーエコノミー、そして日々の選択がカーボンフットプリントに与える影響などに関する難問に挑みました。学びにあふれ、活気に満ちた素晴らしい時間となり、参加者とともに有意義なひとときを過ごすことができました。

Earth Dayが持つ意義

アースデイは、単にカレンダー上の記念日ではありません。私たちの美しい地球を守るためには、日常の小さな行動から事業変革のような大きな取り組みまで、一人ひとりが関わることで真の前進が生まれることを再認識する機会です。そしてNSGグループにおいても、そのような意識は着実に広がりつつあります。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

学校における気候変動への意識向上 ―
地元カレッジのSTEM(科学・技術・工学・数学)活動を支援

2026年3月期、英国のサステナビリティチームのメンバーは、地域の学校やカレッジとのさまざまな交流活動を引き続き実施しました。これには、地域のカレッジで開催された「サイエンスデー」でのセッションも含まれており、地元の学校の参加者に、NSGグループの専門家がさまざまなサステナビリティの取り組みや、それらの実施の重要性について説明を行いました。特に、気候変動への移行と物理的影響に焦点を当て、参加者自身がこうした影響を緩和するためにできること、そしてNSGの活動について学ぶ機会を提供しました。また、循環型社会などの概念を紹介するための実験的なアクティビティにも参加することができ、体験を通じて理解を深めるプログラムとなっています。こうした活動が地域社会にもたらす前向きな影響をさらに高めるために、今後もグループの中期経営計画に沿った形でこのようなプログラムが継続的に実施される予定です。

NSG 英国のサステナビリティチームおよび研究開発チームのメンバーによる地元の大学でのサステナビリティに関するプレゼンテーションの実施



ソーラーパネル

化石燃料の供給は有限であり、地球温暖化も現実のものとなっているため、化石燃料からの移行が不可欠であるとの認識が高まっています。太陽電池は、家庭用の小規模なものから大規模な太陽光発電所まで、北部の曇りがちな地域の屋根から日差しの強い砂漠まで、さまざまなエネルギー需要に対応できる代替ソリューションです。ガラスは、太陽光発電パネルに不可欠で重要な部材です。薄膜系太陽電池、結晶系太陽電池、集光型太陽電池と、太陽エネルギーを電気に変換するための3つの主要な太陽電池技術に、私たちの幅広い高品質ガラスが使用されています。また、発電だけでなく、温水を作る設備にも当社のガラス製品が使用されています。



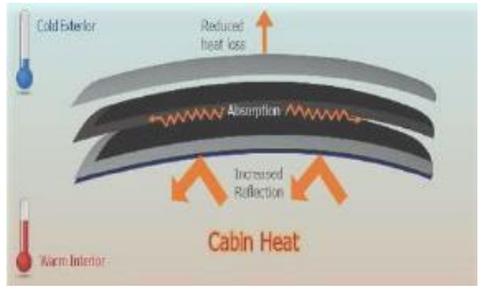
ドイツ・アーケンにおける太陽光発電

ソーラーコントロール - 低放射率ルーフガラス

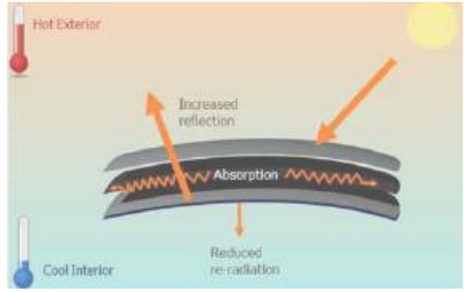
NSGは、夏と冬の両方の条件下で車内の快適さに貢献する、高性能ソーラーコントロールルーフガラスを新たに上市しました。低放射率コーティングと特殊な太陽熱吸収中間膜のラミネートにより、車内のブラインドシステムを取り外すことができるため、軽量化とコスト削減のメリットに加え、エネルギーの節約にも寄与します。この環境に優しい製品はPDLCガラスとしてさらに開発を進めており、Low-Eガラスに電圧を流すことによりルーフガラスの透明・不透明を変えることが可能な機能を加えています。

NSGグループは、製造工程で水素などの代替エネルギーの導入を推進するとともに、再生可能エネルギー市場への製品供給や省エネ製品の開発などを通じて、脱炭素化への取り組みを積極的に進めていきます。





冬➡車内の熱を反射し、車外への放熱を抑制



夏➡ガラスが吸収した熱の車内への放出を抑制

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
▶ エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

サーキュラーエコノミー



NSGグループは、資源のリユース、リサイクル、回収を最大化し、ガラスの製造、加工、梱包、搬送の過程で発生する廃棄物を最小化することで環境への影響の軽減に取り組んでいます。

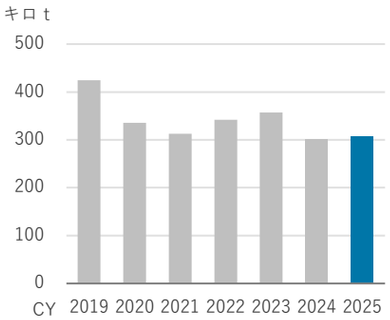
詳細はNSGグループ サステナビリティポリシー および NSGグループ 環境ポリシー をご覧ください。

ガラスのリユースとリサイクル

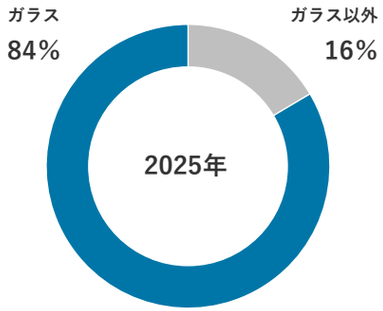
ガラス製造工程そのものにおいてはごくわずかな廃棄物しか出しません。切断したガラスの端材(カレット)はすべてガラスの原料として再溶解することで再利用されます。自動車用ガラス、建築用ガラスの加工工程で発生するカレットや不合格品は、グループ内の工場において溶解工程で再利用またはリサイクルされるか、外部のリサイクル業者を通じて他のガラス製品用として活用されます。ガラスカレットの再溶解によりエネルギー消費および、それに伴うCO_2の排出を大幅に削減することができます。1トンのカレットを再溶解することにより原料調達から製造において約400-600kgのCO_2の排出量を減らすことができます。

サーキュラーエコノミーに対する近年の社会情勢を鑑み、ガラスリサイクルに関する新しい目標を設定しました。2027年3月期末までに2019年3月期末対比でガラスカレット比率を3%ポイント増加するという目標です。2026年3月期のガラスカレット比率は、2019年3月期末対比で2.1%ポイント増加しました。当社グループは、お客様との連携による下流工程でのガラスリサイクルや、使用済み製品の再利用など、様々な取り組みを積極的に推進しています。取り組みの詳細については、「環境編」の「事業による貢献(サステナビリティと製品)」も参照ください。

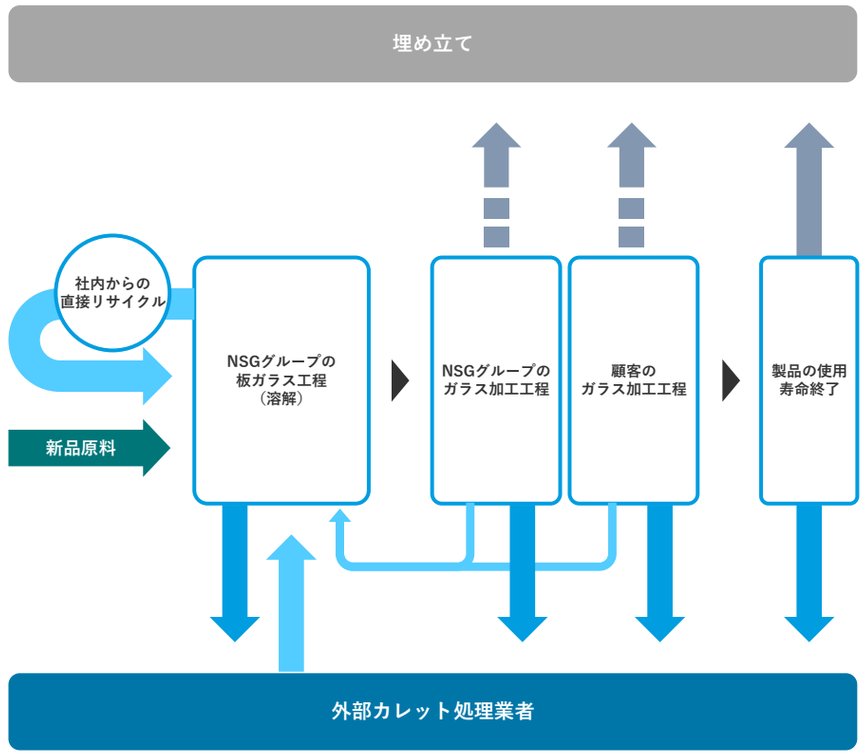
全廃棄物量*



リサイクル廃棄物の内訳



カレットの流れ



* 内部処理であるリユース廃棄物（オンサイトでリユースされたガラス）を除いた廃棄物の総量

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

廃棄物データの収集とモニタリング

2019年、NSGグループは、新しく、より洗練された環境に関する報告・分析データベースを導入しました。すべての事業所が廃棄物データをグループ共通のデータベースに報告することで、グループおよび事業所レベルでの更なるデータの集積、分析、モニタリングが行われます。内部でモニタリングがされていない場合(グループ内で再利用されたカレット)は、廃棄物量のデータは廃棄物移動の記録をもとに算出されます。

(単位：キロｔ)			CY	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
全廃棄物量*	リサイクル	ガラス以外		40.5	35.5	34.2	36.0	42.0	37.1	45.9
		ガラス	オフサイト	357.0	278.0	255.0	280.0	285.0	236.0	232.6
		リサイクル計		**397.5**	**313.5**	**289.2**	**316.0**	**327.0**	**273.1**	**278.5**
	廃棄	焼却	エネルギー回収あり	2.9	2.5	3.0	3.3	2.7	3.2	2.6
			エネルギー回収なし	1.8	1.0	0.89	0.9	1.5	1.3	1.3
		焼却計		4.8	3.5	3.0	4.1	4.2	4.5	3.9
		埋め立て	ガラス	3.5	3.9	2.1	3.3	3.0	3.4	4.2
			ガラス以外	18.6	14.5	17.5	18.3	18.6	19.0	21.0
		埋め立て計		22.1	18.4	19.6	21.6	21.6	22.4	25.2
		廃棄 計		**26.9**	**21.9**	**23.5**	**25.7**	**25.8**	**26.9**	**29.1**
	リサイクル・廃棄　総計			**424.4**	**335.4**	**312.7**	**341.7**	**357.0**	**300.0**	**307.6**
オンサイトでリユースされたガラス				**1314.0**	**1233.0**	**1512.0**	**1280.0**	**1785.0**	**1314.0**	**1369.7**

*内部処理であるリユース廃棄物(オンサイトでリユースされたガラス)を除いた廃棄物の総量

第三者による廃棄物マネジメント

板ガラスの製造工程や二次加工工程で発生するガラスカレットは、NSGの監督および管理のもと、可能な限り再溶解によって再利用されます。使用前の廃棄物は、転用される場合も処分される場合も、第三者により管理されます。廃棄物マネジメントおよびリサイクルのパートナーとのすべての契約の締結には、地域の環境法令およびNSGグループのデータ報告要件を満たすことが必須の要件になります。

この観点から、また、産業廃棄物処理委託契約の前提条件として、廃棄物およびリサイクル業者はNSGグループサプライヤー行動規範を受け入れ、環境および廃棄物マネジメントの資格(ISO 14001または同等のもの)の認証を維持する必要があります。

リスク・アプローチに従い、廃棄物／リサイクル業者が契約または法令の義務を順守して廃棄物マネジメントを行っているかについて、社内の環境専門部門による追加監査を実施しました。

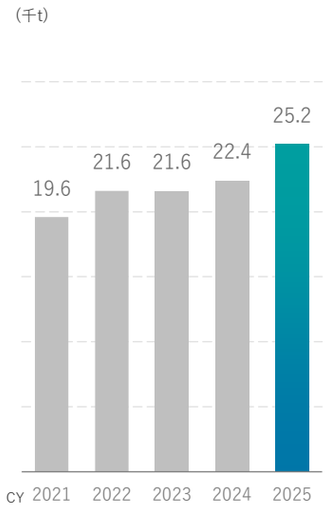


目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

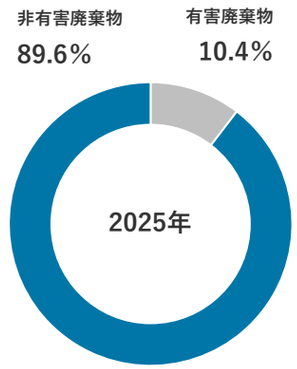
埋め立て廃棄

NSGグループは埋め立て廃棄物の削減目標を設定しています。これは、環境と健康に重大な影響を及ぼす可能性と埋め立て廃棄物に含まれる資源および材料を将来使用することができないためにそれらの枯渇を加速させることを抑えるためです。過去、NSGグループは、2013年までに埋め立て廃棄物を2007年対比で50%削減しました。その後、2019年3月期までに2014年3月期対比で埋め立て廃棄物を16%削減しました。さらに、2027年3月期までに2024年3月期対比で20%削減する新しいサステナビリティ目標を設定しました。ガラス加工から発生する少量のガラスカレット(2025年4.2千トン、2024年3.4千トン)は、異物混入のため埋め立て廃棄されます。これは、埋め立て廃棄および関連アクティビティーに関するサステナビリティ向上目標に含まれているものです。2025年の埋め立て廃棄物の総量は、25.2千トンとなり、2024年の22.4千トンから増加しました。対前年比では12.5%の増加となりました。北米主要工場における不良原料の埋立廃棄が最大の課題です。新たなリサイクルパートナーとの協働を模索するなど、引き続き、埋め立て廃棄物量の分析および削減に向けた取り組みをグローバルで継続していきます。

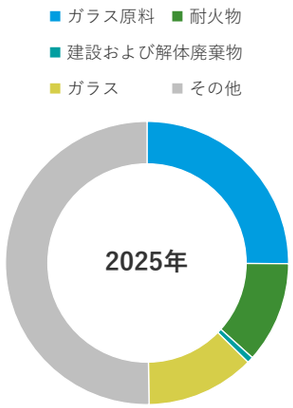
埋め立てられた廃棄物量



埋め立てられたガラス以外の有害/非有害廃棄物



埋め立てられた廃棄物の種類



その他の廃棄物

ガラス研磨汚泥

自動車用ガラスのエッジ研磨や穴あけ加工から発生する汚泥をゼロにすることはできませんが、NSGグループでは、この汚泥を埋め立て処分するのではなく、積極的にリサイクルのパートナーを見つけ、コンクリートやアスファルト混合物などの骨材の原料として提供しています。

フロートガラス規格外の原材料

2025年においても、NSGグループは、ガラス粉塵および不合格バッチを回避および／またはリサイクルするための方法を引き続き模索しました。規格外の原材料が配合されることで不合格バッチになります。また、ガラス粉塵等は、汚染物質除去装置で集塵されたものです。北米のフロート工場では、最近、多量の不適合原材料をリサイクルするためのパートナー企業を見つけました。

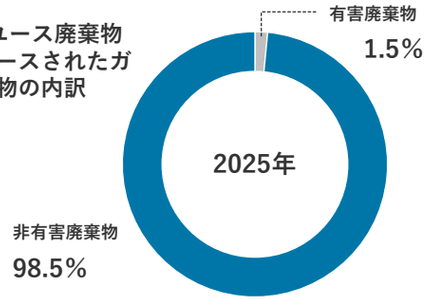
一般廃棄物

大規模な事業所においては、一般廃棄物の回避および分別をさらに徹底できるよう集中的なサポート体制がとられています。梱包材の回避および／またはリユースが焦点です。また、その他の様々な廃棄物が混合した一般廃棄物の埋め立てや焼却処分を避けるため、購買部門がパートナーとなり得る地元のリサイクル業者の選択に積極的に関わっています。

バリューチェーンの上流または下流で発生する廃棄物

いくつかの試験を除いて、現在、製品として使用された後に発生するカレットは板ガラスには利用されていません。寿命を迎えた製品(自動車／建物／PVパネル)の分別からは十分な品質のカレットが得られないからです。現在、使用後のカレットは、不活性の特徴を活かし、骨材の代替品として利用されています。有害な化学物質が放出されたり、腐敗して温室効果ガスが放出されたりすることがないためです。しかし、NSGグループは顧客、建築家および規制当局と連携して板ガラスの循環経済を推進しており、寿命を迎えた製品が適切に分別され、ガラスの原料として再溶解されるよう取り組んでいます。上流のサプライヤーで発生する廃棄物の環境影響については、ライフサイクル分析研究の一環として分析しています。

内部処理であるリユース廃棄物(オンサイトでリユースされたガラス)を除いた廃棄物の内訳



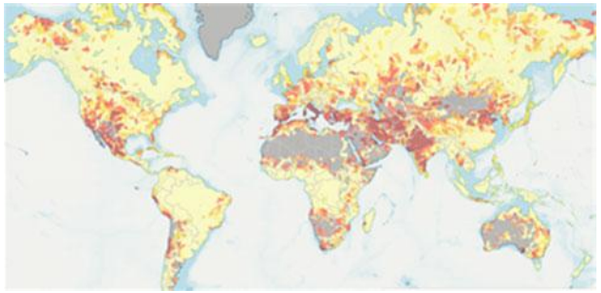
目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

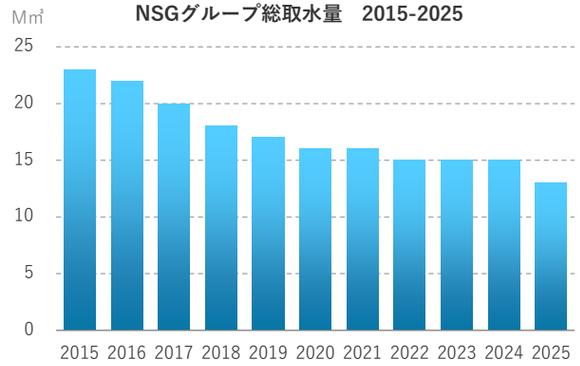
水の利用とマネジメント

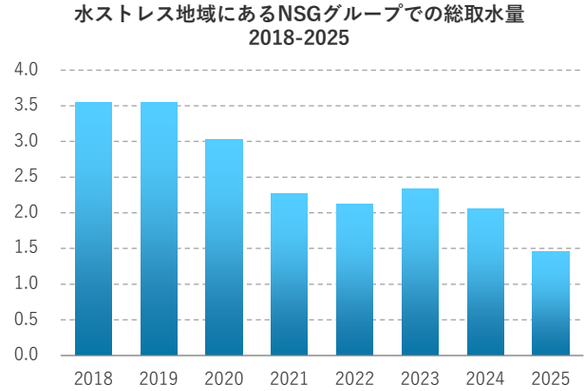
ガラス製造において水は主に冷却のために使用されますが、ほとんどの工場では水循環システムが稼動しているため、補充のみが必要になります。また、工場内でガラスを洗浄する際に使用する水については純度の高い水が必要となることから、特別な処理を行ったうえで水を再循環させています。産業排水の処理業者と協力し排水をリサイクルするとともに、最新の水処理施設を導入して水の使用量を最小限に抑えるよう努めています。これらの工程は、製造革新部の標準化プロシージャー(例、必要ない時の洗浄スプレー使用停止、最適サイズのノズル利用、水受けの設置、水あふれおよび漏れ防止策の実施)により管理しています。こうした取り組みは、取水量を減らすだけでなく、水処理に使用される化学物質の使用量を削減する効果もあります。NSGグループでは、工程または製品の違いや水質の違いにより、各工場で使用する水の量は大きく異なります。フロートガラスの製造では通常1トン当たり約2.6m³の水が必要となり、自動車用ガラス製品の加工では1m²当たり約0.12m³の水が必要となります。2025年の水ストレス地域における総取水量は、合計1.46百万m³で、2018年の3.55百万m³と比較して59%の削減となりました。

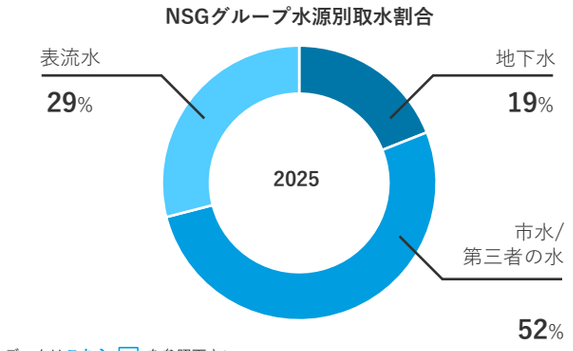
詳細はNSGグループ ウォーターポリシー をご覧ください。

水ストレス地域
出典： Aqueduct Water Risk Atlas









データはこちら を参照下さい。

水リスク

水不足や排水の水質に関して、現在、ステークホルダーから懸念は示されていません。その他の水リスクについては、兆候が見られた地域で、洪水に関する計画および対策を実施しています。水リスクは、NSGグループのリスク評価プロセスではそれほど重大なイシューではないと認識していますが、今後も全施設でリスク評価を続けていきます。また、NSGグループのサステナビリティ委員会においても、水リスクやパフォーマンスの見直し、および水のマネジメントに関連する活動について議論を行っています。

NSGグループは、グループのサステナビリティポリシーおよび環境ポリシーをサポートするかたちで、水のマネジメントに対する取り組みを明確にし、水質の課題や水不足のリスクに対応するため、2020年に新しくウォーターポリシーを制定しています。

2019年、NSGグループは、より高度な環境報告および分析データベースを導入しました。すべての拠点は、それぞれの情報および水に関するデータをこの中央データベースに報告しており、企業および拠点レベルでの集計、分析、監視に活用されています。

最新のデータ報告およびレビューによると、NSGの10拠点が、「Aqueduct Water Risk Atlas」のグローバルデータに基づき、水ストレス地域に位置していることが明らかになっています。これらの拠点での取水量は、2025年時点で全体の14%を占めています。

これらの拠点では、水資源管理の優先的なレビューおよび改善活動が実施されており、NSGグループ全体の目標である「水ストレス地域における取水量を、2019年度比で2027年度末までに50%削減する」というサステナビリティ目標達成への貢献を目指しています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
▶ 水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報



サンサルボ工場チームが「環境リターン賞(Return on Environment Award)」を受賞



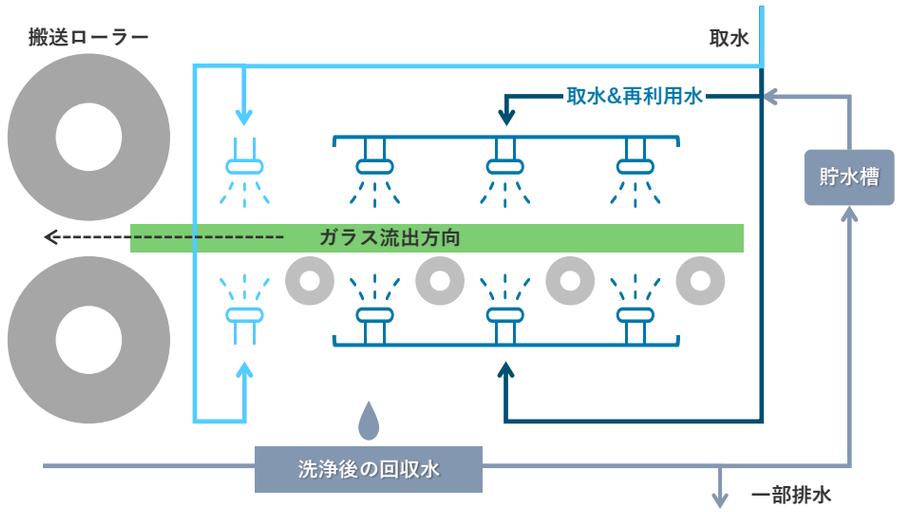
私たちの水の再利用は
ここから始まります

イタリアのサンサルボにおけるNSGグループのガラス溶融および自動車用ガラス製造拠点では、工場管理チームが地域コミュニティの水資源協議会と積極的に連携し、水の使用管理および改善活動に取り組んでいます。

サンサルボ工場では、緊急時の水供給管理システムも導入され、2024年にその運用テストが実施されました。この取り組みにより、2024年には45万㎥の水と198MWhの電力の節約を実現し、2025年には41万㎥を超える水を節約することができました。これは部門横断的なチームによって推進された良い事例であり、特に、夏季の水不足が深刻な地域において、企業のみならず地域社会にも明らかな利益をもたらしました。この取り組みは、従業員の意識向上、水使用効率の改善、および水不足のシナリオに備えた緊急対応計画に基づき実施されたものであり、2024年のNSGグループの「EHSアワード環境賞」を受賞しました。サンサルボ工場は、水管理およびプラントエンジニアリングサービスのパートナー企業であるヴェオリアから『環境リターン賞(Return on Environment Award)』も受賞しました。この賞は、生産性のニーズとのバランスを取りながら、環境および業務目標を上回る成果を達成した顧客を表彰するものです。

節水プロジェクト

サンサルボでの水関連プロジェクトに加え、他にも優れた節水プロジェクトがいくつか実施されており、大規模な節水プロジェクトが導入された事例があります。そこでは、雨水の回収に加え、ガラス洗浄機の水も再利用するシステムにすることにより、水の使用量を17%削減することができました。

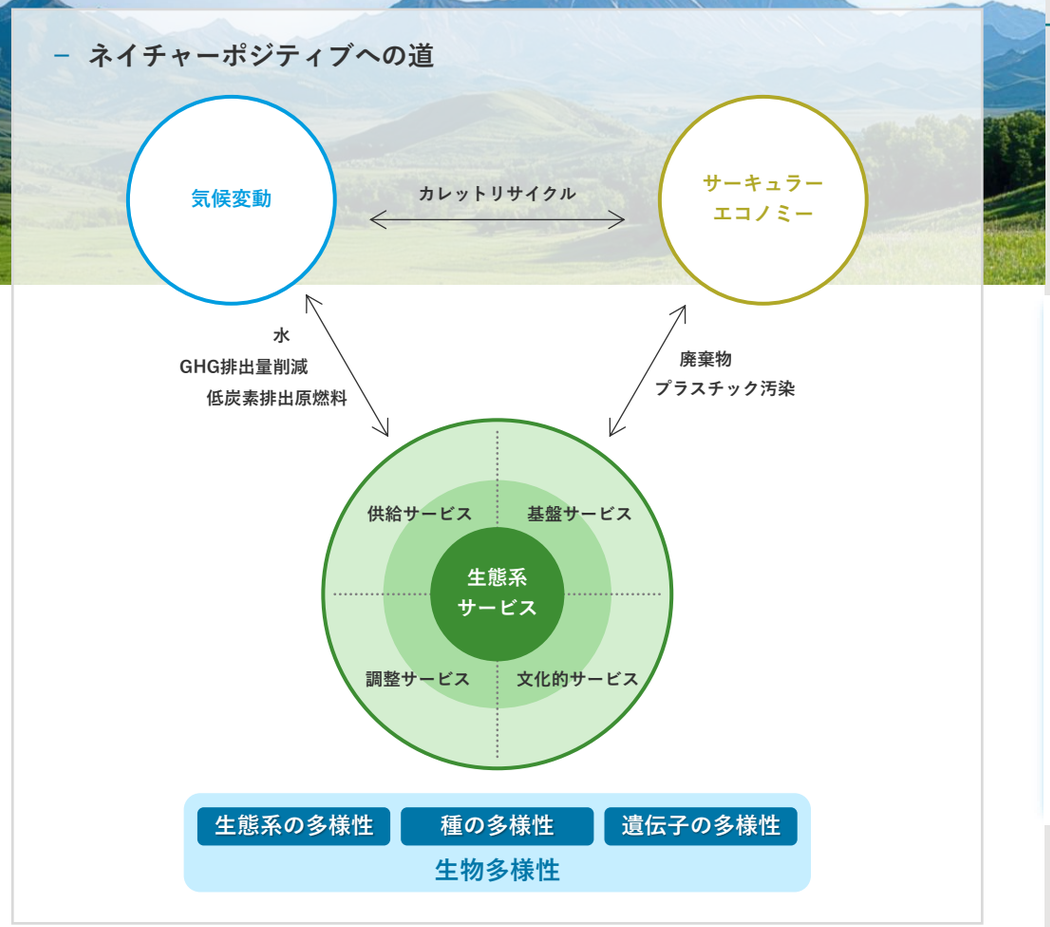


目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
▶ 水
自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

自然との共生

当社のビジネスと生物多様性

私たちNSGグループは、地球環境の持続可能性と調和した企業活動を目指しています。なかでも、生物多様性は健全な社会と経済の基盤であり、企業にとっても重要な責任領域のひとつと認識しています。



私たちは、「自然と共生する社会の実現」に向けて、生物多様性の保全と回復に配慮した事業運営を進めています。この考え方は、当社の経営理念やサステナビリティビジョンと整合するものであり、最も重要なマテリアリティである気候変動への対応や、資源循環の推進に加えて、生物多様性についても今後取り組むべきテーマの一つとして捉えています。

当社のビジネスは、原燃料の調達や水の供給などを生態系サービスに依存し、GHG排出、水利用、廃棄物など、自然に変化を及ぼし得る影響を当社の事業活動から生じています。これらは当社事業にとって、自然(Nature)に由来するリスクと機会をもたらしていると認識しています。例えば、ガラス溶融工程で用いる冷却水を自然環境から取水・自然環境へ排水しており、これらが自然環境に影響を及ぼす可能性があります。また、ガラスの原料である珪砂やソーダ灰、またガラスの溶融に必要となる燃料の供給を自然に依存しています。さらに、将来バイオ燃料の重要度が当社の脱炭素ロードマップにおいて高まるかもしれません。一方、当社は鳥の衝突リスクを低減する製品(Pilkington AviSafe™)を提供しており、このような生物多様性の保全に貢献する製品の提供は、当社グループに機会をもたらします。

2025年、NSGグループは生物多様性ポリシーを策定しました。事業活動が自然環境や生物多様性に間接的・直接的に影響しうることを認識し、ネイチャーポジティブの実現に向けて生物多様性の保全と持続可能な利用に配慮した事業運営を推進しています。また、TNFDのフレームワークに沿って、当社ビジネスの生態系への依存と、当社ビジネスが生態系に与える影響の調査を行い、初年度として現状把握・基礎的分析に重点を置いた試行的開示を行いました。分析の結果、事業継続性と競争力に直結する重要課題として、水資源管理を特定しています。今後さらに分析を進め、バリューチェーン全体へ評価を拡大し、グローバル全体を対象としたレポートの発行を予定しています。詳細は以下を参照ください。今後も、原材料調達から製造、製品提供、拠点の緑地管理、地域との連携に至るまで、企業活動のあらゆる場面で自然との関係を見つめ直し、「ネイチャーポジティブ」に向けて取り組んでまいります。

➡ 生物多様性ポリシー　➡ TNFDに沿った情報開示

製品と生物多様性保全

NSGグループでは、生物多様性保全に資する製品開発に取り組んでいます。NSGグループの英国拠点にて開発されたPilkington AviSafe™は、鳥の衝突リスクを低減する特殊コーティングガラスです。鳥に見えやすいUVパターンを採用し、建物の美観や透明性を損なうことなく生物多様性保全に貢献します。

米国をはじめ各地で鳥類保護ガラスの使用を求める規制が進む中、本製品は法規制対応と環境配慮を両立するソリューションとして、建築市場での競争力を高めています。断熱性や防音性など他製品との組み合わせにより付加価値も創出しています。環境課題への対応を通じて、顧客からの信頼やブランド価値の向上、持続可能な成長に資する収益機会の拡大にもつながっています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラー
エコノミー
水
▶ 自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

自社拠点における保全活動

日本・舞鶴事業所における生態系調査

日本の舞鶴事業所は、NSGグループの日本国内における最大規模の製造拠点であり、地域社会との強い結びつきを大切にしています。当社では、生物多様性の保全に取り組むうえで、事業活動による土地利用が地域の生態系に与える影響を正しく把握することが重要だと考えています。この考えに基づき、京都府および舞鶴市の行政と連携し、地元の市民環境団体の協力を得て、事業所敷地内の生態系調査を実施しました。調査の結果、京都府レッドデータブック掲載種である鳥類のミサゴやヤマシギ、植物のコガマ、昆虫類のミズアブに加え、要注目種である哺乳類のホンドキツネや爬虫類のアオダイショウなど、多様な生物の生息を確認しました。この結果は、事業所内に良好な生態系が維持されていることを示すものであり、今後も地域の生物多様性の保全と自然環境との調和に努めてまいります。

舞鶴事業所敷地内に設置した赤外線カメラで撮影されたニホンキジの姿



地元専門家と社員が協力して行う、舞鶴事業所での生物多様性調査





レイザム事業所に設置されている養蜂箱

英国・レイザム事業所における養蜂活動を通じた在来種ミツバチの保護と地域社会への貢献

英国のレイザム事業所では、数年来にわたりPostillion Pond付近にミツバチの巣箱を設置し、生物多様性の向上に取り組んでいます。近年、英国ではミツバチの個体数減少や外国産ミツバチの輸入増加が課題となっています。レイザム事業所では、BIBBA (Bee Improvement & Bee Breeders Association) が推進するNatBIP(National Bee Improvement program)に基づき、英国在来種の保全を目的としたミツバチの飼育を行っています。これにより、持続可能な生態系の維持と、地域固有の生物多様性の保全に貢献しています。この事業所に設置された巣箱は、Phil Reeves氏およびOrmskirk &Croston養蜂協会によって所有・管理されており、構内および周辺地域の植物や樹木の受粉を通じて、地域の生態系に貢献しています。巣箱から採取されたハチミツは社内のカフェテリアで販売され、その売上はすべてAlder Hey小児病院に寄付されています。この取り組みは、地域社会への支援だけでなく、従業員の環境意識を高める活動としても高く評価されています。

ブラジル・カサパーバ事業所における植樹活動

ブラジル・カサパーバ拠点では、無事故期間の継続を祝う取り組みとして、構内2拠点の間にある緑地に苗木を植える活動を開始しました。この小さな一歩は他のチームにも広がり、やがて拠点全体を巻き込むプロジェクトへと発展しました。活動は「Our Greener Glass(私たちの、より緑豊かなガラス事業)」と名付けられ、現在では毎月30本以上の苗木を植えることを目標に、定期的に実施されています。プロジェクトには会計年度末までのスケジュールが設定されており、すべての従業員が参加できるよう配慮されています。苗木の植樹は「エコウォーク」と組み合わせて行われ、従業員が自然とふれあい、未来への責任を考える貴重な機会となっています。

直近では、無事故3,500日を達成した記念として植樹を実施しました。これまでに植えられた苗木は、果樹や地域の在来種を中心に約300本にのぼり、ブラジル・アトランティックフォレスト地域の生物多様性回復にも貢献しています。



TNFDフォーラムへの加入

NSGグループは、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)の理念に賛同し、その活動を支援・促進するグローバルなステークホルダーネットワークである「TNFDフォーラム(TNFD Forum)」に参画しました。TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)は、企業や金融機関が自然資本や生物多様性に関連するリスクや機会を把握し、適切に開示することを支援する国際的なイニシアティブです。

当社は、TNFDのビジョンとミッションに賛同し、自然との関係性を経営判断や情報開示に組み込むことを通じて、サステナビリティ経営の一層の推進を図ってまいります。

また、TNFDフォーラムへの参画を契機として、今後はTNFD提言(ガバナンス、戦略、リスクと管理、指標と目標)の枠組みに沿った体系的な情報開示の実施に向けた取り組みを本格的に進めていきます。

TNFD Forum Member

*TNFDフォーラム

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
ビジネスと環境
気候変動・TCFD
事業を通じた貢献
エネルギー
サーキュラーエコノミー
水
▶ 自然との共生
社会編
ガバナンス編
その他情報

社会シフトイノベーション

私たちの目指す姿

NSGグループでは、事業を展開する主要地域である日本、米国そして欧州において研究開発を行っており、全ての事業部門を支援しています。3つの主要な研究開発センターと、各拠点に配置された複数のチームを擁し、当社の専門家が、基礎研究から製造への導入支援に至るまで、様々な開発を担っています。当社の技術開発は、ガラス製造・加工技術において長年培ってきた知見と多様な専門家チームを活かし、各事業部門（SBU）やお客様との協業を通じて、「価値を生み出す持続可能なイノベーションを推進」しています。当社の活動は、グループの財務目標の達成に向けて、以下の4つの「D」という柱に重点を置いています。

Business Development　Decarbonization　Digital Transformation　Diverse Talent



ケビン・サンダーソン
エグゼクティブコーポレートオフィサー
CTO（最高技術責任者）

Business Development

NSGグループには私たちのコアとなる技術を開発し活用してきた長い歴史があり、いくつもの世界初の技術とプロセスを生み出してきた誇りがあります。当社の研究開発活動では、フロートガラス、ガラスコーティング、ガラス繊維、ガラスフレーク、自動車用ガラス加工といったコア技術分野における新たな事業機会の可能性を模索しています。各事業部門、お客様、および外部パートナーとの緊密な連携やパートナー発掘活動を通じて、各分野において、段階的な開発と画期的な開発がバランスよく組み合わされたポートフォリオの構築を目指しています。

当社では体系化された研究開発プロセスの重要性を認識しており、ステージゲート方式を用いてプロジェクトを推進しています。幅広い研究開発活動に対応するため、アジャイルな考え方を導入し、部門横断的なチームワークをより重視するとともに、グローバルおよび地域の事業部門のステークホルダーとの対話頻度を高めることで、開発の加速を図っています。グループの目標やビジョンとの整合性は、経営会議における定期的な研究開発戦略の見直しを通じて確保されています。

当社の研究開発パイプラインの強化および新規事業の創出を図るため、有望技術の発掘、選定に向けた体系的なアプローチを以下のように継続的に進化させています。

- **グループ内での体系的なアイデア創出・改善プロセスの導入**
- **新技術に関して、世界各地の外部機関や大学との連携の拡大・強化**
- **新たなビジネスや技術の創出を促進するため、人材、スキル開発、研究開発施設への投資**
- **各事業部門、お客様、パートナーと協力し、機会の価値を見極め、ガラス産業およびその周辺技術分野に新たなサービスや創造的なソリューションを提供**

各事業部門で現在取り組んでいる内容をご紹介します。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
▶ 社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

– 建築用ガラス事業部門

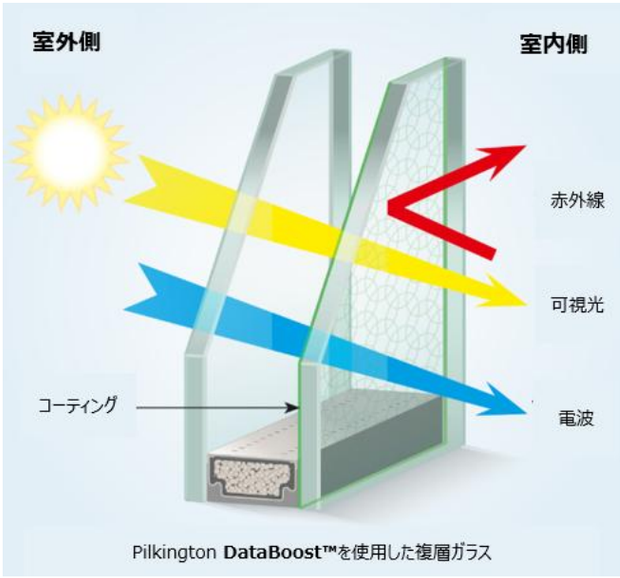
特定の市場において、トリプルガラスへ(三層複層ガラス)の需要の高まりが見られたことから、この市場向けに最適化されたソリューションを提供する機会が生まれました。Pilkington Optitherm™ S3 Plus の発売に伴い、当社は、優れた断熱性能を維持しつつ、その光学特性(外部反射の低減)を最適化した製品を市場投入しました。当社はオフラインコーティング(スパッタコーティング)の生産能力の拡大を進めており、2027年3月期中に日本およびポーランドで新たなコーティング設備が稼働を開始します。お客様の要求仕様に応じたコーティング技術、製品を迅速に提供できる体制の構築は極めて重要です。

Pilkington Reflite™ Vistaの発売は、当社が培ってきたイノベーションの伝統と、オンラインコーティング技術を最大限に活用する能力が着実に受け継がれていることを示しています。本製品は、部門横断的なチームが開発プロセスにおいて、効率性、専門知識、そして顧客重視の姿勢を絶えず発揮し続けている見本です。Pilkington Reflite™ Vistaは、商業用ビル向けにおいて高まるプライバシー性、視覚的な快適性、そしてモダンなデザイン性へのニーズに応えるべく設計されました。市場におけるニーズを認識し、事業開発チームと研究開発チームが連携してこの機会を迅速に評価し、新たな技術、製品を開発しました。製品の構想から開発、最適化、テスト、生産に至るまで、6ヶ月足らずで市場のニーズに対応する製品を市場投入することができました。Pilkington Reflite™ Vistaは、日射をコントロールする機能を備え、従来の反射ガラス製品と比較して外部からの反射率を最適化するとともに、室内側からの光の反射率を大幅に低減します。その結果、室外からの視線を遮り日中のプライバシーを向上させながら室内からの視界も向上させた、均一で鏡のようなガラス外観が実現しました。これにより、室内の映りこみやまぶしさを気にすることなく、現代的なデザインを実現できるようになります。



Pilkington DataBoost™もまた、市場のニーズに的確に応えるように設計された製品の例です。コーティングガラスの使用が増加した結果、一部の建物では電波の受信状態が悪化し、電子機器の利用者に影響が出ています。Pilkington DataBoost™は、優れた光学特性と断熱性能を維持しつつ、電波受信性能を向上させるソリューションを提供します。

特殊なレーザー技術を用いてコーティングされたガラス表面にパターンを形成することで、お客様が求める光学的・断熱特性を維持しつつ、通信性能を向上させることができます。太陽電池パネル用ガラスにおける当社の研究開発活動は、再生可能エネルギーの発展を引き続き支えています。この分野では、現在、既存および次世代の太陽光発電技術を支えるための基板に関する研究開発に取り組んでいます。学術機関やお客様と連携し、これらの技術に対する将来のニーズを先取りすることを目指しています。



Pilkington DataBoost™を使用した複層ガラス

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な 製品とサービス
サプライヤー
倫理・ コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

NSGグループは、ファーストソーラー社の薄膜太陽電池モジュール向けに、透明導電膜(TCO)をコーティングした高性能ガラス基板を供給しています。 ファーストソーラー社が、モジュールの性能、耐久性、およびライフタイム発電量を向上させる先進的なCuRe™技術の導入を進める中、NSGグループは、同技術の高度な性能要件を満たすよう特別に設計された革新的な新しいTCOコーティングガラス基板を開発しました。

この取り組みは、お客様との連携と技術革新そして持続可能な製品開発に対するNSGグループの姿勢を示しています。新製品は、太陽電池モジュールの高効率化と長寿命化を可能にし、再生可能エネルギーの発電量の増加、資源効率の向上、および製品ライフサイクル全体のCO_2排出量の削減に貢献します。NSGグループは、新しいTCOコーティングガラスなどの革新技術を通じて、持続可能な低炭素社会へのグローバルな移行に貢献していきます。

生産における脱炭素化は、引き続き主要な研究分野となっています。溶融工程で使用する燃料の変更や代替原料の検討に加え、こうした変更が生産設備に及ぼす長期的な影響についての理解も併せて行われています。私たちが、エンボディードカーボン(製造から施工までに発生するCO_2排出量)を低減した製品を求めるお客様の要件を満たすことを目指しているため、こうした変更が最終製品の耐久性や物理的特性に及ぼす影響は極めて重要です。

カレット(リサイクルされるガラス)の利用拡大は引き続き戦略上の重点課題であり、板ガラス業界がリサイクル可能なガラスの種類を拡大することや、リサイクルされたガラス原料に含まれる不純物によるリスクを軽減するために必要な技術について、調査が続けられています。私たちは、以下のガラスをリサイクルガラスとして活用できることを実証しました。

- **コーティング、印刷、鏡面加工を施した各種ガラス製品**
- **合わせガラス製品**
- **太陽電池パネル用ガラス**

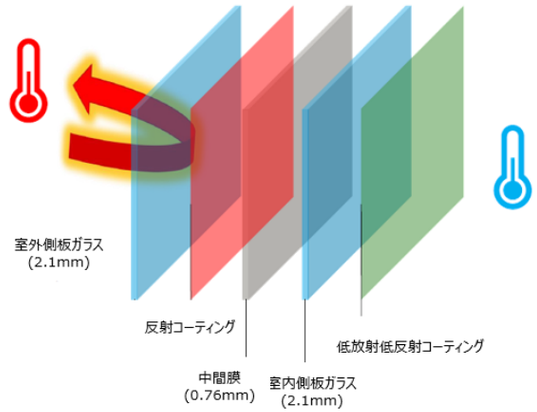
– 自動車用ガラス事業部門

自動車用ガラス事業における研究開発は、自動車業界のニーズの変化を先取りし、それを見据えた技術開発を推進することを中心に、引き続き戦略上の重点分野となっています。お客様との緊密な連携により、車両のプラットフォームや車両設計の進化に関する理解を深め、次世代の自動車を支えるために必要な先進技術の開発につなげています。主な重点分野には、ヘッドアップディスプレイ(HUD)システム、先進運転支援システム(ADAS)、およびその他の新しい自動車関連技術が含まれます。

製品の革新に加え、私たちの研究開発プログラムは、自動化やインテリジェント検査システムの開発を通じて、製造工程のデジタルトランスフォーメーションを推進しています。これらの取り組みにより、品質保証体制が強化され、生産性向上を実現し、お客様に世界最高水準の製品をお届けすることが可能になります。

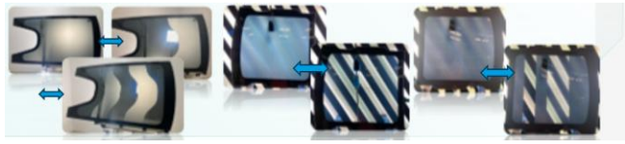
車体の形状が変化し、より大型のルーフガラスが採用されるようになったことを受け、技術開発を進めています。以下では、そのうち2つの事例を紹介します。

1つ目は、新たに開発した高性能ルーフガラス用ガラスソリューションです。本製品は、総日射透過率を10%以下に抑え、車内の快適性を大幅に向上させる技術です。これは、赤外線の反射率を最大限に高めることで日射熱の侵入を最小限に抑えるよう特別に設計されており、それによって車内の温度上昇を抑制し、車両の空調システムにかかる冷却負荷を軽減します。また、先進的なデュアルコーティング技術と専用に設計された中間膜を組み合わせることで、現代の自動車用ガラスに求められる光学的･機能的要件を満たしつつ、お客様の極めて厳しい仕様要件を達成することに成功しました。この革新的なソリューションは、乗客の快適性と車両全体のエネルギー効率の向上に寄与します。





2つ目は当社のPDLC技術（高分子分散型液晶技術）です。これにより、車両のルーフガラスを透明な状態と不透明な状態を切り替えることができます。技術の発展に伴い、お客様の体験を向上させるため、色調や調光エリアについてのカスタマイズが求められるようになっています。私たちの持続可能性の目標達成に向け、自動車業界における資源効率の向上を推進し、循環型経済への取り組みを支援し続けています。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
▶ 社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な 製品とサービス
サプライヤー
倫理・ コンプライアンス
ヒューマンキャピタル （人的資本）
ガバナンス編
その他情報

– 高機能ガラス事業部門
（クリエイティブ・テクノロジー事業）

高機能ガラス事業(クリエイティブ・テクノロジー事業）では、お客様の製品の進化に貢献するユニークな素材の開発･提供を通じて、市場に新たな価値を創造し、将来的な収益の柱となる事業の構築を目指しています。これまで培ってきたガラスおよび光学分野の技術を活かし、新技術の商業化に向けた研究開発を推進しています。

半導体・光学分野における研究開発

生成AIの普及や高速通信技術の進展に伴い、半導体にはさらなる高性能化･小型化が求められています。当社は、ガラス組成技術を活かし、次世代半導体向けのガラス関連技術の開発を進めています。低誘電特性と優れた寸法安定性を備えた低誘電ガラスフレークやガラスペレットは、高速･大容量通信を支える半導体デバイスの性能向上に貢献します。

また、微細貫通穴ガラス基板(TGV)では、低誘電損失･低熱膨張･マイクロクラックレスを実現し、次世代半導体パッケージ材料として注目されています。

さらに当社のマイクロ光学素子はレーザー光源モジュールなどへの応用が進んでおり、高精度な光制御を実現する要素技術として注目されています。今後は光電融合の課題解決に向けた開発を加速し、新たな価値の創出と市場拡大を積極的に推進していきます。

低誘電ガラスフレーク



微細貫通穴ガラス基板



拡張現実(AR)や仮想現実(VR)、自動運転、工場自動化(FA)の進展に伴い、高画質かつ高速な画像処理への需要が拡大しています。当社は、光学設計技術とゾルゲル技術を活用した超低反射･防曇コーティング材料の開発を推進しています。超低反射コーティング液はスマートフォン向けカメラモジュールに採用されており、さらに車載用など、多様な用途への拡大を図っています。

超低反射コーティング液





Digital Transformation

製造のデジタル化

「製造革新をサポートするR＆D」プログラムは、グループ全体においてデジタル製造技術の活用を拡大し続けています。

建築用ガラス事業部門および自動車用ガラス事業部門の製造プロセスのデジタル化を支える重要な取り組みとして以下を提供しています。

- **生産設備のデジタル接続性の向上**
- **リアルタイムでのデータ収集および製造実行システム（MES）**
- **標準化されたデータアーキテクチャとエンドツーエンドのトレーサビリティの強化**

これらの機能は、品質の改善、歩留まりの最適化、コスト削減を支援すると同時に、当社の研究開発活動を通じて開発された先進的なインダストリー4.0技術の導入も可能にします。

製造パフォーマンスの向上を図るため、人工知能や高度な解析技術がますます活用されるようになっています。機械学習モデル、デジタルツイン、および高度なプロセス制御システムが、操業に係る意思決定を支援し、エネルギー効率を改善させ、生産プロセスを最適化するために導入されています。その例としては、AIを活用したフロート工程支援ツール、品質や保守の予測システム、高度なコーティング工程の最適化、および製品の欠陥をより迅速かつ正確に特定･分類できる自動検査技術などが挙げられます。

マシンビジョン、インテリジェントセンサー、IoTデバイスおよびアプリケーション、シミュレーション技術、そしてAIベースの意思決定支援ツールの統合により、リアルタイムで状況を把握し、迅速な意思決定が可能な製造システムの高度化が進められています。これらの技術は、操業に関する知見を提供し、継続的な改善を支援するとともに、事業全般にわたる安全性、信頼性、および持続可能性のパフォーマンスを向上させます。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
▶ 社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な 製品とサービス
サプライヤー
倫理・ コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

これらの機能を基盤として、オペレーター支援ツールと知能を備えた自動化により人間の監督下で最適なプロセス運用を実現する、自律性の高い製造システムの実現に向けて、引き続き前進しています。

研究開発のデジタル化

製造現場の変革と並行して、イノベーションのスピードと効果を高めるため、研究開発活動のデジタル化を加速させています。自動化されたデータ収集、分析機器の統合、デジタルワークフロー、そして高度な生産性向上ツールが、当社のデジタルイノベーションシステムを変革し、研究データのより効率的な管理と活用を可能にしています。

人工知能は、当社の科学者やエンジニアにとって、ますます重要なツールになりつつあります。生成AI技術、デジタルナレッジプラットフォーム、および専門的な研究開発向けチャットボットに対する取り組みは、組織全体での知識共有を強化し、技術的専門知識へのアクセスを改善するとともに、グローバルな研究チーム間のより効果的な連携を支援しています。これらの技術は、研究者が機会をより迅速に特定し、問題解決を加速させ、開発活動の効果を高めるのに役立ちます。また、高性能コンピューティング、モデリング、機械学習の分野への投資によっても、研究開発においてより予測的なアプローチが可能になりつつあります。高度なシミュレーションツールは、新しいコンセプトの迅速な評価、仮想プロセス最適化、およびデジタルプロトタイピングを支援し、開発リスクを低減するとともに、新技術を市場に投入するまでの時間を短縮します。物理的な実験とデジタルモデリングを組み合わせることで、イノベーションを加速させると同時に、リソース活用の効率を向上させることができます。

将来に向けたデジタル人材・能力の構築

主要な大学、テクノロジー企業、そしてイノベーションパートナーとの連携は、デジタルトランスフォーメーションの取り組みにおいて、引き続き重要な役割を果たしています。これらのパートナーシップにより、新興技術や専門的な知見を活用できると同時に、製造および研究開発の両分野における次世代デジタルソリューションの開発を支援しています。

同様に重要なのが、人材への投資です。当社は、研修、リスキリング、能力開発プログラムを通じて、研究開発組織全体におけるデータサイエンス、AI、デジタルエンジニアリングの能力向上に引き続き取り組んでいます。デジタル人材の育成とイノベーションの文化の醸成を通じて、従業員が技術革新の最前線に立ち続けられるよう取り組んでいます。

Diverse Talent

NSGグループのグローバル研究開発部門は、北米、欧州、アジアで活動しており、15カ国以上の博士号取得者、大学院修了の科学者、エンジニアといった高度なスキルを持つ人材が結集しています。こうしたグローバルな体制により、幅広い技術的専門知識、視点、文化的背景を取り込みながら、多様性に富んだ協調的なイノベーションのエコシステムが形成されています。

地域を越えた連携は、グループの研究開発戦略の根幹を成しています。NSGグループは、世界中に分散したチームの知識と経験を結集して活かすことにより、アイデアの交換を促進し、イノベーションを加速させ、複雑な技術的課題や変化し続けるお客様のニーズへの対応力を強化しています。

NSGグループは、従業員の継続的な専門能力開発に取り組んでいます。研究者や技術専門人材に対し、専門知識をより深め、より広範な科学コミュニティとの積極的な交流を奨励しています。多くのチームメンバーが、国際的な科学委員会や専門機関で役職を務めており、個人の成長とそれぞれの専門分野の発展に貢献しています。NSGグループは、社内人材の育成にとどまらず、将来のSTEM(科学・技術・工学・数学)人材の育成支援においても積極的な役割を果たしています。私たちは、地元の学校や地域社会での取り組みを通じて、STEM分野でのキャリアを推進し、次世代の科学者やエンジニアの育成に貢献しています。さらに、NSGグループは世界各地の大学や学術機関と強固なパートナーシップを築き、長期的な科学の進歩や将来のイノベーションの機会につながる基礎研究プログラムにおいて協力しています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
▶ 社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

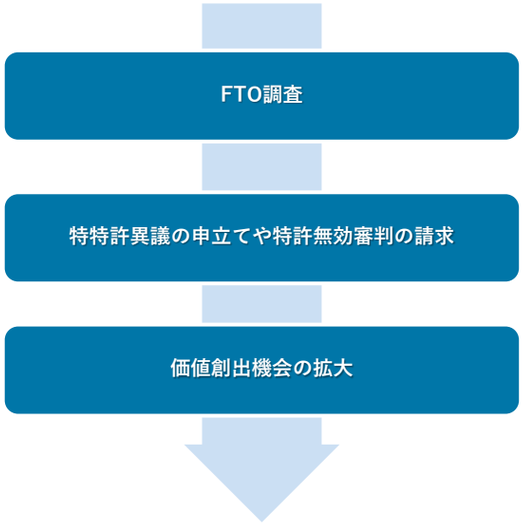
知的財産方針

NSGグループは、自社の専門技術分野において、リスクを管理しつつ事業目標の達成と競争力の維持を図るうえで、知的財産(IP)が重要であることを認識しています。

リスク管理

NSGグループは、技術革新に対して倫理的な姿勢を貫き、技術的な課題に対する斬新な解決策を模索するとともに、知的財産権侵害に関する根拠のない申し立てに対しては断固として反論します。

知的財産グループは、知的財産権に関する実施自由度(FTO)調査や、必要に応じて第三者の知的財産権(IPR)に対する有効性の異議申し立てを行うことにより、NSGが技術主導型の価値創造を実現するための道筋を積極的に確保するよう努めています。



コラボレーション

NSGグループが事業を拡大し、最先端の研究機関や企業とのつながりをさらに強固なものにするにつれ、私たちは自社の投資に見合う適切な権利と事業上の利益を確保するため、公平な契約の交渉において、知的財産(IP)部門が果たす役割がますます重要になっていることを認識しています。

戦略

知的財産グループは研究開発部門に所属し、知的財産ロードマップの策定と実行を通じて、各事業部門の事業戦略に沿った技術革新の開発において技術革新を支援し緊密に連携しています。

新製品および/またはプロセスの開発プロジェクト
知的財産の全体像の把握およびリスク軽減に向けた取り組み

推奨される解決策
知的財産権の登録および知的財産以外の資産の計上

プロセス/製品の実施/発売
権利の防衛および行使措置ー「**特許の優位性**」の実現

枠組み

NSGグループの特許戦略は、確立された知的財産管理の枠組みに基づいて策定されています。この枠組みにより、コア技術や新規事業開発に関連する知的財産権について、事業上の必要性に応じて適切に特定し、出願、権利化するとともに、維持、保護及び活用を行っています。

特許のポートフォリオ

NSGグループは、各事業部門の方針に沿った価値の高い特許や商標を取得することにより、グローバルな知的財産権ポートフォリオの拡充を続けています。

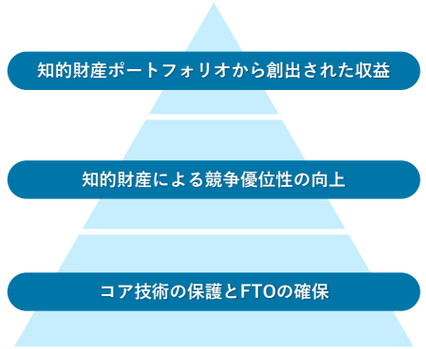
2026年3月期には、NSGグループは技術革新により275件の特許を取得しました。



最適化

知的財産グループは、NSGグループの知的財産ガバナンス、管理体制、および運営モデルの継続的な改善に努めています。また、当社グループが保有する重点技術分野におけるリーダーとしての地位を確立できるよう支援しています。

NSGグループは、事業戦略と連動した知的財産ロードマップの策定を通じて、全事業部門の成長を支える持続可能な価値創出型の知的財産戦略を確立・維持することを目指しています。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
▶ 社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な 製品とサービス
サプライヤー
倫理・ コンプライアンス
ヒューマンキャピタル （人的資本）
ガバナンス編
その他情報

NSGグループの人権への取り組み

NSGグループでは、事業活動のあらゆる側面において、最大限人権を擁護することに尽力しています。人権の尊重は、当社グループの価値観の基盤であり、持続可能な事業成功に不可欠です。当社の取り組みは、世界人権宣言や国連ビジネスと人権に関する指導原則を含む国際的な原則に基づいています。

NSGグループ 人権ポリシー

NSGグループは、世界中の多くの国で事業を展開する国際企業であり、世界のビジネス文化や慣習が多様であることを認識しています。当社グループの人権尊重の姿勢は、ポリシーおよびガイドライン上だけではなく、事業運営の仕方にも反映されます。当社グループは、国連世界人権宣言、労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関(ILO)宣言、国連ビジネスと人権に関する指導原則(UNGPs)、国連グローバル・コンパクト(関連条約を含む)に則り、人権を尊重します。NSGグループはさらに、グループにとって最も関連性の高い人権分野を特定しています。

データ保護

NSGグループは、過去、現在および将来のお客様、サプライヤーの皆様および従業員の権利とプライバシーの保護に努めます。個人に関する情報は、公正に収集、使用され、安全かつ確実に保管されなければならず、国際的なベストプラクティスと適用される法令に沿った方法でのみ開示され、必要以上の期間保管されません。

平等な待遇

NSGグループは、多様性のある多国籍企業として、経歴、人種、肌の色、信条、国籍、年齢、婚姻またはパートナー関係、妊娠および出産、性別、性転換、性的指向、宗教、民族または出身国家、障がい、労働組合への加入、支持政党、その他法律で保護される地位等、個人の違いにかかわらず、すべての従業員に均等な機会を提供することを目指します。また、採用選考、報酬、福利厚生、研修、昇進、異動、解雇において、その職責を考慮のうえ、すべての個人を平等に扱います。

適正賃金

NSGグループは、従業員の基本的ニーズを満たし、雇用国において適切な生活水準（Global Living Wage Coalition等の信用のある機関によって定められます）を確保できる公正な賃金と手当を従業員に支払います。

ハラスメント

NSGグループは、いかなる形態（身体的または言葉による）のセクシャルハラスメント、脅迫、ならびに経歴、人種、肌の色、信条、国籍、年齢、婚姻またはパートナー関係、妊娠および出産、性別、性転換、性的指向、宗教、民族または出身国家、障がい、労働組合への加入、支持政党、その他法律で保護される地位等、個人の違いを理由とする差別も容認しません。

虐待

NSGグループは、従業員一人ひとりに尊厳と尊敬の念を持って接し、体罰、暴力による脅し、その他身体的、性的、心理的、言葉によるハラスメント、虐待、脅迫を行いません。

強制労働

NSGグループは、強制労働、奴隷労働、囚人労働および軍事労働に従事しません。

児童労働

NSGグループは、児童労働に従事しません。「児童」とは、15歳（その国の法律で規定されている場合は14歳）、義務教育修了年齢、その国の最低雇用年齢のいずれかのうち、最も高い年齢基準に満たない者を指します。

結社の自由

NSGグループは、従業員が合法的かつ平和的な方法で、罰則や妨害を受けることなく、結社および団体交渉を行う権利を尊重します。

サプライヤー原則

NSGグループは、すべてのサプライヤーの皆様が、関係国、地域の法令、国連世界人権宣言および国際労働機関（ILO）中核的労働基準を遵守することを期待します。詳細については、「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」および「サプライヤー行動規範」に記載されています。

こちら をご覧ください。

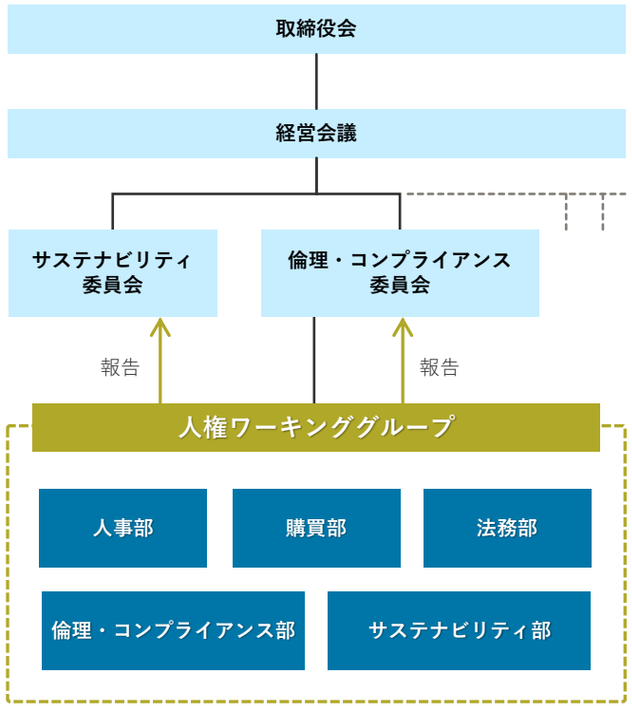
目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
▶ 人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

人権の尊重

ガバナンス・推進体制

経営会議の下部組織である倫理・コンプライアンス委員会において、人権に関する課題を議論するための場として人権ワーキンググループを設置しました。当ワーキンググループでは、倫理・コンプライアンス部、人事部、購買部、法務部、サステナビリティ部が参画し、バリューチェーン上、および当社における人権に関する幅広い課題について議論します。当ワーキンググループで議論された内容は、倫理・コンプライアンス委員会に報告されるとともに、取締役会が監督しCEOまたはその指名した者が議長を務めるサステナビリティ委員会にも報告されます。

推進体制図



人権デューディリジェンス

当社グループは、事業活動、サプライチェーン、およびビジネス関係において人権を尊重し促進するため、人権デューディリジェンスに取り組んでいます。これには、右記が含まれます。

この取り組みは、国連ビジネスと人権に関する指導原則などの国際基準に沿うものであり、誠実さ、透明性、説明責任をもって行動する当社の責任を反映したものです。

特定	定期的なリスク評価を通じて、潜在的および実際の人権リスクと影響を特定すること。
予防と軽減	対象を絞った行動と方針により、悪影響を予防および軽減すること。
監視と評価	対応策の効果を監視および評価すること。
関係者との連携	懸念事項や期待を理解するため、関係者と連携すること。
救済へのアクセス	権利に悪影響が及ぶ場合に、救済へのアクセスを提供すること。

NSGグループの重要な人権課題

2026年3月期には、倫理・コンプライアンス委員会で当社グループにおける特に重要な人権リスクを、ジェンダー平等・平等な待遇・ハラスメントと特定しました。これらを含めた人権課題に対し、以下の対応を行いその責任を果たしています。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
▶ 人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

人権の尊重

対応と責任

1. トレーニングと意識向上: 当社グループでは、従業員に対し人権課題とポリシーに関する定期的なトレーニングを実施し、組織のあらゆるレベルで意識と理解向上に努めています。

2. モニタリングと報告: 当社グループは、事業活動およびサプライチェーンを継続的にモニタリングし、人権に関するコミットメントの遵守を確認しています。人権に関する懸念事項がある場合には、当社グループの機密性の高い「NSGグループ倫理・コンプライアンスホットライン」等を通じて報告することを奨励しています。

3. 協働: 当社グループは、政府、NGO、同業他社を含むステークホルダーと協働し、人権基準の推進と尊重に努めています。

4. 継続的な改善: 当社グループは、進化する人権基準に対応するため、ポリシーや慣行を定期的に見直し、更新することで、継続的な改善に取り組んでいます。2026年3月期には倫理規範を改定し、そこでは重要な人権課題をまとめた図表を追加するとともにNSGグループ人権ポリシーへも言及しました。

NSGグループでは、人権の尊重は法的義務ではなく、道徳的義務であると捉えています。当社グループは、従業員、お客様、地域社会の皆様の生活にポジティブな影響をもたらすことを目指し、最高水準の倫理的行動規範を自らに課しています。

- 人権ポリシー
- NSGグループ倫理規範
- サプライチェーン憲章
- 紛争鉱物への対応
- サプライヤー行動規範
- NSG Group 安全衛生ポリシー
- ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョンの推進
- 環境保護
- 英国現代奴隷法の透明性にかかるステートメント*1
- ドイツのグループ会社によるドイツサプライチェーン・デューデリジェンス法にかかるポリシーステートメント*2

*1 英語のみ　*2 ドイツ語のみ

懸念事項の報告

当社グループ従業員、サプライヤーの皆様をはじめとするお取引先、その他の第三者の方々(当社グループの退職者の方、および当社グループと現在または過去に業務委託関係のある(あった)フリーランスの方を含みます)には、当社グループに関連して、この人権ポリシーまたは法令に違反している行為があったと思われる場合、「NSGグループ 懸念事項報告ポリシー」に基づき、上司もしくは関連する当社グループの管理職、人事部、監査部、法務部、倫理・コンプライアンス部または「NSGグループ倫理・コンプライアンスホットライン」に直ちに報告することをお願いしています。

NSGグループは、当該懸念を真摯に受け止め、迅速に対処します。また、非倫理的、違法または当社グループの倫理規範およびポリシーに沿わないと思われる行為について、たとえその懸念の事実が立証されない場合であっても、率直かつ真摯に報告された方に対する報復を禁じています。2026年3月期において、人権に関連するものも含め懸念事項の報告に対する報復案件はございませんでした。

(詳細は「倫理・コンプライアンス」をご覧ください。)



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
▶ 人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

ESG活動ハイライト

「あらゆる形態の貧困をあらゆる場所で終わらせる」- 国連

当社グループは、地域社会の経済的回復力と社会的包摂を育むため、積極的に支援を行っています。以下、事例を紹介します:

地域社会への投資: イタリアのサンサルボでは、自然災害後の学校再建や学生への奨学金提供など、様々な取り組みを通じて地域団体やコミュニティを支援しています。

従業員の参画: 当社の従業員は地域プロジェクトに積極的に参加しており、相互尊重と社会的責任という当社のコアバリューを体現しています。

「あらゆる年齢層の健康的な生活を確保し、すべての人の福祉を促進する」- 国連

当社グループでは、様々なグローバルおよび地域イニシアチブを通じて健康を推進しています:

職場の健康と安全

毎年10月には、NSGグループ安全の日を設け、メンタルヘルスや基本に立ち返るなど、その年ごとのテーマに基づき、グローバルなイベントを開催しています。これらの活動は安全意識の向上を促し、事故ゼロの職場実現という目標を支えています。（詳細は「健康と安全」をご覧ください）

メンタルヘルス啓発活動

- 当社グループでは、感情的なサポートとメンタルの回復力の重要性を認識しており、世界メンタルヘルスデーおよびメンタルヘルス週間を積極的に記念しています。
- 英国では、ウェルビーイング・ハブが設置され、精神的・身体的・経済的な健康にフォーカスしたリソースとパートナーシップの統合を行っています。
- ポーランドでは新たなウェルビーイング施策を実施中です。
- 南米では新たなウェルビーイング／メンタルケア支援策の開始を計画中です。
- 日本では毎年ストレスチェックを実施しています。組織ごとの分析結果に基づき、各部門長による主導のもと改善計画を策定し、従業員のメンタルヘルスのレベルアップを推進しています。

ハラスメント防止活動

ハラスメントを重要な人権課題として位置付けているように、インクルーシブで敬意のある職場づくりへの取り組みとして、ハラスメント防止研修を実施しました。

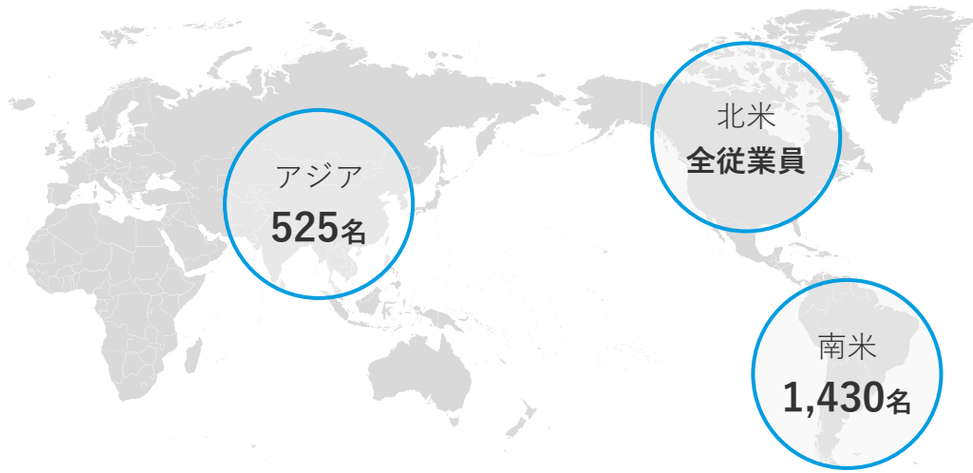
この研修は、言語的、身体的、視覚的、デジタル上のいかなる形態のハラスメントも許容しないという当社グループのゼロトレランス方針を強化し、すべての従業員が安全で敬意ある環境を維持するための責任を理解することを目的としています。

研修の内容：

- 禁止行為の明確な定義と事例
- 懸念事項を匿名で報告するための手順
- リーダーの責任
- 支援とフォローアップのためのリソース

これらの原則についての継続的な教育と強化は、信頼・尊厳・倫理的行動を重んじる文化の醸成に不可欠です。

これまでに研修を受けた従業員数：2026年3月期



NSGグループ ハラスメント防止ポリシー（日本）

「労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律」その他関係法令の改正を踏まえ、日本では「NSGグループ ハラスメント防止ポリシー（日本）」を定めるとともに、「カスタマーハラスメント対応ガイドライン」を制定しました。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
▶ 人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

NSGグループの安全管理システムは、「人こそが最も重要な資産である」というグループのビジョンと価値観に基づいています。従業員および事業活動を行う地域社会の安全確保は、当社の倫理的な企業経営理念の中核をなすものです。

詳細はNSGグループ 安全衛生ポリシー をご覧ください。

安全組織と戦略

当社グループの安全衛生を統括するサステナビリティ統括部長は、代表取締役社長兼CEOの細沼宗浩に直属しています。安全に関する月次報告は経営委員会(Executive Committee)において実施されます。また、より詳細なマネジメントレビューは、CEO、3つの事業部門の部門長(SBU長)、およびグループファンクションの責任者が参加する安全運営委員会(Safety Steering Committee)において、半年ごとに実施されています。

NSGグループは、職場における全ての労働災害は予防可能なものであると考えています。そのため、軽微なものであっても全ての事故・災害の報告を義務付けるとともに、あらゆる事象から学びを得られるよう、適切な調査を実施することを求めています。また、重点化事業所活動を実施しており、一定数を超える重大な労働災害が発生した事業所に対しては、追加の支援およびより頻繁なレビューを実施しています。

根本原因分析(Root Cause Analysis)の強化は、グループ全体の安全に関する改善戦略の重要な柱です。事故や災害の根本的な原因を特定することでのみ、グループ全体の事業運営を長期的に改善することができると考えています。

この改善活動を支援するため、NSGグループは2020年にEcoOnline社のEHS管理システムであるAVAを導入しました。その後、機能強化されたAVA 2.0へ移行し、2026年4月からAVA 2.0を運用しています。この新システムにより、行動観察および監査プロセスが強化されるとともに、事故データの分析機能が向上し、NABISプログラム(NSG安全文化改善戦略)をこれまで以上に強力に支援しています。

さらに生産現場における行動観察の精度を高めるため、AI(人工知能)を搭載したCCTV(監視カメラ)の導入を進めています。現在、主に大規模拠点を中心に、世界35拠点で196台のカメラが稼働しており、不安全な状態やリスクを日常的に自動検知・記録しています。これにより、従業員や管理者が危険な行動を認識し、是正することを支援しています。現在は、中小規模の事業所への展開も継続的に進めています。

2026年3月期の安全実績

重大災害発生率(SIR：Significant Injury Rate)は、専門的な医療処置を必要とする負傷、または同じ業務を継続できず休業を伴う負傷を対象とし、労働時間20万時間当たりの発生率として表しています。2026年3月期のSIRは0.28となり、2025年3月期と比較して10%改善しました。

2026年3月期は特に経験の浅い作業者への教育訓練及び、ルール遵守に重点を置いて活動を進めてきましたが、その効果で1年未満の経験の浅い従業員に関連する労働災害の比率が約50%低減しました。しかしながら、一人当たりの災害発生率でみた場合、1年未満の経験者が最も高いことは変わっていません。引き続き、経験の浅い従業員層に重点を置き、教育やルール遵守の更なる強化を進めていきます。

当社グループでは、重大災害の発生頻度の低減に加え、「死亡災害ゼロ」を目標として掲げています。これは、死亡事故および永久的な障害につながる重篤な災害の防止を意味しますが、2026年3月期においてはこのような重篤な災害は発生しませんでした。こうした重篤な災害を根絶するため、高リスク作業に対する改善活動を着実に進めています。昨年度には、合計19種類の高リスク作業に関するガイドラインの策定を開始しました。2026年3月期中にそのうち8件のガイドラインを完成させ、残る11件についても策定を継続しており、2027年3月期中の完成を目指しています。

また、昨年度からNSGグループは、製造拠点を対象とした「無災害認定制度」を開始しました。この制度では、一定年数以上にわたり無災害を継続した拠点を認定・表彰するもので、各拠点の人数規模と無災害継続年数に応じて「ブロンズ」から「ダイヤモンド」までの5段階の無災害認定レベルを設けています。制度開始初年度である2026年3月期には、全拠点の77%にあたる178拠点が無災害認定を取得しました。この認定は毎月末に評価され、次回のNSG安全の日において認定証が授与されます。各製造拠点では、この認定取得・維持を目標として、日々安全活動を推進し、無災害の継続に取り組んでいます。

NSGグループの安全への取り組み

NSGグループは、「NABIS(NSG安全文化改善戦略)」と呼ばれる取り組みを通じて、積極的な安全活動の推進を継続しています。このプロセスは、「リーダーシップと文化」「4つの観点からの安全(Safety in 4 Ways)」「高リスク作業」という3つの主要分野で構成されています。このうち「リーダーシップと文化」は、①目に見えるリーダーシップ、②責任と説明責任、③コミュニケーション、④教育訓練、⑤参画の5つの要素から成り立っています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
▶ 健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

NABIS

= NSG Anzen Bunka Improvement Strategy
（NSGグループ　安全文化改善戦略）

カテゴリー	幹部/ミドルマネージャー	第一線のマネージャー（職長）	従業員
目に見える、強調されたリーダーシップ	現場でのコーチングに時間を割く	安全について話し、行動する	話し合って安全を確保する
責任と説明責任	高い基準を設定する	ルールを守らせる	ルールを守る
双方向コミュニケーション	コミュニケーションの場を作る	安全について従業員に語りかけ話を聞く	積極的に話をする
継続的な訓練	効果的な教育計画を作成する	職場で必要な訓練を決めて実行する	訓練に積極的に参加する
インボルブメント（活動への参画）	安全活動への参画を奨励し支援する	安全活動への参画の機会をつくり出す	安全活動に参画する
NSGの従来からの安全活動が基礎となる（4Ways・高リスク低減活動（Project Tracking）など）			

1. 目に見えるリーダーシップ

事業のあらゆる階層のリーダーは、例えばGEMBAウォーク*(現場巡視)などの活動を通じて、自らのリーダーシップを見える形で発揮し、実践することが求められています。これにより、現場のリーダーや従業員との対話の機会を増やし、安全改善の機会について議論しています。また、GEMBAウォークのさらなる改善を図るため、実施件数の測定や、その活動から得られた情報のレビューを実施しています。すべてのリーダーは、当社が定める10項目の重要なリーダーシップ行動について自己評価を実施し、自ら模範を示すことを求められています。同時に、例えば「危険な行動を見過ごさず、必ず本人に声をかける」といった基本的な行動が、職場の中で守られているかなどを継続的に評価しています。

*現場ウォーク：管理職が作業現場に赴き安全管理状況を確認するとともに、現場作業者とのコミュニケーションを通じて職場の安全上の課題を見つけ改善していく活動のこと。

2. 責任と説明責任

リーダーシップチームは、従業員が担当業務に関する手順書や安全ルールを確実に遵守するよう管理する責任を負っています。また、従業員が業務を適切に遂行するための能力を備えているかを継続的に確認することが求められています。これもGEMBAウォークのプロセスの一部であり、リーダーは現場で従業員の作業状況を観察し、教育・改善の機会を特定します。さらに、事業活動のあらゆる領域においてリスクの特定と定量的なリスク評価を推進しています。

3. コミュニケーション

安全に関するコミュニケーションの向上は、双方向の対話やミーティング、及び従業員とその代表者(労働組合)との定期的な安全会議を通じて実施されています。これにより、災害発生後の対応策(リアクティブな安全活動)と災害予防活動(プロアクティブな安全活動)の両方について、明確な情報共有を図っています。リーダーシップチームは、このコミュニケーションプロセスが効果的に機能していることを確実にする責任を負っています。2023年3月期には、建築用ガラス事業、自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業(クリエイティブ・テクノロジー事業)の大規模生産拠点を対象に安全文化サーベイ(調査)を導入しました。また、2025年2月には第2回調査を実施しています。この調査は、各拠点の安全文化の現状についてリーダーシップチームへフィードバックを提供するとともに、従業員が匿名で意見や提案を提出し、安全文化改善に貢献できる仕組みとなっています。

さらに、一部の地域や国では、労働組合との正式な協議・意見交換も行っています。例えば欧州では、ドイツ、スペイン、イタリア、フィンランド、英国などの労働組合とのフォーラムを6か月ごとに開催しています。

4. 教育訓練

従業員が安全かつ倫理的に業務を遂行し、会社のコミットメントを果たすには、仕組みとそれを使うための十分な能力が必要です。そのため、各従業員の能力、および必要とされるトレーニングについて、継続的に見直す必要があります。NABISの枠組みにおいて、リーダーは従業員が業務を安全に遂行するために必要な知識を適切に備えていることを確認する責任を負っています。

5. 参画

従業員が安全活動へ積極的に参画することを促すことはリーダーの重要な責務です。NABISでは、リーダーシップチームに対し、安全プロジェクトへのチームや個人の参画機会を積極的に創出することを求めています。その一環として、多くの大規模製造拠点では提案制度の導入や改善活動への参加を推進しています。

また、従業員が全員参画する機会として、毎年10月に、NSGグループ安全の日を設定し、グループ全員で安全について考える日としています。2025年は10月 9 日に全世界の拠点で関連イベントが実施されました。昨年の共通テーマは「新入社員教育と安全ルールの遵守」でした。我々の目指す安全文化である、「相互啓発」に対して、従業員全員で取り組むことを再確認するために、各地の事業所において全員参加で安全活動が実施されました。

ドイツ　ゲルゼンキルヘン



スペイン　サグント





目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
▶ 健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

NABISでは、リーダーシップチームに対し、高リスク作業を適切に管理することを求めています。

前述のとおり、すべての高リスクな作業において、グループ全体で一貫したレベルの取り組みを実現するために、すべての高リスク作業の標準的なガイドラインを作成しています。また、これまですでに取り組んできた下記の高リスク作業に関しても、継続して重点的に注力しています。

- **転落の危険がある場所での作業**
- **車両と歩行者の安全**
- **機械安全：**
  ガード、FASS*、アイソレーション（エネルギー遮断）
- **協力会社の安全（許可証含む）**
- **重量物の運搬：**
  ガラスの移動、安全な積み荷の搬送、吊り用クランプ、台車、パレット
- **業務上の運転全般**

また、NABISに関するグループの取り組みを強化するため、世界各地の大規模拠点を対象に検証(Verification)プロセスを実施しています。このプロセスでは、グループ内の安全衛生の専門家が、大規模製造拠点から提出された自己評価結果をレビューし、その妥当性を確認します。

この検証プロセスは、各工場のリーダーシップチームに対する業績評価の一部として位置付けられています。

*FASS （Frequent Access Safety System）：インターロック等で装置を部分的に停止させる仕組み

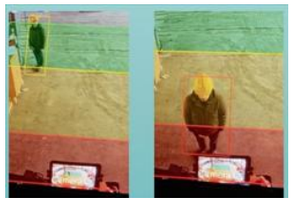
安全を次の段階に進めるために

安全に関する戦略は、従来通り安全管理ツールと安全プログラムの有効性改善に重点を置いて推進されます。その目標は、NABISへの継続的な取り組みを通じて、高いレベルの安全文化を実現することです。今後は以下を重点項目として取り組んでいきます。

- **従業員の安全意識を高め、危険に対する感受性を向上させるために、ビデオによるトレーニング教材を開発作成し、日常的な教育に取り入れていきます。**
- **また、フロート窯の定期修繕を代表とする、大型工事における災害の発生を防止するため、事前の監査の手法を導入し、リソースを含めたその準備状況をあらかじめ確認します。また、可能な案件においては、CCTV＋AIの技術をスポット的に導入して、常時監視体制を準備します。**

同時に、以下の重点施策により、現場に潜在する高リスクの低減を推進します。

重点施策 - 1









車両と歩行者の安全性に関して、これまでに実施したリスクの洗い出しをベースにさらなる改善を加速します。特にTAGシステムやカメラシステムの導入の拡大に焦点を当てます。

リアカメラフットプリントセンサー
レッドゾーンとグリーンゾーン

↓ 次のステップ

衝突防止システム

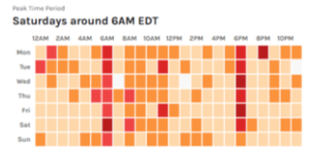
重点施策 - 2

発生した重大災害(Significant Injury:SI)の中から、重篤なリスクを持つ出来事(VHPS:Very High Potential Severity)に焦点を当て、グループ内の全ての拠点で共通するリスクの低減対策を完遂します。

重点施策 - 3









NSGグループでは、事業所内の危険要因、安全でない状態、および危険行動を検知するため、既存のCCTV(監視カメラ)ネットワークに人工知能(AI)を組み合わせたシステム(CCTV＋AI)を導入しています。この技術は、リスクを未然に低減するための予防的な安全管理を支援するとともに、危険な行動や不安全な状態に対する注意喚起を行い、その削減に役立っています。導入は、リスクの高い事業所で完了しており、現在は中程度のリスクを有する事業所への展開を進めています。AIはCCTV映像をリアルタイムで継続的に分析し、あらかじめ設定された安全ルール違反を自動的に特定、追跡、および記録します。この取り組みは、安全文化の変革を促進するとともに、各事業所がリスク低減に向けた具体的な対策を講じることを可能にしています。

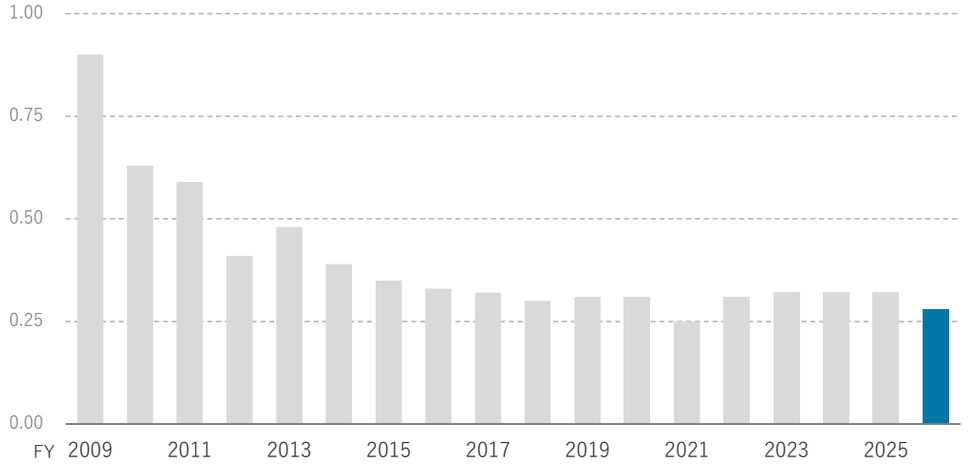
目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
▶ 健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

健康と安全

重大災害（SI）、休業災害（LTI）、死亡災害

		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
重大災害件数* *休業災害と死亡災害含む	従業員	76	88	81	64	71	78	76	67	69
	契約社員	17	11	19	7	15	13	18	23	11
	計	93	99	100	71	86	91	94	90	80
休業災害件数	従業員	26	36	32	16	19	25	30	33	30
	契約社員	8	6	6	4	6	3	9	9	10
	計	34	42	38	20	25	28	39	42	40
死亡災害件数	従業員	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	契約社員	0	0	0	1	2	0	0	0	0
	計	0	0	0	1	2	0	0	1	0
重大災害度数率(SIR)	従業員	0.27	0.31	0.29	0.25	0.28	0.31	0.29	0.26	0.27
	契約社員	0.56	0.36	0.45	0.24	0.51	0.40	0.51	0.79	0.39
	計	0.30	0.31	0.31	0.25	0.31	0.32	0.32	0.31	0.28
休業災害度数率(LTIR)	従業員	0.09	0.13	0.12	0.06	0.08	0.10	0.12	0.13	0.12
	契約社員	0.26	0.20	0.14	0.14	0.20	0.09	0.26	0.31	0.36
	計	0.11	0.13	0.12	0.07	0.09	0.10	0.13	0.15	0.14
休業日数	従業員							1850	1234	1030
	契約社員							495	427	621
	計							2345	1661	1651

重大災害度数率（SIR）



重大災害件数（件）

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
ガラス取り扱い中の切創	37	33	33	42	31	36	21	22	21	24	19	16
手作業	24	24	24	26	39	29	16	37	31	35	30	25
滑り/躓き/転倒	11	14	13	9	13	14	11	5	9	19	10	14
エンジニアリング(建設、工事関係)	1	8	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
機械作業	7	13	13	5	4	4	11	6	12	4	9	7
ブレード刃による切創	4	9	7	3	6	3	7	4	5	6	4	5
転落	11	1	3	5	2	7	0	4	3	1	3	1
その他	17	10	10	2	4	6	5	8	10	5	15	12

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
▶ 健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

安全で高品質な製品とサービス

私たちの願い

「安全で高品質な製品とサービスを提供し、お客様に付加価値を提供します。組織のあらゆるレベルで顧客中心の「品質文化」を体現し、顧客満足度の向上と、直接的および間接的な品質コストを継続的に削減します。デジタルツール、分析手法、高度な自動化をフル活用し、製品サイクルのすべての段階にわたり品質改善のプロセスを支援します。」

中期経営計画の一環として、当社グループはお客様に安全で高品質な製品とサービスを継続的に提供することを目指しています。



3つの重要分野における支援プログラム

お客様の満足度

製品とサービスへのRight First Time プログラム(最初から正しい方法で)の導入

オペレーショナル・エクセレンス

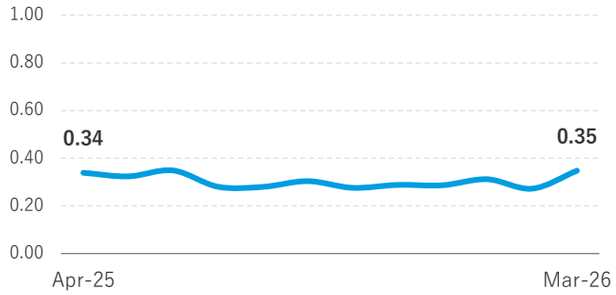
お客様の満足度

NSGグループは、一貫した顧客満足を実現するための基盤として、また製品品質リスクに対する防御の最前線として、すべての戦略事業部門においてISO9001:2015およびIATF16949の認証を受けたマネジメントシステムを導入しています。

また、「Right First Time(最初から正しい方法で)」、「Pass Only Good Glass(良質なガラスのみを届ける)」といったグループ全体の各種取り組みや、新たな製造管理システムへの品質管理機能の統合なども、このビジョン実現に向けた取り組みを支えています。特に、従業員の品質文化と品質行動に重点を置いて活動しています。

2026年3月期のグループ品質事故率(QIR*1)はわずかに悪化しましたが、中長期的な改善目標に向けた取り組みを継続しています。中期目標は2030年3月期までにQIRのさらなる削減とメジャー品質スパイク*2(件数)のゼロを達成することです。各工場では「エクセレント・プラント」の考え方に基づき、グループ共通の改善ツールを活用しながら、新しいNSGパフォーマンスシステムで測定される高水準のオペレーショナルエクセレンスの実現を目指しています。

「NSGの品質事故率（QIR*）の推移」



QIR12 = 品質事故率12か月移動平均
注: 月次実績は、各会計年度の3月末の為替レートを用いて計算されます

*1 QIR：外部顧客に影響を与え、財務的影響が0.01億円を超える品質事故の発生を、売上高に対する比率で示す指標

*2 メジャー品質スパイク：外部顧客に影響を与え、財務的影響が1億円を超える品質事故

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
▶ 安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

安全で高品質な製品とサービス

品質文化の定着

品質文化は、人々の品質に対する意識や行動に関わるものです。データに基づくグループの指標およびKPIの設定が、改善および管理プロセスを推進します。組織のあらゆるレベルにおける経営陣のオーナーシップこそが、強固な品質文化の基盤となります。

NSGグループの品質文化プロセスは、責任範囲を明確に定義したグループのプロセスおよび手順を基にした、5つの要素から構成されています。グループの「3つの防衛線」のアプローチに変更はありませんが、一部の手順やプロセスは、従業員の行動を牽引する強い顧客志向を強調するよう改訂されました。

予防

品質問題の発生を未然に防ぐことを最優先としています。製品開発の初期段階からグローバルで標準化した開発手順を適用することにより、プロセス能力が顧客要件に適合していることを確保します。

封じ込めおよびエスカレーション

これらの手順を通じて、品質上の懸念事項を迅速かつ適切に把握し、適切な優先順位のもとで対応ができるようエスカレーションを行います。

根本原因分析

顧客のベストプラクティス基準を反映した改訂版の継続的改善手順書に定めています。

プロセスの標準化

プロセスの標準化を推進し、より効果的な品質マネジメントを実現します。

従業員への教育・訓練

継続的な教育や訓練を通じて、高いレベルの知識とノウハウの維持に努めています。

品質方針

品質課題管理手順

- 新製品や新プロセス
  - グローバル開発手順
  - 予防品質の基本方針
- 顧客品質対応手順
- 品質インシデント分類・エスカレーション方針
- 大部屋型改善手法
- 新継続的改善プロセス（2024年10月に改訂）
- 技術・品質知識の蓄積・活用 (FMEA、ベストプラクティス等)
- ウェビナー、研修会、製品加工工程の教育、動画配信、品質の日＆週間

クオリティ・ウィーク（品質の日＆週間）

品質への意識や優先順位を高めるため、グループ横断で「クオリティ・ウィーク(品質の日＆週間)」を継続的に実施しています。2026年のスローガンは「異なる角度から考えよう(Quality: Think Differently)」でした。期間中は世界各地の拠点において、品質に対する従業員の意識向上のためのさまざまな活動が実施されました。多くの品質改善活動における従業員の積極的な参画を促すため、品質改善の表彰も行いました。

2027年3月期においてはさらに、品質の卓越性(クオリティ・エクセレンス)の実現を目指す拠点を支援するための「品質重点拠点(Quality Focus Site)」の展開に向けた準備を進めるとともに、引き続きグループの社内イントラネットを通じて品質メッセージを定期的に発信する予定です。

当社グループは強固な品質文化プログラムを構築しており、クオリティ・ウィーク(品質の日＆週間)を通じてさまざまなチャネルでその推進・展開を行っています。この取り組みを通じて、顧客およびステークホルダーに対する価値創造の実現を目指しています。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

責任あるサプライチェーンガバナンス

NSGグループでは、公正かつ持続可能な調達プロセスの実現を目指しており、購買担当者の全員が、贈収賄防止や企業倫理をはじめとする幅広いESGに関連する教育を受けています。また、約170名の担当者がサステナビリティ原則および循環経済に関する教育を受けており、すべてのサプライヤーに対しても同様のESGに対する意識とコミットメントを期待しています。私たちは、サプライヤーに対する期待について、2つの階層を設定しています。サプライヤー行動規範とサステナブル・サプライチェーン憲章です。サプライヤー行動規範では、ESGの分野における物品およびサービスのサプライヤーに期待する最低限の基準と行動を定めています。新規のサプライヤーおよび既存のサプライヤーのすべてが、この行動規範に署名するか、もしくは当社グループの基準を満たす自社の行動規範の適用を求めています。



2023年9月に発行されたサステナブル・サプライチェーン憲章は、ISO 20400の方法論に沿って策定され、行動規範を超えた行動を強化し、加速することで、当社グループの持続可能性目標を実現することを目的としています。この憲章は、サプライチェーンにおける8つの主要な持続可能性への影響分野に関して、NSGグループの現在および将来の目標を明確に述べています。私たちは、多様なグローバルサプライヤーと協力し、お客様、投資家、従業員、そして私たちが事業を展開する地域社会にプラスの影響をもたらしたいと考えています。NSGのサプライヤーには、以下の8つの優先分野において、継続的な改善に向けて当社と協力していただくことを期待しています。



2026年3月期のサプライヤーエンゲージメント

サプライパートナーは、NSGグループの成功に欠かせない存在です。サプライヤーの皆様は、コスト面だけでなく、品質、サプライチェーンの強靭性、持続可能性、革新性、リスク軽減、倫理観、多様性など、その他の重要な側面においても、NSGグループの競争力強化に貢献していただいています。NSGグループの成功におけるサプライヤーの重要性は、調達ミッション「Leveraging our Supply Chains, Improving our World(サプライチェーンを活用し、世界を改善する)」にも明記されています。

私たちは、サプライチェーン全体の能力を最大限に活用し、NSGだけでなく、サプライヤー、顧客、投資家、従業員、事業を展開する地域社会を含むすべてのステークホルダーの利益に役立てたいと考えています。私たちは、当社グループの基本的価値観と信念を共有するサプライパートナーとの事業拡大を目指したいと考えています。そのためパートナーとのビジネスレビュー会議においてサステナビリティを議題として取り上げており、購買サステナビリティチームが支援に参画しています。

私たちは、小規模で多様な企業にとっての機会を増やすことも目指しており、2026年には多様なサプライヤーポリシーを策定し、CEOにより承認されました。2026年3月期の小規模または多様な(多様なサプライヤー)比率は約3.7%となり、目標の２％を超えています。サプライヤーとの契約上の取り決めは重要ですが、人と地球との調和を図りながら事業を展開し、両者の繁栄と成長を支援するという倫理的な基盤を確立する必要があります。NSGグループは、契約条件が中小企業や多様なサプライヤーにとって事業参入の障壁となり得ることを認識しています。そのため、こうし

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
▶ サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

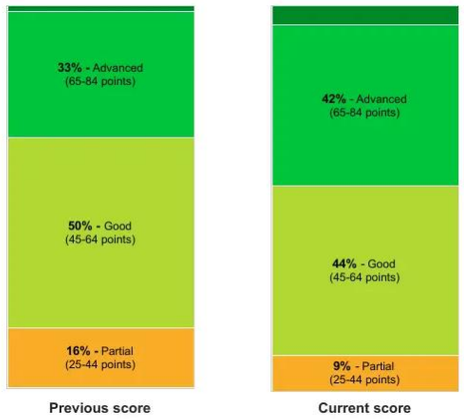
たサプライヤー向けに、保証や保険などの要件を一部緩和した特別な契約条件(PCPX)を導入し、当社グループとの取引を行いやすくするための実務的な支援を提供しています。これらの契約条件は、当社ウェブサイトで公開しています。

この憲章は、私たちとサプライヤーが持続可能性に関する有意義な行動と成果を達成するための「北極星」として役立っています。グループは、サプライヤーがこの憲章に概説された原則を受け入れ、その要件を満たすことを期待しています。そうしたサプライヤーは、NSGグループとのさらなるビジネスチャンスを開発する上で有利な立場に立つでしょう。サプライヤーと協力し、リスクを低減しレジリエンスを高めるとともに、各社の事業に最も大きな影響を与える分野を優先して取り組んでいきます。NSGはまた、サプライチェーン・サステナビリティ・スクール の研修リソースへのアクセスもサプライヤーに提供しています。

人権とデューデリジェンス

2026年3月期よりリスク評価ツールを活用し、サプライヤー基盤の最大99%を対象とした積極的なモニタリングを開始しました。「倫理」「労働・人権」「環境」「持続可能な調達」の4つの重点領域におけるリスクを評価しています。(図(a))

図(a)
サプライヤーのEcoVadis総合スコアの推移（前年比較）

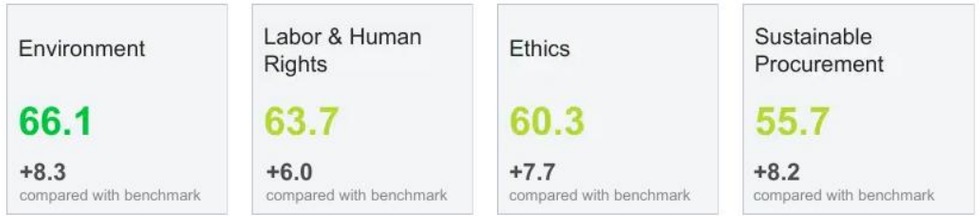


2026年3月期は、特に「非常に高いリスク(Very High Risk)」と評価されたサプライヤー数の削減を重点課題として、サプライヤーリスクマネジメントを強化しました。改善が必要なサプライヤーに対する個別の改善計画の策定、および新たなエスカレーションプロセスの導入により、サプライヤーのパフォーマンス上の懸念事項を体系的に管理する体制を構築しました。必要に応じて現地監査を実施し、協力姿勢が不十分な場合または重大な問題が確認された場合には取引関係の見直し・終了も行います。これまでのところ、本プロセスの対象となったすべてのサプライヤーは改善に対する強いコミットメントを示しており、是正措置計画および改善活動に全面的に協力しています。その結果、現地監査の実施や取引停止といったエスカレーション措置が必要となった事例はありません。

強制労働や児童労働、従業員の福祉、適正な賃金の支払いといった事項は、当社グループの行動規範(Code of Conduct)および標準購買条件(PCP3)において求める基本的な要件です。一方で、リスク評価を活用してパフォーマンスに課題のある企業を特定し、その改善を支援しています。その成果はEcoVadis評価にも表れており、サプライヤーの平均スコアは毎年継続的に向上しています。また、これらの分野における当社グループのサプライヤー平均スコアは市場平均を6ポイント上回っており(図b)、前年度からは3.7ポイント向上しました。(図c)

より強靭でレジリエントなサプライチェーンの構築を目指し、供給網における潜在的な供給途絶リスクへの理解を深めるため、Willis Towers Watson社に委託してサプライヤー基盤に関する物理的リスク評価を実施しました。

図(b) 4つの評価項目における当社サプライヤーのEcoVadis平均スコアと製造業平均との比較



図(c) 当社サプライヤーの労働・人権スコアの改善状況（前年比較）



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
▶ サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

脱炭素化への取り組み

NSGグループは、これまで10年以上にわたって、グローバルな相互協力のもとグループ全体のエネルギー効率化プログラムを実施しています。2021年以降、購買部門はスコープ3の排出量に焦点を当て、主要なサプライヤーと協力しサプライチェーンにおけるCO_2の排出量動向をこれまで以上に理解するとともに、ベストプラクティスの特定と共有を図りました。NSGグループはSBTiを通じて、2030年までにスコープ3の排出量を30%削減することをコミットしています。2025年のスコープ3排出量のカテゴリー別詳細は図の通りです。

削減は直線的には進みません。すべての脱炭素計画には、投資と実行のための時間が必要だからです。NSGはサプライヤーと協力して、それぞれの計画を把握し、整合性を保ちつつ実行されるよう取り組んでいます。2025年には、2024年比で8%の削減を達成しました。またスコープ3排出量の75%を占めるカテゴリーについて、サプライヤーから収集した認証済みの一次データを導入しています。第三者検証を受けたデータを一次データとして開示し、その比率を高めることで、支出額ベースの算定手法への依存低減を目指しています。

これにより、調達プロセスにおける意思決定の高度化と、スコープ3の脱炭素化目標達成に向けた取り組みの実効性向上を図っています。

NSGグループは、主要な材料カテゴリーにおいてサプライパートナーと連携し、さまざまな取り組みを進めています。原材料はグループ全体のCO_2排出量の約15%を占めていることから、当社グループは主要サプライヤーと協力して低炭素原材料の特定を進めています。たとえば、軽焼ドロマイト(CaOMgO)を使用したガラス製造に成功しており、その取り扱いや加工についても成功が実証されています。プロセスの最適化に加え軽焼ドロマイト(CaOMgO)を使用することでCO_2が削減され、さらに溶融窯の原料バッチにおける、鉄分の含有量が低い添加剤の使用量を50%削減することによって、CO_2の削減はさらに改善されます。また、輸送量の削減によってもCO_2を削減することができます。

さらにNSGは、ガラス溶融を助ける低炭素の融剤(フラックス)として水酸化ナトリウムの使用を検討しており、炭酸塩原材料の使用量を削減できることでCO_2排出量削減に効果のあるリサイクルガラス(カレット)の使用も拡大しています。

グループ全体の電力に占める再生可能エネルギーの割合は、2024年3月期末の35%から2025年3月期末には36%へと増加しています。

スコープ3では、調達の影響力が最も大きいカテゴリー1、2および9に注力しています。パートナー企業からの支援と革新を通じて、インパクトのあるビジネス判断を促進し、脱炭素計画の実現に貢献します。

カテゴリー	2025年(千トン)
1. 購入した製品・サービス	1,674
2. 資本財　- 耐火物	43
3. エネルギー消費の総量	504
4. 輸送、配送（上流）	39
5. 事業から出る廃棄物（廃水を除く）	2
6. 出張	3
7. 従業員の通勤	15
8. リース資産（上流）	-
9. 輸送、配送（下流）	202
10. 販売した製品の加工	643
11. 販売した製品の使用	-
12. 販売した製品の廃棄	5
13. リース資産（下流）	-
14. フランチャイズ	-
15. 投資	266
Total all 15 categories	3,397

第三者機関による認証済み

サステナブル・サプライチェーン

サプライヤーの開発

NSGグループは、EcoVadis（サプライチェーンのESGパフォーマンスを評価する外部機関）を通じてサプライヤーのESG評価指標(KPI)のモニタリングを行い、サプライチェーンの持続可能性を継続的に改善するよう努めています。主要サプライヤーのEcoVadis評価のカバー率(購入金額ベースの加重平均による)は、図1に示すように、過去3年間で着実に増加しています。2026年3月期の中期経営計画目標である71%に対し、73.8%となりました。2026年3月期も、引き続きEcoVadisの低得点のサプライヤーにも注目し、スコア向上に向けた取り組みを強化しました。図2に示されるように、全体的な平均スコアはターゲットレベルである60を維持しました。低スコアのサプライヤーの数は減少するとともに、EcoVadisによる評価を受けたサプライヤー数は1,917社(+43%)に増加しました。

図1 過去3月期でEcoVadisの評価を受けたサプライヤー割合の推移

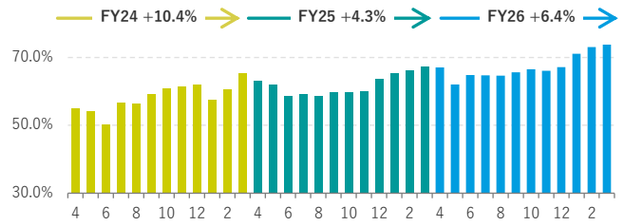
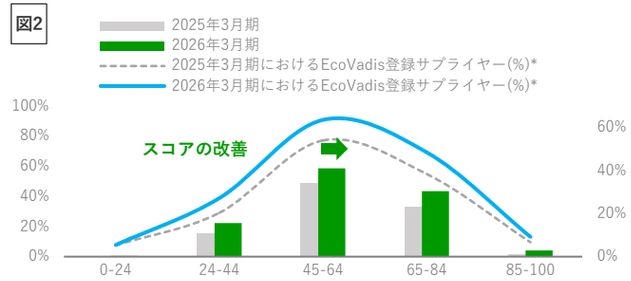


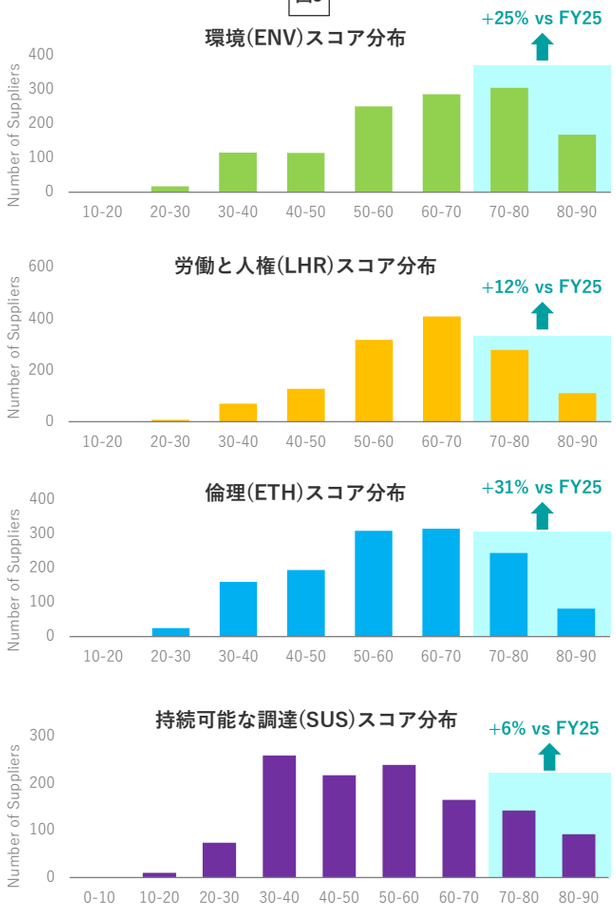
図2



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
▶ サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

図3は、EcoVadisの主要テーマである環境(ENV)、労働と人権(LHR)、倫理(ETH)、持続可能な調達(SUS)の項目別スコア分布を示しています。私たちは一貫して、すべての分野での改善を目指しています。EcoVadisの購入金額ベースによる加重平均スコアは、英国における当社初のサステナビリティ・リンク・ローンのKPIとなっており、2025年の業績は、英国を拠点とする第三者監査機関によって外部監査を受けています。

図3



サプライヤーの品質および環境コンプライアンス

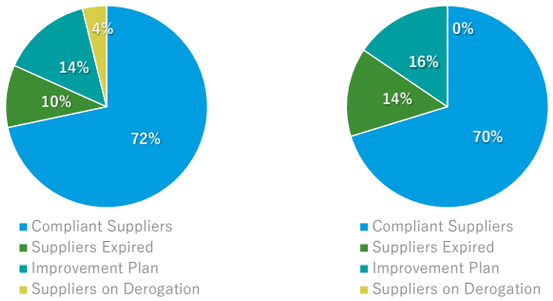
環境に対して大きな影響を与える可能性のあるサプライヤー(HEI: High Environment Impact)には特別な注意を払っています。木材梱包、ガラス材料、廃棄物処理事業、請負業者、化学物質等のHEIに分類されるカテゴリーに属するすべてのサプライヤーは、サプライヤー行動規範に署名して遵守し、ISO14001またはこれに相当する国内の環境認証の取得および/またはEcoVadisの評価を受けることが望まれます。木材、紙および段ボール梱包材に関しては、その原材料の供給先についての森林管理協議会(FSC: Forest Stewardship Council)またはPEFC森林認証プログラムによるCoC(Chain of Custody)認証の取得を求めることにより、これらのサプライヤーが環境に与えるマイナスの影響を最小限に抑えるよう努力しています。ISO14001や森林認証の取得、EcoVadisスコアなど環境面におけるサプライヤーのコンプライアンス状況、及びIATF16949やISO9001など品質面におけるサプライヤーのコンプライアンス状況は、図4の通りです。

NSGグループは、Responsible Minerals Initiative*(RMI)に参画し、鉱物サプライヤーに対して適切な認証の取得を求めるとともに、原材料の供給拠点について取引開始時の厳格な審査および継続的なモニタリングを実施しています。

また、当社グループは、バリューチェーン全体を対象とした責任あるガラス生産に関する初の包括的な国際基準の策定を目指すResponsibleGlassに創設メンバーとして参画しています。

＊Responsible Minerals Initiative（RMI）：責任ある鉱物調達を推進し、武力紛争や強制労働に関連する鉱物の使用防止に取り組む国際的な組織。会員企業一覧はRMIのウェブサイト で確認できます。

図4



サステナブル・サプライチェーンに対する戦略的なアプローチ

2022年、NSGはグループミッション「ガラス技術で世界に変革を」に沿うかたちで、新たな調達ミッションを制定しました。新たな調達ミッション「Leveraging our Supply Chains, Improving our World（サプライチェーンを活用し、世界を改善する）」では、サプライパートナーが地球と社会に十分な配慮を行うとともに、NSGグループのサステナビリティ目標にも貢献することを目指しています。以下において、サステナブルなサプライチェーンに関するNSGの指針を述べるとともに、サプライヤーとのパートナーシップのもとで取り組んでいる事例を紹介します。

私たちは;

- **サプライチェーンのサステナビリティ戦略をNSGグループのサステナビリティ目標に整合させます**
- **当社がサプライチェーンにおける持続可能性のリーダーとして認識されるようにします**
- **Diverse Talentの人材の獲得と維持を支援します**
- **国際規格ISO 20400:持続可能な調達の原則に従います**

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
▶ サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

サプライヤー

その最初のステップとして、十分に持続可能なサプライチェーンを確立・発展させることを目的に、長期的な方針とコミットメントをまとめた「NSGグループ サステナブル・サプライチェーン憲章」を2023年9月に発表しました。サプライチェーン憲章には、サプライヤーに期待するコミットメントと、その進捗を測定するためのKPIも記載しています。

2024年の第2ステップとして、主要なパートナーにサプライチェーン憲章を展開し、2025年には500社を超えるサプライヤーと憲章の締結・導入を進め、調達支出額の60%超をカバーするに至りました。現在はサプライヤーと取り組み事例や経験の共有を通じてともに改善をすすめることに注力しています。今後は、さらにサプライヤー全体に広めていくことで、レジリエンス(回復力)を高め、リスクを低減するための重要な手段として活用していきます。

サプライチェーン憲章では、サプライチェーンに重大なインパクトを与え得る観点から、以下の8つを主要分野として特定しています。

- 温室効果ガスの削減
- 環境保護
- 労働と人権の保護
- 廃棄物の削減
- 水資源の保全
- DEIの支援
- 透明性の向上
- コミュニティ支援

サステナビリティ課題の優先順位付けのためのヒートマップ

私たちは、8つの優先分野において、サプライチェーンの持続可能性の向上に努めています、それぞれのサプライヤーは、供給する材料やサービス、業務活動、地理的位置に応じて、社会や環境の価値に異なる影響を与えています。私たちは、憲章への取り組みが最も効果的に行われるよう、リスク優先度ヒートマップを作成し憲章に組み込みました。このヒートマップにより、私たちは、共通の目標に向けて最も大きなプラスの影響を与えるよう、集中して取り組んでいるという確信を得ることができます。

赤色のセルは、その優先分野の支出カテゴリーが、本憲章における行動の優先順位が高いことを示しています。

黄色のセルは、優先順位が中程度であることを示しています。

緑色のセルは、その優先分野の支出カテゴリーの優先度が低いことを示しています。

青色のセルは、その支出カテゴリーにおいて、優れた慣行や供給基盤に触発された優先分野に関連する改善の機会があることを示しています。

カテゴリー	温室効果ガスの削減	環境の保護	労働と人権の保護	廃棄物の削減	水資源の保護	透明性の向上	DE&Iの推進	地域社会への貢献
AUTO部品材料ー業品類	赤	赤	黄	赤	黄	黄	緑	緑
AUTO部品材料ー電気類	緑	黄	黄	黄	黄	黄	緑	緑
AUTO部品材料ー金属類	赤	赤	黄	赤	黄	黄	緑	緑
電子機器製造委託	黄	緑	赤	緑	黄	赤	黄	緑
高機能ガラス 完成品・半製品（グラスコード）	黄	黄	黄	黄	黄	黄	緑	緑
高機能ガラス原料	黄	赤	赤	赤	黄	赤	黄	黄
高機能ガラス プロセス消耗材	黄	緑	黄	緑	黄	黄	緑	緑
再販用AUTO補修部品	赤	赤	黄	赤	緑	黄	黄	黄
エネルギー＆公共料金	赤	黄	黄	黄	黄	黄	青	青
ガラス鏡面材料	黄	黄	黄	赤	緑	黄	緑	緑
ガラス表面印刷材料	黄	黄	黄	赤	緑	黄	緑	緑
中間膜	赤	黄	緑	赤	緑	黄	緑	緑
パッチ原料	赤	赤	黄	黄	黄	赤	青	黄
ガラス表面コーティング材	黄	赤	黄	緑	緑	黄	緑	黄
産業ガス	黄	緑	緑	緑	緑	緑	青	緑
外部ガラス	赤	赤	黄	青	黄	黄	青	黄
IGU材料	赤	赤	黄	黄	黄	緑	青	黄
サイトマテリアル／設備	青	黄	緑	緑	緑	黄	緑	緑
工程内消耗材	黄	赤	黄	赤	緑	赤	緑	緑
梱包材	黄	赤	黄	赤	赤	赤	緑	青
製造外注	緑	黄	緑	緑	緑	緑	緑	緑
緩衝用パウダー	黄	黄	緑	緑	緑	緑	緑	緑
スペアパーツとメンテナンス用品	黄	緑	黄	黄	緑	黄	青	緑
工事契約	黄	赤	黄	赤	緑	赤	青	緑
耐火物	赤	黄	黄	黄	黄	黄	青	黄
ヘルスケア・安全用品	黄	緑	黄	黄	緑	黄	青	緑

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
▶ サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

ESG 目標とトレーニング

NSGの購買チームは、組織の全てのレベルにおいて、上記に記載したサステナビリティ活動に関連するS.M.A.R.T(Specific, Measurable, Achievable, Realistic, Timely)の目標が設定されています。また、NSGの倫理規範、贈収賄および腐敗防止(ABAC)、競争コンプライアンス、そして最近では詐欺および情報セキュリティ等、ESG項目に関するさまざまなトレーニングの受講が購買チームには求められます。さらに、当社グループの長期的なパートナーであるEcoVadisのサポートのもと、調達に関する実践的な支援を含むESG意識向上のためのトレーニングセッションを実施しています。

それぞれのテーマにおいて、①コミットメント、②サプライヤーに期待すること、③ジョイント・アスピレーション(当社とサプライヤーが協働して目標達成を目指すこと)、④進捗を測定するためのKPI、の4つを設定しています。また、調達のカテゴリーや地域別に優先して取り組むべきテーマを設定する目的で、リスクヒートマップ分析も行っています。

図6



長期目標	中計目標(2027年3月期)	基準年	2026年3月期	進捗度(累計)
2030年に2018年比でスコープ1〜2および3の排出量を30%削減する	3.2 MtCO_2 2018年の排出量と比較して30%削減	全カテゴリーの スコープ3の合計：3.9Mt	3.4MT -14%.	
2050年までにカーボンニュートラルを達成する（SBTi）	調達により直接影響を受けたカテゴリー	カテゴリー1, 2, 9の合計：2.5Mt	1.9 Mt -22%	



長期目標	中計目標(2027年3月期)	2026年3月期 目標	2026年3月期 実績	YTD status
サプライヤーが当社のサステナブル・サプライチェーン憲章の誓約を支持	調達支出の63%が憲章に賛同	59%	61%	
サプライヤー行動規範への同意率	同意率：100%	100%	100%	
リスク評価の対象となる調達支出割合	EcoVadis IQ+評価対象の調達支出割合：90%以上	90%	99%	
認知されたESG評価の対象となるサプライヤー基盤の割合	ESG評価でカバーされる調達支出割合：74%	71%	74%	
全サプライヤーの加重平均スコア：60点	全サプライヤーの加重平均ESGスコア：60点	60	65	
多様なサプライヤーへの調達支出額が増加	多様なサプライヤーへの調達支出割合：2%	n/a	4%	



長期目標	2026年3月期における実施事項	2026年3月期 実績	YTD status
購買部門従業員の100%がESG研修を受講し、日常業務にESG原則を適用	カテゴリー責任者が月次ESGレビューに参加	100%	
購買担当者の99%がESG研修を受講	「サステナビリティおよびスコープ3」研修受講率	84%	
	サーキュラリティ研修受講率	78%	
	EcoVadis Academy利用サプライヤー数／アクセス権を有するパートナー総数の割合	82%	
	NSGが要求した是正措置件数	405	

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
▶ サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

サプライヤー

前述の施策と並行して、スコープ3の排出量を30%削減(2018年対比)させる目標の達成に向けた取り組みを加速しています(図6)。図7は、調達分野におけるESG目標の成熟度を示しています。この推進には部門横断で強力なガバナンス体制が導入されており、CEOが委員長を務めるグループ全体のサステナビリティ委員会に直接報告が行われます。

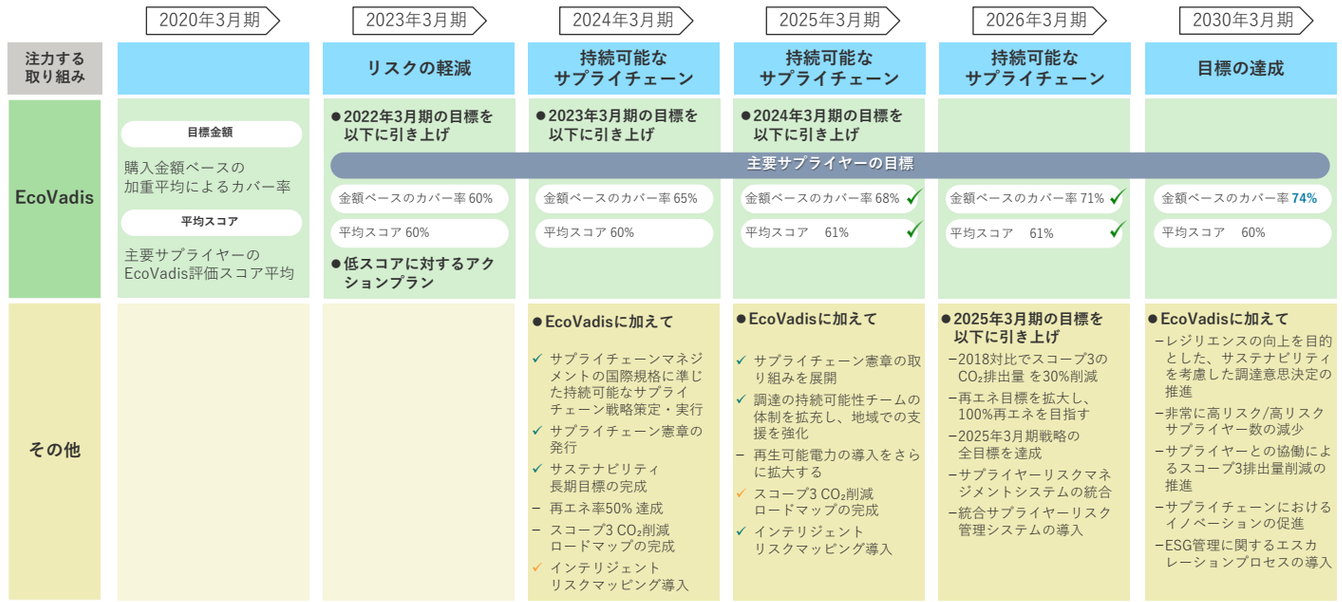


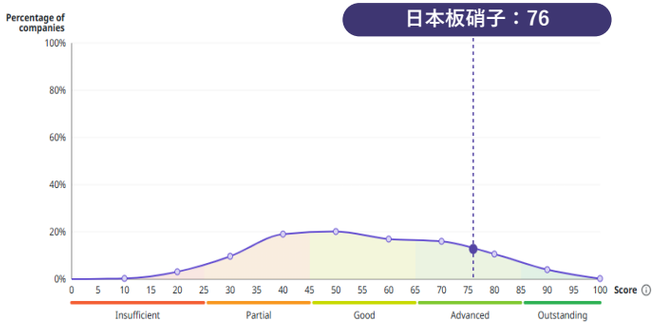
図7 調達グループ ESG目標の進化

2026年3月期における外部評価

2026年3月期も当社がサプライヤーと協力してESG分野の改善に取り組んできたことが外部評価で認められました。当社は、CDPによる2025年の最新評価で、サプライヤーエンゲージメントのリーダーとして認められました。これは、ESG分野の改善に向けた当社とサプライヤーが協働して努力したことが、外部からの評価で支持されたことを大変嬉しく思います。CDPは、投資家、企業、都市、州、地域に対し、気候変動、水セキュリティ、森林伐採に対する環境へのインパクトを認識・把握するためのグローバルな情報開示システムを提供する非営利団体です。

当社は、EcoVadisを利用することで、当社の調達基盤のみならず、当社の顧客や投資家が求める視点やファクターもカバーするかたちで評価・検証を行っています。「持続可能な調達」というテーマにおいて、当社はスコアを76ポイント（100ポイント中）にまで引き上げることができています。これはガラス業界でトップ3%に位置します。





NSGグループは2023年、プロボノコミュニティである「持続可能な調達の誓い」(Sustainable Procurement Pledge, SPP)の「リーグ・オブ・チャンピオンズ」に参加しました。この個人と企業のネットワークに参加することは、持続可能な調達とサプライチェーンの推進に繋がります。NSGは、このグループ活動への参画やそこで得た知見を通じても、持続可能な調達プログラムの展開を加速させて行きます。 2023年NSGは、組織がESGの課題と目標を改善するのを支援するSPPの「ガイド」文書に重要な資料を提供しました。2025年はNSG調達プロセスへのカーボンプライシングの導入に関するSPPガイディング・プリンシプルの公表に積極的に参画しました。この取り組みは、持続可能性を調達意思決定プロセスに組み込むための適切な手法を定義することを目的としています。

Sustainable Procurement Pledge | Let's drive change. Together.

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
▶ サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

倫理・コンプライアンス

倫理・安全・品質はNSGグループが持続的成長を遂げていくために欠くことができない要素です。
NSGグループは、取締役会において定める「内部統制システムの構築に関する基本方針」に基づき 、グループ倫理・コンプライアンス部を設置し、倫理・コンプライアンスプログラムを実施しています。
倫理・コンプライアンス部は、倫理・コンプライアンスに関するリスクを評価、分析し、当社グループの事業の成功のため、戦略目標に即して倫理・コンプライアンスプログラムを設計しています。
当社グループは、倫理・コンプライアンスを、安全・品質に並ぶマテリアリティとして位置づけています。倫理・コンプライアンスプログラムの定期的な改善によりグループ関連リスクに対処し、ステークホルダーの皆様とのパートナーシップとその信頼を獲得することに努めてまいります。この目指すべき姿を見据え、2027年3月期に向けた経営指標を設定しました。具体的な目標については、以下の各章をご覧ください。



ミハエル・キーファー
エグゼクティブコーポレートオフィサー
CLO（最高法務責任者）兼
CE&CO（最高倫理・コンプライアンス責任者）

倫理規範と教育

NSGグループ倫理規範(以下、「倫理規範」)は、法令やすべての主要なグループポリシー、プロシージャー、ガイドラインの遵守等に加えて、職場の従業員に期待される倫理的行動を幅広くカバーしています。倫理規範は、現代の働き方を反映し、今後の課題と機会に対応するため、2026年3月期に改定されました。主な更新点は以下の通りです。

- **内部通報と報復禁止に関する明確な指針**
- **健康と安全におけるメンタルヘルスへの重点強化**
- **人権に関する期待値の更新**
- **多様性、公平性、包摂性への重点強化**
- **AIの責任ある倫理的使用に関する新規セクション**
- **率直なコミュニケーション（Frank）に関する期待値の強化**
- **正確な記録と透明性に関するより明確な指針**
- **ソーシャルメディアと広告の真実性に関する新規コンテンツ**
- **インタラクティブPDF形式の採用**

新入社員導入教育では、倫理規範のみならず、利益相反、不正防止、情報セキュリティについてもカバーしています。2022年3月期以降は新入社員のみならず既存の従業員に対しても、情報セキュリティ教育を義務付けています。競争法遵守、贈収賄・汚職防止の「キーロール*」は、それぞれ関連するオンライン教育についても完了させる必要があります。

当社グループの従業員は、主にオンライントレーニングプラットフォーム「NSG Learn」を活用して研修プログラムを受講します。オンライン研修については受講動向だけではなく、その有効性についても継続的にモニタリングしています。

2026年3月期に実施した年次教育では、対象社員の100%が当該教育を修了しました。当社グループは、2027年3月期に向けた目標の一つとして、対象者の倫理・コンプライアンス教育受講率100%を達成することを掲げています。当該目標を継続して達成できるよう引き続き取り組んでまいります。

* 競争法遵守（CC）および贈収賄・汚職防止（ABAC）に関しグループが定める基準を満たす従業員

1,028名
の新入社員が、導入教育を修了しました
2026年3月期

4,965名
のキーロールが、
競争法および／または贈収賄・汚職防止に関するトレーニングを修了しました
2026年3月期

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

倫理・コンプライアンス

倫理・コンプライアンス推進体制

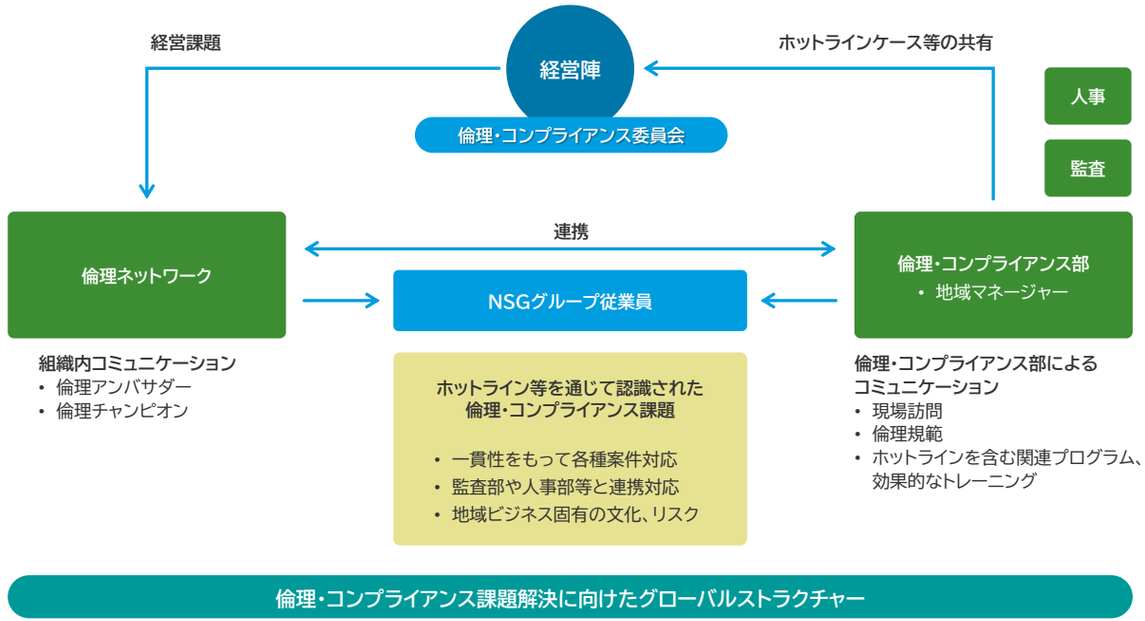
グループ倫理・コンプライアンス部の責務には、総合的な倫理・コンプライアンス制度の策定、実施および維持管理に加えて、当該分野におけるポリシーおよびプロシージャーの作成・見直しが含まれています。グループ倫理・コンプライアンスオフィサー(CE&CO)のもと、グループ倫理・コンプライアンスディレクターがグループの倫理・コンプライアンスプログラムを統括し、グループ全体に倫理・コンプライアンスの文化を浸透させるとともに、各地域固有のリスクを管理するため、欧州、北米、南米およびアジアのそれぞれに地域担当マネージャーを任命し、体制を整えています。

2025年3月期には、倫理・コンプライアンスプログラムの監督およびその有効性のさらなる向上を目的に、CE&COを委員長として、CEOをはじめとする経営陣から構成される倫理・コンプライアンス委員会を設置しました。2026年3月期には同委員会を2回開催しました。

グローバル倫理ネットワークは、当社グループ全体の倫理的なカルチャーを一段と高め、コンプライアンスリスクをモニタリングすることを目的としています。倫理ネットワークは、地域の「倫理アンバサダー」に任命されたシニアマネージャーと、「倫理チャンピオン」によって構成されます。両者は、担当する地域や部署で倫理・コンプライアンスを主導・推進することで、倫理規範を普及・促進させるための重要な役割を担います。また、倫理規範がビジネスに根付くことのサポートも行います。倫理・コンプライアンス部は、倫理アンバサダーや倫理チャンピオンと連携を図りながら、各地域の事業部門や部署の担当者とより直接的なコミュニケーションを図ることが重要と考えています。

上記の推進体制のもと、NSGグループは倫理・コンプライアンスプログラムの設計、実施および改善を行っていますが、プログラムのさらなる改善のため、プログラムに対する従業員の認識を把握することが重要であると考えています。そのため、2027年3月期に向けた数値目標として、倫理・コンプライアンスプログラムに対する従業員からの評価につき、90%以上の好評価を得るという目標を設定しています。2025年3月期に実施した調査では、従業員からの好評価率は70%となり、目標である90%以上には届きませんでした。一方で、本結果は同プログラムに対する従業員の認識を把握するための重要なベースラインであり、改善すべき重要な領域を明確にするものと捉えています。現在、倫理・コンプライアンスに対する従業員のエンゲージメントおよび意識醸成に向けた重点施策を推進しており、新たな倫理規範の展開、コミュニケーション施策の強化、および期待される行動や企業文化の浸透を図るための経営層からのメッセージ発信の拡充に取り組んでいます。これらの施策により、次回の評価サイクルにおいて、倫理・コンプライアンスプログラムに対する従業員の理解、信頼および評価の向上が期待されます。

47名
名の倫理アンバサダーが
当社グループの事業部門や部署に所在



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
▶ 倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

倫理・コンプライアンスに関するコミュニケーション

当社グループは、2022年3月期から毎年倫理・コンプライアンスウィークを実施しています。この目的は、当社グループのビジネスにおける倫理・コンプライアンスの重要性に対する認識を高めるとともに、倫理・コンプライアンスへのコミットメントを再確認することにあります。経営陣のメッセージビデオ、曜日ごとの情報発信、各地域における取り組み、関連オンライン教育を含む様々な企画をグループ全体で行っています。2026年3月期のテーマは「Code of Ethics(倫理規範)」で、当該年度に改定された新たな倫理規範を周知するとともに、当社グループに対する評価を守り、事業として確実に成功するために、従業員が倫理的行動を実践していくにはどうすべきか考える取り組みを行いました。

なお、2026年3月期には、上記の倫理・コンプライアンスウィークにおける経営陣のメッセージビデオを含め、トップレベル(CEO、CXOs)による倫理・コンプライアンス関連のコミュニケーションを年に4回行いました。また、倫理・コンプライアンス部の地域担当マネージャーが、グループの各主要事業所を訪れ、現場の従業員に対してより直接的なコミュニケーションを図る取り組みを実施しました。

グループ倫理・コンプライアンス部は、従業員に対して、倫理・コンプライアンス短信を定期的に発行しています。グループコミュニケーションチームは、その内容を複数言語に翻訳し、すべての事業所に回付しています。また、倫理・コンプライアンス短信は、グループのイントラネット上にも掲載されます。加えて、倫理・コンプライアンス部の各地域マネージャーは、担当する地域の従業員向けに、各地域版の倫理・コンプライアンスニュースレターを発行しています。

グループ倫理・コンプライアンス部は、職場環境のさらなる改善、ひいては業績向上に繋がるという企図から、倫理・コンプライアンスホットラインシステムを通じて報告された案件内容について、秘密保持に配慮しながら、事業部門長や人事部長と共有します。

人権の尊重


NSG Group
人権ポリシー

NSGグループは、世界中の多くの国で事業を展開する国際企業であり、世界のビジネス文化や慣習が多様であることを認識しています。当社グループの人権尊重の姿勢は、ポリシーおよびガイドライン上だけではなく、事業運営の仕方にも反映されます。当社グループは、国連世界人権宣言、労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関(ILO)宣言、国連ビジネスと人権に関する指導原則(UNGPs)、国連グローバル・コンパクト(関連条約を含む)に則り、人権を尊重します。

NSGグループは、2024年3月期に人権ポリシーを制定し、より具体的に当社グループの事業に関わる人権課題を特定し、それぞれの課題に対するコミットメントを明確化しました。(詳細はこちら)

さらに、2026年3月期には、倫理・コンプライアンス委員会で当社グループにおける特に重要な人権リスクを、ジェンダー平等・平等な待遇・ハラスメントと特定しました。これらを含めた人権課題に対し、以下の対応を行いその責任を果たしています。

NSGグループは、人権尊重は単なる法的義務ではなく、道徳的義務であると捉えています。当社グループは、従業員、お客様、地域社会のみなさまの生活にポジティブな影響をもたらすことを目指し、最高水準の倫理規範を自らに課しています。

トレーニングと意識向上	当社グループでは、従業員に対し人権課題とポリシーに関する定期的なトレーニングを実施し、組織のあらゆるレベルで意識と理解向上に努めています。
モニタリングと報告	当社グループは、事業活動およびサプライチェーンを継続的にモニタリングし、人権に関するコミットメントの遵守を確認しています。人権に関する懸念事項がある場合には、当社グループの機密性の高い「NSGグループ倫理・コンプライアンスホットライン」等を通じて報告することを奨励しています。
協働	当社グループは、政府、NGO、同業他社を含むステークホルダーと協働し、人権基準の推進と尊重に努めています。
継続的な改善	当社グループは、進化する人権基準に対応するため、ポリシーや慣行を定期的に見直し、更新することで、継続的な改善に取り組んでいます。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

利益相反事項の開示

倫理規範の下、すべての従業員はグループの利益のために行動する責任があります。従業員は、利益相反を実際にまたは潜在的に引き起こす可能性がある活動や投資について開示する必要があります。グループ倫理・コンプライアンス部は開示されたすべての内容をレビューし、必要があると判断した場合には関連する事業部門や部署の責任者と議論します。また、報告者に対しては必ずフィードバックを行い、場合によっては、利益相反状態を軽減するためのプランも提供します。

競争法遵守、贈収賄・汚職防止に向けた取り組み

NSGグループは、競争法遵守、贈収賄・汚職防止といった当社グループ事業におけるハイリスク分野について、ポリシー、プロシージャー、マニュアル等の規程を制定し、運用しています。これらの規程では、当社グループが事業を展開するすべての国における関連法令を遵守のうえ、業務を遂行することを確実にするため、それぞれ禁止される行為の具体的類型や遵守の必要性、重要性、違反した場合の効果や影響等、幅広い事項について定めています。

当社グループは、2027年3月期に向けた倫理・コンプライアンス目標として、競争法、贈収賄・汚職関連法違反にかかる課徴金納付件数を引き続き0とする数値目標を設定しています。2026年3月期における競争法および贈収賄・汚職に関する違反は0件でした。

上記の「倫理規範と教育」においても記載のとおり、競争法遵守および贈収賄・汚職防止に関しグループが定める基準を満たす従業員はそれぞれについてキーロールとして認定され、入社時のみならず、毎年、関連法令および規程に関する内容を含むオンライン教育を完了させる必要があります。

さらに、従業員の行動の透明性を確実にするため、当社グループは、競争法遵守および贈収賄・汚職防止に関して従業員に報告を求めています。グループ倫理・コンプライアンス部がオンライン報告システムを一元的に管理し、そこでは、幅広く、競業他社との接触、業界団体への参加といった競争法リスクに関する事項、ならびに慈善寄付、一定の金額の贈答、接待、第三者とのビジネス、および公務員との接触等の贈収賄・汚職リスクに関する事項、について報告またはグループ倫理・コンプライアンス部の承認を求めます。具体的な申請や報告については、関連する倫理・コンプライアンス部の地域担当マネージャーが、それぞれの地域や国におけるリスクを考慮のうえ、確認、承認します。

NSGグループは、贈収賄・汚職防止に関して一定のリスク基準に該当する約500の第三者(エージェント、コンサルタント、合弁事業のパートナー等)をモニタリングしています。このプロセスには、デューディリジェンス、評価、および評判に関するスクリーニングを含みます。

懸念事項報告 - 倫理・コンプライアンスホットライン

NSGグループは、カスタマーハラスメントや研究活動における不正行為を含む、法令、グループ倫理規範、ポリシー、プロシージャーまたはガイドラインに違反する、あるいはその違反が疑われる行動について、従業員が報復を恐れることなく報告できる環境を整備しています。この目的のため、懸念事項を報告するための簡易かつシンプルな手段として、倫理・コンプライアンスホットラインを設けています。

当該ホットラインについては、社外のステークホルダーの皆様(求職者の方、退職者の方、および当社グループと現在または過去に業務委託関係のあるフリーランスの方を含みます)も利用可能です。

倫理・コンプライアンスホットライン

社外の人も利用可能

匿名での報告も可能（法令で禁じられている場合を除く。）

24時間、365日、多言語対応

フリーダイヤルを用意

誰でも質問可能

第三者機関による運営（機密性確保）

部下や同僚等から倫理やコンプライアンスに関する報告を受けた管理職は、その報告内容が当社グループに法的もしくは経済的に悪影響を及ぼす可能性がある、または当社グループの評判を害する可能性があると考えられる場合、所定の報告フォーム(マネージャー報告フォーム)を提出するか、グループ倫理・コンプライアンス部に直接報告する必要があります。

2013年3月期に運用を開始してから、倫理・コンプライアンスホットラインシステムを通じて、1,517件の懸念事項が報告されています。2026年3月期には、265件の懸念事案が、倫理・コンプライアンスホットラインおよびマネージャー報告フォームを通じて報告されました。引き続きベンチマークとの差異分析を踏まえ、懸念事項報告・相談内容や傾向を考慮し、必要な施策の検討、実施を進めてまいります。

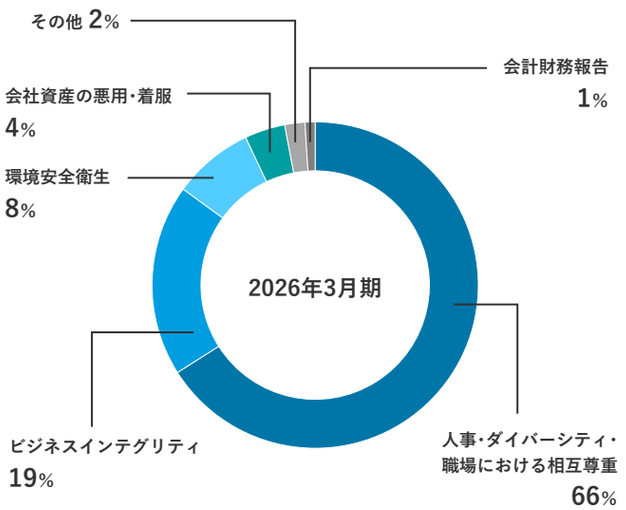
なお、2026年3月期には、職制(マネージャー報告フォーム)を通じた報告は、懸念事項報告総数の40%でした(前年より8ポイント上昇)。職制を通じた報告・相談は職場における風通しの良さを一定程度示す指標として、懸念事項報告全体に占める割合30%をベンチマークとして掲げています。こうした職制を通じた報告・相談を含めた懸念事項報告制度について、引き続き社内アナウンスメントやニュースレターを通じ、周知してまいります。

NSGグループは、地域ごとにベンチマークとの対比を行うことで、ホットラインシステムの有効性を絶えず検証しています。

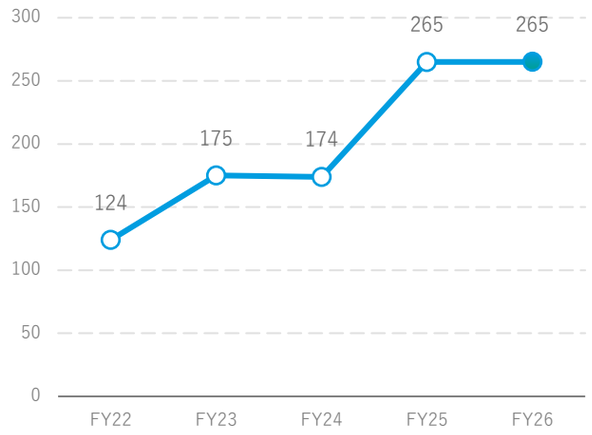
目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
▶ 倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

倫理・コンプライアンス

報告案件の類型



報告件数の推移



NSGグループに公正で透明性のある企業文化を根付かせるための仕組み

管理職への報告が機能しなかった場合のセーフティーネット

ホットライン

透明性をすべての行動に

不適切でない限り、社員は管理職へ懸念事項を報告することが推奨される → E&Cに関する懸念事項*については、管理職はマネージャー報告フォームを提出 or E&C部へ報告 → マネージャー報告フォーム → 必要に応じ、E&C部が関連部署と協働して、調査対応

*グループに法律上、経済上、または評価に関する悪影響を及ぼす可能性のあるすべての懸念事項

過去数年、懸念事項の報告件数は増加傾向にあります。この背景としては、①関連する社内ポリシーの制定・改定、②上述のニュースレターやオンライン教育等の様々なツールを通じて、ホットラインを含む懸念事項報告相談システムを継続的に周知してきたこと、等が挙げられます。当社グループはさらに、2027年3月期に向けた数値目標として、事実として確認された懸念事項報告率(一部事実として確認されたものを含む)を45%以上にすることを掲げています。上記の取り組み等により、一定の報告件数(「量」)が得られるようになった次のステップとして、報告の内容(「質」)に着目することにしました。なお、2026年3月期において、事実として確認された懸念事項報告率は35%、一部事実として確認された懸念事項報告率は14%でした。もちろん、報告された内容が事実として確認されなくとも、報告されること自体が重要です。一方で、事実として確認された報告の割合にも着目することで、より効果的に問題に対処できる環境・体制づくりを引き続き目指してまいります。

NSGグループは、2021年3月期に、倫理・コンプライアンスポリシーや懸念事項の報告相談に関するポリシーを改定し、上述の管理職の報告責任や報告案件の調査・フォローアップのプロセスをより明確化しました。また、併せて「報復禁止および報告者保護に関するポリシー」を制定し、懸念や事実を真摯に報告した個人に対しては、いかなる形での報復も許されないことをより明確に規定しています。2027年3月期に向けた数値目標として、懸念事項報告に対する報復件数を0にすることを掲げています。2026年3月期では確認された報復案件は0件でした。引き続き、当社グループの従業員やステークホルダーの皆様が報復を恐れることなく、真摯に懸念事項を報告できるような取り組みを実施してまいります。当該グローバルホットラインは、当社および日本国内のすべての連結子会社においては、日本の公益通報者保護法に基づく内部公益通報の受付窓口に相当します。当社グループは、風通しのよい企業風土をより高め、「すべての行動に透明性を」もたらしていけるよう引き続き努めます。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
▶ 倫理・コンプライアンス
ヒューマンキャピタル(人的資本)
ガバナンス編
その他情報

ヒューマンキャピタル（人的資本）



デニース・ヘイラー
エグゼクティブバイスプレジデント
CHRO（最高人事責任者）

NSGグループでは、2018 年に設定された経営指針 「Our Vision」 に基づき 、 グループの持続的な成長と中長期的な持続可能な社会への貢献を実現するために、「ヒューマンキャピタル」を重要課題（マテリアリティ）の一つとして取り組んでいます。人材は「資本」であり、企業が事業を継続し、成長していくためには欠かせない存在です。NSGグループでは、社員が成長し発展していくためには、強固な企業文化、効果的な人事制度、そしてインクルーシブな職場環境が不可欠であると考えています。これが「人的資本投資」の目的であり、CHROおよび世界中の人事部門の役割は、こうした投資の効果と効率性を高め、事業目標の達成に必要な成長を継続的に推進することです 。

人事戦略

私たちは、社員を持続的な価値創造を支える重要な原動力と位置付けており、この考え方は年度が変わっても変わりません。強固で生産性の高い人材と組織を構築することは、当社グループの戦略の要です。中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」と連動した人事戦略は、インクルーシブな環境を育み、人材を惹きつけ、社員の成長機会を創出することを目的として設計されています。戦略目標は引き続き以下のとおりです。

戦略目標:

- **当社の「コアバリュー」に根差した企業文化の醸成**
- **人材の惹きつけ・育成・定着**
- **イノベーションの使命をはたすための組織能力の育成**
- **社員1人１人の「体験価値」の継続的な改善**

私たちは、戦略の実現を支え、後半で詳述する戦略目標と整合した価値創出を推進する重点領域を特定しました。本セクションの最後には、主要なオペレーション指標とパフォーマンス指標を掲載しています。女性管理職比率は前年比で上昇し18.2%となり、女性の離職率も2023年末の18.6%から2025年末には10.3%まで低下しています。また、全社員に占める女性比率も2024年の18.2%から19.1%へと引き続き上昇しています。

人権尊重、社員のウェルビーイング、健康経営

人権尊重とウェルビーイングへの取り組みは、当社グループの人事戦略の基盤を成し、中期経営計画を方向付けるとともに、持続可能で責任ある成長へのコミットメントを強化するものです。NSGグループは、経営理念の中心に6つの「コアバリュー」を設定しており、その1つ目に「人を尊重し、人を活かす」を掲げています。これは、1918年の創業以来当社が大切にしてきた「事業は人なり」という理念を反映したものです。「人を尊重し、人を活かす」を全うすることは、コアバリューの2つ目に掲げる「信用を重んじ、誠実に行動する」ことへとつながります。

これらの理念は、全ての社員に求められる行動基準を定めた「NSGグループ倫理規範」に組み込まれています。「倫理規範」では、安全への取り組み、人権尊重、個人の責任、オープンで誰もが参加できるコミュニケーションの実践を表明しています。また、国際的に認められた人権を明記し、倫理的かつ責任ある企業活動への当社のコミットメントを強化するものです。

私たちは、安全で健康的な職場環境は必要不可欠であるだけでなく、組織で働くひとりひとりに対する尊敬と配慮の表れであると認識しています。そうした職場環境への当社のコミットメントは、健康・安全マネジメントの継続的な改善や、全拠点に根付いた強固な安全文化に体現されています。

当社グループの「機会均等および多様性に関するポリシー」は、人種、民族、国籍、性自認、性的指向、年齢、障がい、宗教、政治的所属、その他法令により保護される属性など、いかなる理由による差別も禁止しています。このポリシーは、全ての個人が尊厳と公平性をもって扱われる、多様でインクルーシブな職場づくりに向けた取り組みの根幹を成すものです。ダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョン(DEI)に関する詳細は、下記の「人事の主要戦略アクション」に記載しています。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
▶ ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

健康経営とウェルビーイング（日本）

NSGグループでは、社員を最も重要な資産と位置付けており、ひとりひとりがその能力を最大限に発揮するためには、健康の促進が不可欠であると認識しています。社員の健康の促進は、企業価値の持続的な向上を支える原動力です。こうしたコミットメントを反映し、当社は2020年1月に日本で「健康経営宣言」を発表しました。

NSG健康経営宣言のもと、社員がいきいきと活躍できる環境づくりと健康の促進、エンゲージメント向上を目的に、経営的視点から戦略的な健康経営活動を推進しています。代表取締役社長兼CEOを責任者とした組織体制を整え、全社的にさまざまな取り組みを実践しています。

健康経営宣言

NSGグループでは、企業の持続的価値向上および社会貢献の実現のためには、まずは社員およびその家族が健康であること、これが基盤になると考えます。

1918年の設立以来、住友の理念であります「事業は人なり」を重んじ、現在の経営理念「Our Vision」においても「人を尊重し、人を活かす」をコアバリューの最初に掲げております。最も大切な資産は「人」であるという考え方の下、社員がその能力を最大限に発揮できるようにするために、社員ひとりひとりの健康促進に取り組み、健康経営を推進していきます。

2020年1月1日
日本板硝子株式会社

主な取り組み内容

1.社員および家族のヘルスリテラシー（健康への意識）の向上および健康促進

毎年度、健康経営にかかわる全社方針や各種取組と進捗について、社長や事業部門長の参加する会議で議論を行っています。また、各事業所でも全体集会での社員説明や社員代表が参加した委員会活動での議論を通じて一体感ある活動に努めています。健康促進のためのさまざまな内容に関する教育およびセミナーの実施や情報発信を通じて健康に関する意識向上を図っています。また、社員の健康保持・増進が持続的な企業の価値向上の基盤であるとの考えの下、2027年3月期より日本板硝子単体にとどまらず国内関係会社にも展開しています。グループ横断で健康課題や情報を共有しながら、NSGグループ全体の健康意識の向上、持続的成長につなげていきます。

2.健康診断

年2回の定期健康診断や特定保健指導の実施により、有所見者の把握・改善を行っています。健康保険組合とのコラボヘルスにより、各種健康診断や特定保健指導のフォローを行っており、スコアリングレポートの結果からも健康数値の改善があらわれています。さらに、健康診断結果データの活用やDXの推進により、健康状態の可視化と分析精度の向上を図っています。これらの活動は単年度ではなく、中期的な取り組みを意識して医療スタッフ、労働組合、健康保険組合と議論して推進しています。

3.生活習慣病対策

社員食堂での減塩やカロリー摂取に応じたメニュー、栄養バランスの改善、栄養指導、相談窓口の設置や情報提供を行っています。運動習慣については、運動施設としてトレーニング施設の充実や外部機関との提携、各種イベントの実施などにより運動習慣の向上に努めています。喫煙対策はセミナーなどの社内イベントや禁煙希望者への継続的な保健指導、禁煙外来治療費の補助を行っており、2027年3月末での就業時間内完全禁煙を目指しています。

4.メンタルヘルス、エンプロイーエンゲージメントの向上

日本では2016年よりストレスチェックを実施していますが、社員のストレス度については全社結果がある一方で、実際には組織や業務内容によって異なるため組織単位でのフィードバックを行い改善を進めています。社員がいきいきと働くためには、ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること)に関連する仕事や会社に対する満足度(エンゲージメント)を高めることが重要です。その実現を目指し、さまざまな取り組みを進めています。また、グループとしての一体感や絆意識を高めるための各種イベントの実施や職場でのコミュニケーション改善も重要な要素と考えており、管理者･監督者向けのトレーニングなども実施しています。

5.働き方改革

育児や介護を抱える社員の働きやすい環境づくり、労働時間の管理の強化と総労働時間の削減、また有給休暇の取得率向上など、多様な人材が多様な働き方を選択できるようにしていくことが、企業の活力に結びつくと考えています。そのため労使で協議をしながらこうした取り組みを進めています。多様な働き方を実現するための環境整備を進め、個々人の在り方を見直し、生産性・パフォーマンスを最大化する働き方への移行を目指しています。当社の人材は競争上の優位性の源であり、当社は今後も人材を事業の中心に据えていきます。



目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な製品とサービス
サプライヤー
倫理・コンプライアンス
▶ ヒューマンキャピタル（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

ヒューマンキャピタル（人的資本）

健康経営に関わる主要な指標は以下の通りとなっております。（日本板硝子㈱）

社員の健康づくり（日本のみ）	測定方法	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
アブセンティーズム （欠勤・病欠）	私傷病による欠勤・休職をした社員数の全社員数に占める割合	0.8%	0.9%	1.1%	**0.9%**
プレゼンティーズム （働きながらの体調不良による生産性低下）	WHO-HPQ	34.3%	34.6%	34.5%	**34.4%**
ワーク・エンゲージメント	ストレスチェックでのエンゲージメント測定で把握	-	-	48.5	**49.0**

働き方改革 ワークライフバランス	測定方法	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
年次有給休暇の取得率	年次有給休暇取得日数÷年次有給休暇付与日数×100	76.0%	79.7%	83.5%	**85.0%**
一人あたり平均月間所定外労働時間		10	11	9	**8**
育児休業取得率	女性	100%	100%	100%	**100%**
	男性	23.1%	38.1%	41.0%	**92.3%**
離職率		3.0%	1.5%	1.3%	**2.9%**

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
▶ ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

人事の主要戦略アクション

グローバル人事戦略をさらに有意義な行動へと落とし込むために、私たちはいくつかの重要な取り組みを特定しました。これらの取り組みは丁寧に設計され、真の価値創出を目的としています。2025年3月期および2026年3月期にはすでに大きな進捗があり、今後3年間でさらに加速させていきます。



ダイバーシティ、エクイティ＆インクルーション（DEI）
– すべての人が最大限の能力を発揮できる、インクルーシブな職場環境と企業文化の醸成

2026年3月期、NSGグループではダイバーシティ、エクイティ＆インクルージョン(DEI)の強化を継続しました。4カ年のDEIロードマップを刷新し、採用、退職者インタビューの運用、社員育成、地域社会とのエンゲージメントを改善するための優先事項を明確にしました。

各SBUおよびグループ・ファンクションでは、それぞれDEIアクションプランを策定しており、グローバルの重点課題を各地域・各組織の具体的な行動へと落とし込んでいます。

これと並行して、インクルーシブな採用に関するガイダンス、DEI啓発プログラム、オンボーディングおよび退職者インタビューの標準化、地域社会とのエンゲージメントに関するグローバルステートメントの公表など、複数のグローバルHR施策を推進しました。

また、「Create. Inspire. Belong」のエンプロイヤーブランディングに合わせ、グローバルDEI イントラネットサイトを刷新しました。同サイトでは、DEIの原則、ニュース、各種リソースを掲載し、社員が当社の考え方をより深く理解するとともに、事業を展開する地域社会にポジティブな影響をもたらす取り組みを支援しています。

人材構成における多様性の向上は、引き続き長期的な重点課題です。2025年末時点で、グローバルの管理職に占める女性比率は18.2%となり、前年の18.0%から上昇しました。着実な進展ではあるものの、さらなる取り組みが必要です。2030年3月期までに女性管理職比率30%という目標の達成に向け、リーダーのアカウンタビリティ強化、人材データの活用高度化、多様な人材パイプラインの構築に引き続き取り組みます。

DEIはNSGにとって継続的なコミットメントです。誰もが自分らしく、最大限の力を発揮できる環境づくりを進めています。

価値の創造

人材の惹きつけ

- さまざまな取り組みを通じてNSGがあらゆるバックグラウンドを持つ人材を歓迎していることを示すことで、より幅広い人材プールを獲得できる。
- 社会的責任を果たすことで、顧客・投資家・将来の社員からの評価向上につなげる。
- 候補者がより公平で、歓迎されていると感じられるインクルーシブな採用制度の整備により、入社受諾率を上げる。

社員エンゲージメント

- インクルーシブな職場環境によりオープンなコミュニケーションを促進し、帰属意識や心理的安全性、信頼を育むことで、社員の満足度とエンゲージメントを向上させる。

イノベーション

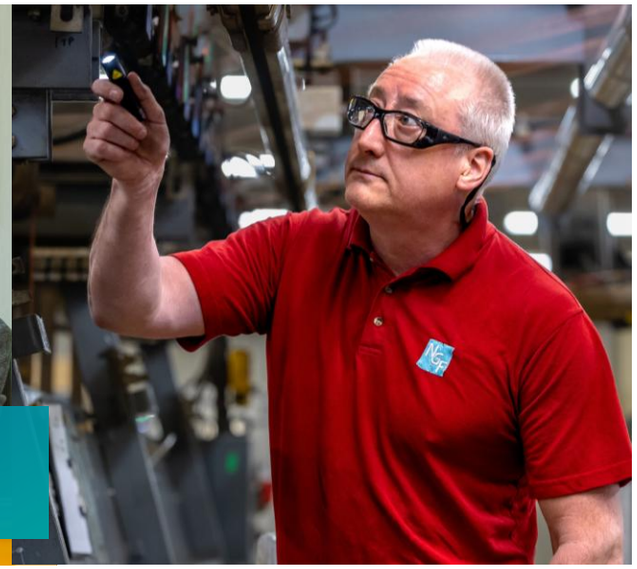
- 広範な視点、経験、バックグラウンドを持つ人材が集まることで、より多様なアイデアが生まれ、インクルージョンの促進により、それらのアイデアが積極的に共有されるようになる。
- 多様性を備えたチームは、多岐にわたる視点とアプローチにより、課題をより迅速かつ効果的に解決することができる。さらに、そのチームに包摂性が加わることで、集団思考に陥ることを防ぐことができる。

社員の定着

- 社員が自分の存在を認識され、意見に耳を傾けてもらえ、自分らしさを尊重されていると感じるとき、孤立感や疎外感を抱きにくくなり、組織にとどまる可能性が高まる。
- 能力開発、昇進、報酬への公平なアクセスを確保することで、十分に代表されていない人材の定着率とキャリアの成長が促進される。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報





HRデジタル
– グローバルテクノロジーを活用した業務変革

2026年3月期は、HRデジタルプログラムの初期フェーズで完了した取り組みを土台として、HRデジタル戦略をさらに推進しました。グローバル業務活動分析から得られた知見を活用し、人材、プロセス、データ、テクノロジーをどのように連携させれば、より効率的で拡張性が高く、社員を中心としたHR機能を実現できるかについて理解を深めました。

当該年度は、将来の変革に必要となる基盤の強化に重点を置きました。具体的には、グローバルデータフレームワークの構築を前進させるとともに、データガバナンスと整合性の向上に取り組みました。

人事戦略の一環として、拡張性のあるデジタルソリューションに支えられた、将来を見据えたHRオペレーティングモデルの確立に引き続き取り組んでいます。現在、グローバルでのテクノロジー選択肢を継続的に評価し、グループ全体に持続的な価値をもたらすビジネスケースを策定しています。

成果

- **データと分析の一元化によるデータ品質とレポート機能の向上**
- **人材・プロセス・テクノロジーのより効果的な連携**
- **シェアードサービスセンターの活用効果の改善**
- **サポートするデジタルツールの導入による、より効率的で簡素化されたプロセスの実現**

価値の創造

社員体験とエンゲージメント

- 業務を整合させることで、一貫した顧客志向のサービスを提供
- グローバルチームを管理するリーダーの体験を改善・簡素化
- データの整合性向上による、ステークホルダーからの信頼向上

効率性とコスト削減

- 手作業プロセスの減少による管理業務負荷の削減
- データクレンジングや作業のやり直しの減少による、時間とリソースの節約
- ワークフローの効率化、重複作業の削減、リソースのより適切な配分による、生産性向上とコスト最適化

スピードとアジリティ

- データの可視性向上による意思決定力の強化。リーダーが、情報に基づき、迅速かつ自信を持って判断できる環境を実現
- 人事部内での役割と責任の明確化を通じた意思決定の迅速化
- 組織の成長に伴う業務量の増加に対し、HR人員を比例して増やすことなく対応できる、HRオペレーションのスケーラビリティ向上
- アジリティの向上により、市場の変化や顧客ニーズに迅速に対応し、新たな技術やビジネスモデルに柔軟に適応

ガバナンスと統制

- ガバナンスと統制を強化し、一貫性のある業務執行とコンプライアンスを確保するとともに、監督体制の改善を通じて業務リスクを低減。法令および業界基準への準拠を支え、罰則や評判毀損のリスクを低減する。

社員への価値提案（EVP）

社員への価値提案（EVP）については、
特集記事をご参照ください。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
▶ ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

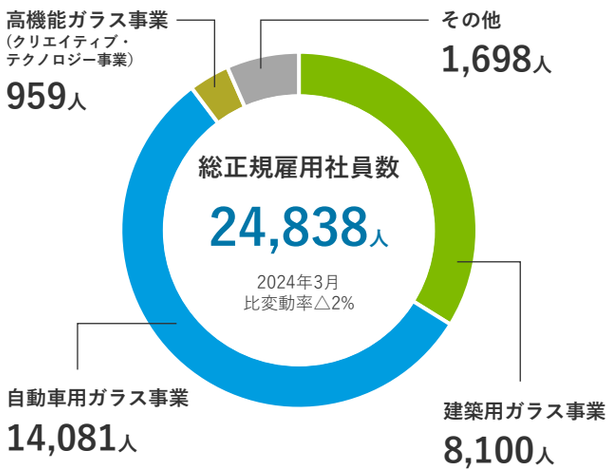
将来の展望

当社グループは、迅速な対応力と競争力を維持するために、今後も人材への投資を継続します。重点領域は、引き続き前述のDEI、デジタル、そして社員への価値提案(EVP)の浸透です。これら3つの重点領域に加え、人材獲得にも注力し、外部市場において「優れた雇用主」「働きがいのある企業」として認知されることを目指します。上記の主要アクションは、優秀な人材を惹きつけるために当社グループがどのような価値創出を目指しているかを示しており、今後はさらにこれらの取り組みを強化し、より大きな価値の創出を図っていきます。これらは継続的に取り組む施策であり、「2030 Vision: Shift the Phase」戦略を下支えし、その実現を可能にするために設計されています。人材こそが鍵です。

主要なHR関連指標

正規雇用社員数

2026年3月末現在



採用と離職

2025年暦年に基づく

新規採用者	**2,252人**
離職者	**3,016人**
自己都合	1,681人
会社都合	1,335人
離職率	**11.0%**
前年比	-1.8%
自発的	6.3%
非自発的	5.0%

地域別離職率

アジア	**5.5%**
前年比	-1.0%
欧州	**8.0%**
前年比	-1.3%
北米	**27.3%**
前年比	-7.6%
南米	**9.9%**
前年比	+1.6%

エンプロイーエンゲージメント

2026年3月期調査結果

参加率	エンゲージメント
82%	**75%が肯定的に回答**

事業分野別肯定的回答率

建築用ガラス		**72%**
自動車用ガラス	AGR	**86%**
	OE	**75%**
ファンクション		**79%**
高機能ガラス クリエイティブ・テクノロジー		**71%**

研修・能力開発

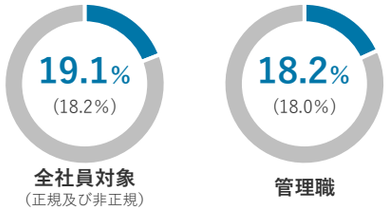
2025年12月末現在

職場外研修	**20,236日**
職場内研修	**36,249日**
研修への合計投資日数	**56,486日**

多様性に関する指標

2025年12月末現在

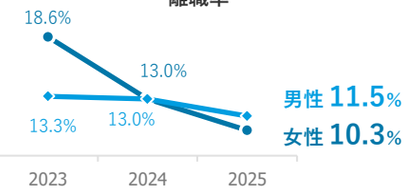
女性社員比率
() 内は2024年12月末時点



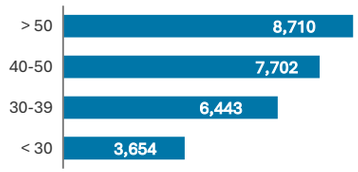


() 内は2024年12月末時点

離職率



年齢構成比（フルタイム換算）



平均年齢	平均勤続年数
43.7歳	**13.3年**
(43.3歳)	(14.0年)

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
社会シフト
イノベーション
人権の尊重
健康と安全
安全で高品質な
製品とサービス
サプライヤー
倫理・
コンプライアンス
ヒューマンキャピタル
（人的資本）
ガバナンス編
その他情報

コーポレート・ガバナンス

取締役および監査役 (2026年9月30日現在)

代表取締役 社長兼CEO(最高経営責任者)	取締役	取締役	監査役	監査役
細沼 宗浩	岡本 哲士	麥田 悠真	中山 大輔	佐々木 順悠

業務執行役員体制 (2026年9月30日現在)

社長兼CEO
エグゼクティブバイスプレジデント
エグゼクティブコーポレートオフィサー



細沼 宗浩
代表取締役
社長兼CEO
(最高経営責任者)



相浦　宏
CFO
(最高財務責任者)



レオポルド・ガルセス・カスティーリャ
建築ガラス
事業部門長



デニース・ヘイラー
CHRO
(最高人事責任者)



岡本　久
クリエイティブ・テクノロジー
事業部門長



ロブ・パーセル
Auto
事業部門長



ビクター・ヤックン
CD&IO
(最高デジタル・情報責任者)



ミハエル・キーファー
CLO (最高法務責任者)
兼 CE&CO
(最高倫理・コンプライアンス責任者)



小林 史朗
サステナビリティ部
統括部長



中辻　陽平
CSO
(最高戦略責任者)
兼 暫定CTrO
(最高変革責任者)



ケビン・サンダーソン
CTO
(最高技術責任者)



谷口 嘉章
グループ経営管理部
統括部長



ジョン・ウィルガー
CPO
(最高購買責任者)

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
▶ コーポレート・ガバナンス
デジタルセーフティ
その他情報

デジタルセーフティ

デジタルレジリエンスの強化と安全な運用

デジタル技術の活用が製造、事業運営、顧客サービス、サプライチェーンなど幅広い領域で進展する中、NSGグループは多様化・高度化するデジタルリスクに直面しています。これらのリスクには、サイバー攻撃、データ保護およびプライバシーに関するリスク、システム障害、第三者およびサプライチェーンに起因する脆弱性、法規制への対応に加え、AIの活用拡大に伴う新たなリスクが含まれます。こうしたリスクは、事業継続性や情報の信頼性、ステークホルダーからの信頼、さらには事業業績に影響を及ぼす可能性があります。

これらの課題に対応するため、NSGグループでは「デジタルセーフティプログラム」を通じて、体系的かつ先見的なデジタルリスクマネジメントを推進しています。グループのリスクガバナンス方針に基づき、デジタルサービスおよび技術投資のライフサイクル全体を対象に、リスクの特定、評価、監視および低減を実施しています。また、セキュリティ、レジリエンス(回復力)およびコンプライアンスの観点を、企画・設計段階から運用に至るまで組み込んでいます。 デジタルリスク管理はグループ全体のERM(全社的リスクマネジメント)フレームワークと統合されており、ガバナンス、監督および説明責任については、これらを支える体制とプロセスを整備しています。 デジタル分野の脅威環境が絶えず変化していることを踏まえ、NSGグループは新たなサイバー脅威、地政学的動向、規制動向、技術トレンドを継続的に監視しています。また、リスク指標やインシデント情報および過去の事例から得られた教訓を定期的にレビューし、管理体制の強化、レジリエンスの向上、および迅速かつ効果的な対応能力の強化に努めています。NSGグループはデジタル部門、事業部門および外部パートナーとの連携を通じて、従業員、情報資産、事業活動および顧客を保護するとともに、安全かつ責任あるデジタル技術の活用を推進しています。



デジタルセーフティ

NSGのデジタルセーフティプログラムはデータ保護やプライバシー保護そして安全性向上に向けた技術活用の重要性を強調しています。デジタルセーフティは以下の主要な取り組みを基盤としています。



デジタルセーフティ委員会

デジタルセーフティ委員会は部門横断的なガバナンス体制で構成されており、デジタルリスクの評価、インシデントおよびコンプライアンス要件のレビュー、リスク低減施策の優先順位付け、ならびにその実施状況のモニタリングを行っています。重要事項については経営層のリスクガバナンスにエスカレーションされ、明確な説明責任の所在、迅速な意思決定および事業戦略上の優先事項との整合性を図っています。

デジタルセーフティ推進体制

戦略 →
← リスク認識

戦略
方針の策定・ガバナンス・
経営戦略との整合性

戦術・運営
監督・モニタリング・管理体制の有効性確認・実装・運用

**デジタルセキュリティ・
ステアリングコミッティー**
デジタルセキュリティに関する戦略、リスク対応方針および投資の優先事項を決定します。また、事業目標との整合性を確保するとともに、重要な脅威や対応計画を監督し、重要事項については上位のガバナンス組織へ報告・エスカレーションすることで、適時の意思決定と明確な説明責任を確保しています。

デジタルセキュリティ委員会
サイバーセキュリティ戦略の実行を監督するとともに、リスク低減策および対応優先事項の調整を行っています。また、パフォーマンスやコンプライアンス状況をモニタリングし、重要な課題についてはデジタルセキュリティ・ステアリングコミッティーへエスカレーションすることで、説明責任の徹底と迅速な対応を確保しています。

デジタルセキュリティ運営委員会
デジタルセキュリティ運営委員会は、サイバーセキュリティ活動の調整、脅威および管理策のモニタリング、インシデント対応および是正措置の管理を担っています。また、重大なリスクについては経営層へエスカレーションを行い、迅速な対応と事業運営のレジリエンス確保を図っています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
コーポレート・
ガバナンス
▶ デジタルセーフティ
その他情報

財務ハイライト

連結損益計算書

		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高	(百万円)	600,568	763,521	832,537	840,401	879,462
営業利益（個別開示項目前）	(百万円)	19,980	34,812	35,860	16,491	28,817
税引前利益	(百万円)	11,859	-21,933	17,597	-8,525	378
親会社の所有者に帰属する当期利益	(百万円)	4,134	-33,761	10,633	-13,831	4,421
売上高営業利益率（個別開示項目前）	(%)	3.3	4.6	4.3	2.0	3.3
売上高当期利益率	(%)	0.7	-4.4	1.3	-1.6	0.5
株主資本当期利益率（ROE）	(%)	2.8	-34.8	8.6	-12.8	3.4
総資産事業利益率（ROA）	(%)	2.4	4.2	4.6	1.9	3.0

セグメント情報

		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高 (百万円)	建築用ガラス事業	281,816	365,947	371,777	363,025	374,998
	自動車用ガラス事業	276,246	354,693	417,558	429,444	457,222
	高機能ガラス事業（クリエイティブ・テクノロジー事業）	39,770	38,754	39,945	46,584	46,005
	その他の事業	2,736	4,127	3,257	1,348	1,237
営業利益 (百万円)	建築用ガラス事業	28,130	33,557	29,087	13,574	30,033
	自動車用ガラス事業	-7,908	4,052	11,343	7,667	4,995
	高機能ガラス事業（クリエイティブ・テクノロジー事業）	9,907	8,733	7,146	7,568	8,639
	その他の事業	-10,149	-11,530	-11,716	-12,318	-14,850
営業利益率 (%)	建築用ガラス事業	10.0	9.2	7.8	3.7	8.0
	自動車用ガラス事業	-2.9	1.1	2.7	1.8	1.1
	高機能ガラス事業（クリエイティブ・テクノロジー事業）	24.9	22.5	17.9	16.2	18.8

連結貸借対照表

		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
総資産	(百万円)	939,281	951,387	1,007,585	1,032,931	1,117,494
有利子負債	(百万円)	467,885	495,120	506,460	524,830	548,344
ネット借入	(百万円)	365,173	407,923	447,497	454,259	484,138
株主資本（親会社所有者帰属持分）	(百万円)	145,291	97,040	124,275	108,065	151,225
株主資本比率	(%)	15.5	10.2	12.3	10.5	13.5

キャッシュ・フロー等

		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
営業キャッシュ・フロー	(百万円)	45,061	48,506	58,769	52,419	33,624
投資キャッシュ・フロー	(百万円)	-22,787	-34,649	-43,512	-42,444	-32,562
フリー・キャッシュ・フロー	(百万円)	22,274	13,857	15,257	9,975	1,062
EBITDA	(百万円)	56,651	75,006	81,783	65,775	82,984
ネット借入/EBITDA	(倍)	6.5	5.4	5.5	6.9	5.8
設備投資	(百万円)	-28,629	-40,917	-58,175	-62,758	-44,304
減価償却費	(百万円)	36,675	40,212	45,922	49,438	54,167

1株あたりデータ

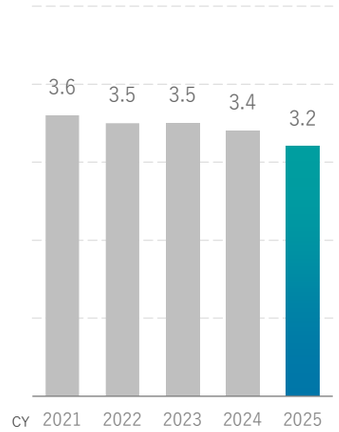
		2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
1株当たり当期純利益（EPS）	(円)	24.1	-393.1	95.4	-173.2	44.5
1株当たり純資産額（BPS）	(円)	1256.0	723.8	1021.3	843.0	1,065.8
1株当たりフリー・キャッシュ・フロー（CFPS）	(円)	244.8	152.0	167.6	109.5	7.2

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報
▶ 財務ハイライト
非財務ハイライト
外部からの評価
独立した第三者保証報告書
沿革

非財務ハイライト

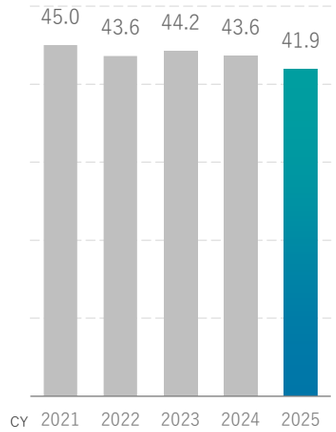
CO_2 排出量*1*3

(百万t)



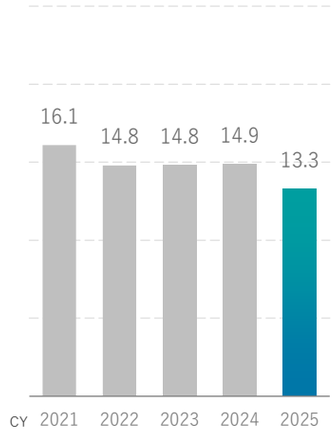
エネルギー使用量*3

(PJ)



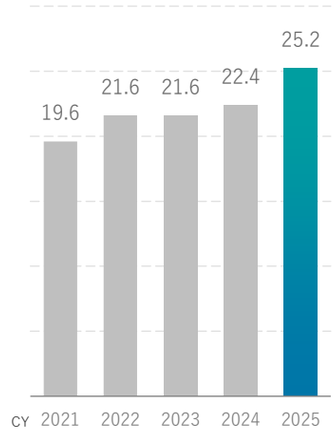
総取水量*3

(百万m3)



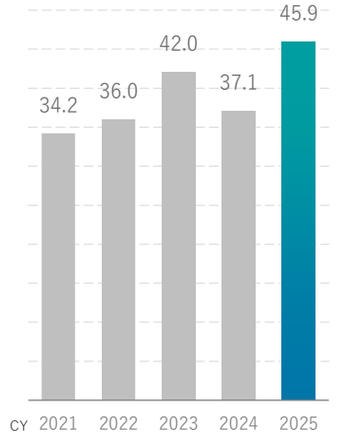
埋め立て廃棄物量*2

(千t)

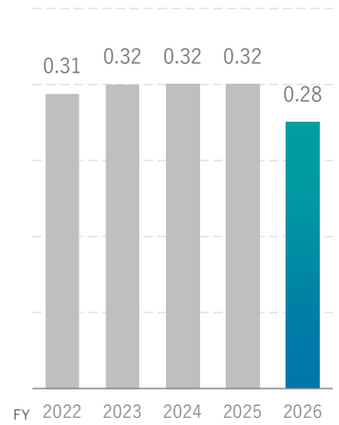


再資源化された廃棄物量(ガラス以外)

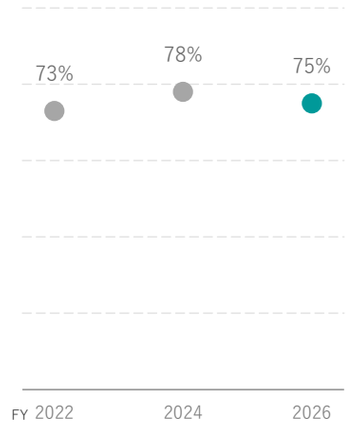
(千t)



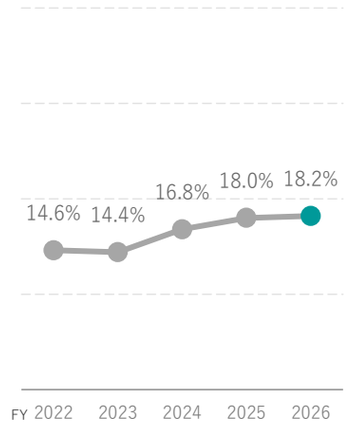
従業員の重大災害度数率 (SIR)



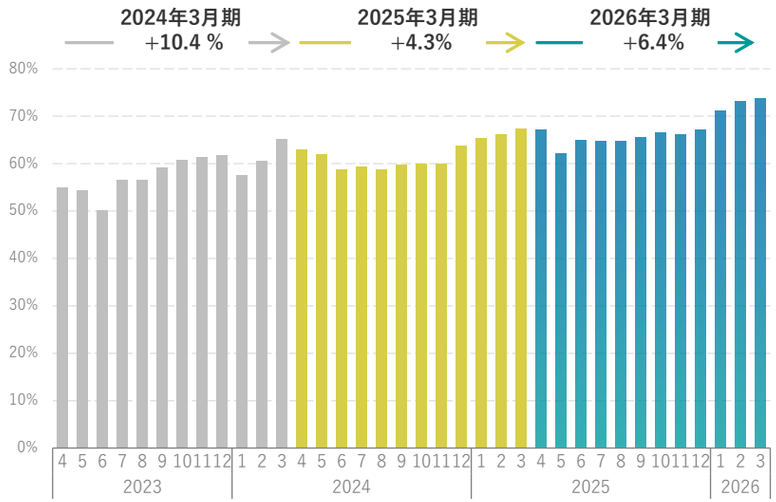
従業員満足度*4



女性管理職比率



過去3月期でEcoVadisの評価を受けたサプライヤー割合の推移*5



*1 スコープ 1 とスコープ 2（ロケーション基準）の合計です。 *2 埋め立て処理されたガラスおよびガラス以外の廃棄物の総量です。 *3 環境データについては、GHGプロトコルガイドラインに従い、過去のデータに関しても売却した事業所に由来する排出量や使用量を減算しています。 *4 従業員満足度の調査（従業員意識調査）は隔年で実施しています。*5 購入金額基準で算出されています。

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報
財務ハイライト
▶ 非財務ハイライト
外部からの評価
独立した
第三者保証報告書
沿革

外部からの評価

CDPの評価

NSGグループは、2011年以降継続してCDP*1の気候変動に関する情報開示を実施しており、透明性の高い情報公開につとめてまいりました。「気候変動」に関する評価は2023年より2年連続で取得している「A-」ランクからの継続的な改善が実を結び、このたび最高評価の「Aリスト」に初選定されました。なお、「水」に関する評価についても、開示を実施しています。前年の「B」ランクから「A-」ランクに向上しました。NSGグループは2030年までに温室効果ガス排出量を2018年比で30%削減する目標を設定し、SBTイニシアティブ(SBTi)に認定されています。あわせて2050年までにカーボンニュートラルを達成することを目指しています。NSGグループは、CDPが運営する環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを通じて、多様なステークホルダーの要望に一貫性のある方法で透明性を持って対応しています。CDPに情報提供することで投資家やお客様等多様なステークホルダーに、NSGグループのバリューチェーンにおける気候変動および水に関するリスクと機会への取り組みや製品の具体的な影響度合いについてご理解いただける様に努めています。加えて、ESG分野における当社とサプライヤーとの協働努力が評価された結果、2025年のCDP評価において、当社はサプライヤーエンゲージメントのリーダーとして5年連続で認められました。これは、合計約22,100社の評価対象企業のうち、当社グループはトップ9%に位置します。CDPへの回答は、NSGグループが、①データに基づく戦略の設定、②環境規制への対応、③挑戦的で科学的根拠に基づくCO_2削減目標の設定、④社内のカーボンプライシング制度の導入、⑤TCFDが推奨するベストプラクティスへの準拠、等を推進する際のガイドラインにもなっています。毎年フィードバックされるスコアにより、NSGグループは環境への取り組みの進捗状況を確認するとともに、業界におけるベンチマーク分析も行っています。

EcoVadisのCSR(社会的責任)評価

独立した外部機関であるEcoVadisは、各企業のグローバルな環境的・社会的パフォーマンスの評価やベンチマークを行っています。そのプロセスでは、環境、労働慣行および人権、公正な商慣行ならびに持続可能な調達問題に関する企業のポリシーや実施されたプロシージャー、公表されている各種報告書を評価します。150の業種区分と21のCSR基準から成るスコアカードをベースに、企業のロケーションや業種、事業規模が反映・カスタマイズされた設問が作成され、それに対する企業の回答内容を、EcoVadisのCSRの専門家が分析・評価します。EcoVadisの格付けには、公共的な資料およびステークホルダー(NGO、労働組合、報道機関)の情報も考慮されます。

NSGグループは、この評価ツールをCSRの現状把握だけではなく、今後の改善分野の理解・確認にも活用しています。NSGグループのCSRマネジメントの取り組みは、EcoVadisからブロンズ*2の評価を受けています。

金融機関からの評価

日本板硝子株式会社は、2018年において、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)の「DBJ環境格付」において「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高の格付けを取得しました。また、2021年には株式会社三井住友銀行の「ESG/SDGs評価コミットメントライン・シンジケーション」において最上位の評価を取得しました。詳しくは、プレスリリースをご覧ください。

三井住友銀行の「ESG/SDGs評価」に基づくコミットメントライン・シンジケーションで最上位評価の取得
(2021年11月25日付)

日本政策投資銀行の環境格付融資で最高の格付取得
(2018年10月1日付)

「スポーツエールカンパニー2026」認定

日本板硝子株式会社は、従業員の健康増進に向けたスポーツ活動の支援・推進に関する取り組みが評価され、スポーツ庁が実施する「スポーツエールカンパニー2026」に認定されました。「スポーツエールカンパニー」は、従業員のスポーツ実施率向上や健康増進を目的として、スポーツ活動を積極的に支援する企業・団体を認定する制度です。

当社では、事業所内トレーニングジムの設置や外部トレーニング施設との契約に加え、ウォーキングイベントや運動機能測定など、従業員が楽しみながら継続的に運動に取り組める環境づくりを推進しています。これらの取り組みが評価され、2026年に初めて認定を取得しました。

「スポーツエールカンパニー2026」に認定
(2026年2月5日付)



簡易運動機能測定会「バイタリティチャレンジ」の様子
(京都事業所)



事業所内トレーニングジム施設の様子
(舞鶴事業所)

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報
財務ハイライト
非財務ハイライト
▶ 外部からの評価
独立した第三者保証報告書
沿革

*1：CDPは、英国の慈善団体が管理する非政府組織（NGO）であり、投資家、企業、国家、地域、都市が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営しています。
*2：2026年7月30日に公開された最新のスコアカード（有効期限：2027年7月30日）に基づく

「LGBTフレンドリー宣言企業」認定の取得

当社は、性的マイノリティの方々が働きやすい職場環境の整備などに取り組む企業として、東京都総務局人権部より「LGBTフレンドリー宣言企業」（2025年8月6日付）に認定されました。また、2026年には人事制度を改定し、事実婚や同性婚を含む多様なパートナーシップを法律婚と同様に取り扱う制度を導入しました。

当社では、中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」で掲げる4つの「D」の一つ「Diverse Talent（多様な人材）」に基づき、フェーズシフトをもたらす真に多様で包括的なチームの実現を目指しています。今後も、誰もが自分らしく働き、ベストを尽くせる職場環境の醸成に継続して取り組んでまいります。



東京都より「LGBTフレンドリー宣言企業」に認定
（2025年9月12日付）

事実婚・同性婚などの多様なパートナーシップを人事制度の対象に拡大
（2026年8月5日付）

子育てサポート企業の認定取得

日本板硝子株式会社は、2015年12月4日に厚生労働省東京労局より次世代育成支援対策推進法に基づく「子育てサポート企業」に認定され、次世代認定マーク「くるみん」を取得しました。さらに、「くるみん」認定企業の内、高水準の取り組みを行う優良な企業として2019 12月5日には「プラチナくるみん」を取得しました。

当社はこれまで子育てを積極的に支援し、誰もがより働きやすい企業となるための取り組みを継続してきました。具体的には、育児ガイドブックの作成・配布による制度の周知と男性の育児休職取得奨励、育児休職の一部有給化、テレワークの全社導入、フレックスタイムの拡大、計画的年休取得についての面談、社員介護休職規程の改定といった、多様な働き方の促進によるワークライフバランスの改善を実現しています。また女性の活躍推進に向けた取り組みとして、女性ネットワーク構築、女性キャリアワークショップの開催、女性管理職候補へのメンタリング、管理職層への無意識バイアストレーニング、多様な働き方やキャリアを前提とした人事制度への見直し等を行っています。今後もダイバーシティ・エクイティ・インクルージョンを推進し、従業員一人ひとりが活躍できる企業を目指します。

詳しくは、プレスリリースをご覧ください。

子育てサポート企業として「プラチナくるみん」認定を取得
（2019年12月24日付）

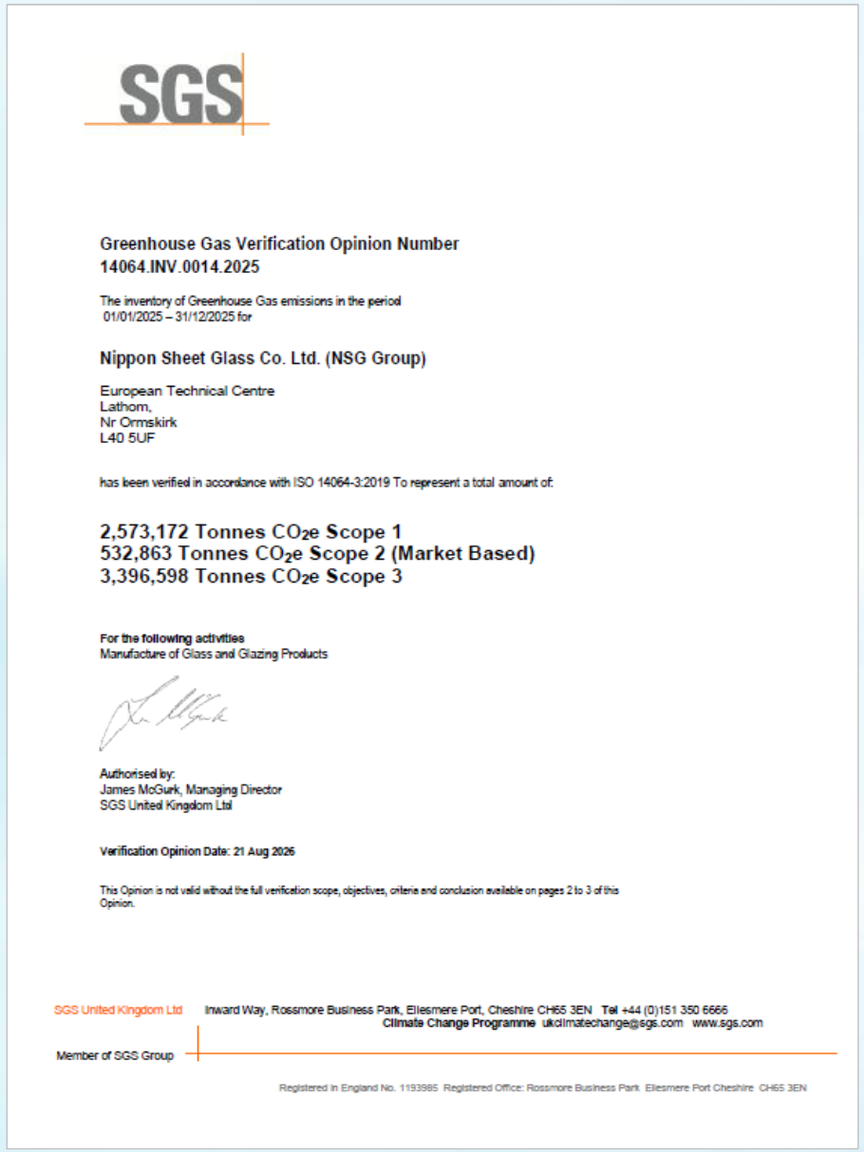
子育てサポート企業として認定マーク「くるみん」を取得
（2015年12月18日付）

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報
財務ハイライト
非財務ハイライト
▶ 外部からの評価
独立した
第三者保証報告書
沿革

独立した第三者保証報告書

NSGグループでは情報の客観性や正確性を高めるため、温室効果ガス排出量(スコープ1、スコープ2およびスコープ3)のデータについて、独立した第三者機関(SGS United Kingdom)によるISO14064-3：2019に準拠した保証を受けています。第三者保証報告書については当社ウェブサイトをご覧ください。

独立した第三者保証報告書 (nsg.co.jp)



SGS

Greenhouse Gas Verification Opinion Number
14064.INV.0014.2025

The inventory of Greenhouse Gas emissions in the period
01/01/2025 – 31/12/2025 for

Nippon Sheet Glass Co. Ltd. (NSG Group)

European Technical Centre
Lathom,
Nr Ormskirk
L40 5UF

has been verified in accordance with ISO 14064-3:2019 To represent a total amount of:

2,573,172 Tonnes CO_2e Scope 1
532,863 Tonnes CO_2e Scope 2 (Market Based)
3,396,598 Tonnes CO_2e Scope 3

For the following activities
Manufacture of Glass and Glazing Products

Authorised by:
James McGurk, Managing Director
SGS United Kingdom Ltd

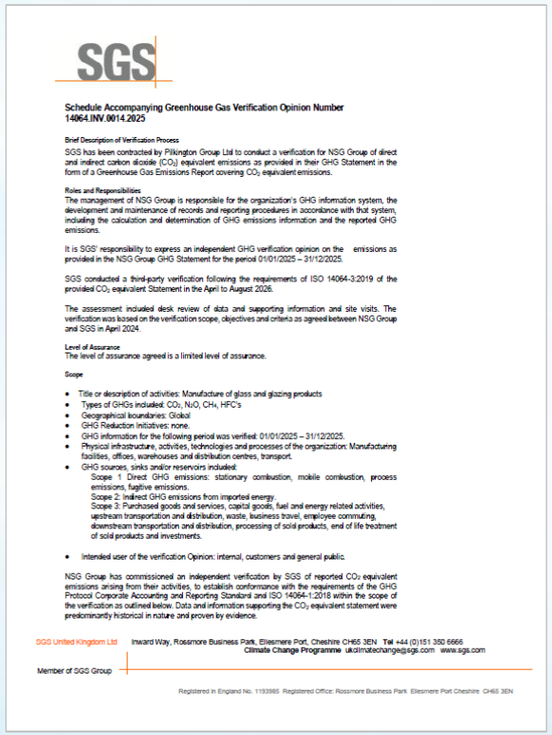
Verification Opinion Date: 21 Aug 2026

This Opinion is not valid without the full verification scope, objectives, criteria and conclusion available on pages 2 to 3 of this Opinion.

SGS United Kingdom Ltd Inward Way, Rossmore Business Park, Ellesmere Port, Cheshire CH65 3EN **Tel** +44 (0)151 350 6666
Climate Change Programme ukclimatechange@sgs.com www.sgs.com

Member of SGS Group

Registered in England No. 1193985 Registered Office: Rossmore Business Park Ellesmere Port Cheshire CH65 3EN



SGS

Schedule Accompanying Greenhouse Gas Verification Opinion Number
14064.INV.0014.2025

Brief Description of Verification Process
SGS has been contracted by Pilkington Group Ltd to conduct a verification for NSG Group of direct and indirect carbon dioxide (CO_2) equivalent emissions as provided in their GHG Statement in the form of a Greenhouse Gas Emissions Report covering CO_2 equivalent emissions.

Roles and Responsibilities
The management of NSG Group is responsible for the organization's GHG information system, the development and maintenance of records and reporting procedures in accordance with that system, including the calculation and determination of GHG emissions information and the reported GHG emissions.

It is SGS' responsibility to express an independent GHG verification opinion on the emissions as provided in the NSG Group GHG Statement for the period 01/01/2025 – 31/12/2025.

SGS conducted a third-party verification following the requirements of ISO 14064-3:2019 of the provided CO_2 equivalent Statement in the April to August 2026.

The assessment included desk review of data and supporting information and site visits. The verification was based on the verification scope, objectives and criteria as agreed between NSG Group and SGS in April 2024.

Level of Assurance
The level of assurance agreed is a limited level of assurance.

Scope

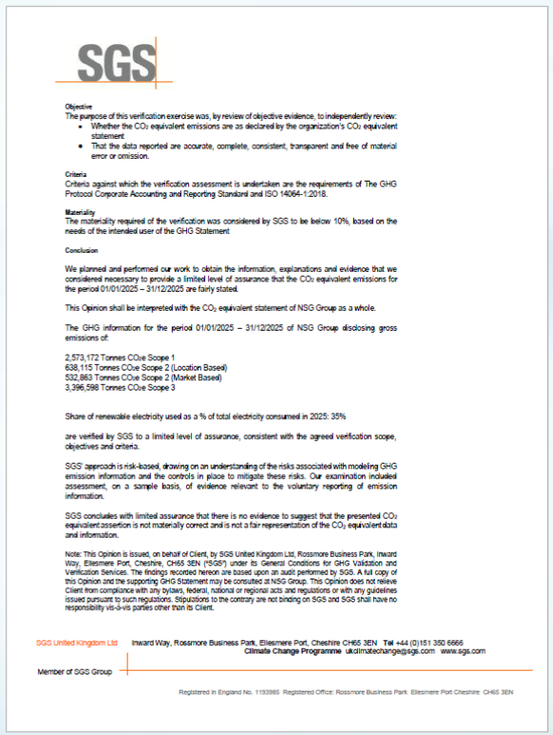
- Title or description of activities: Manufacture of glass and glazing products
- Types of GHGs included: CO_2, N_2O, CH_4, HFC's
- Geographical boundaries: Global
- GHG Reduction Initiatives: none.
- GHG information for the following period was verified: 01/01/2025 – 31/12/2025.
- Physical infrastructure, activities, technologies and processes of the organization: Manufacturing facilities, offices, warehouses and distribution centres, transport.
- GHG sources, sinks and/or reservoirs included:
  Scope 1: Direct GHG emissions: stationary combustion, mobile combustion, process emissions, fugitive emissions.
  Scope 2: Indirect GHG emissions from imported energy.
  Scope 3: Purchased goods and services, capital goods, fuel and energy related activities, upstream transportation and distribution, waste, business travel, employee commuting, downstream transportation and distribution, processing of sold products, end of life treatment of sold products and investments.
- Intended user of the verification Opinion: internal, customers and general public.

NSG Group has commissioned an independent verification by SGS of reported CO_2 equivalent emissions arising from their activities, to establish conformance with the requirements of the GHG Protocol Corporate Accounting and Reporting Standard and ISO 14064-1:2018 within the scope of the verification as outlined below. Data and information supporting the CO_2 equivalent statement were predominantly historical in nature and proven by evidence.

SGS United Kingdom Ltd Inward Way, Rossmore Business Park, Ellesmere Port, Cheshire CH65 3EN **Tel** +44 (0)151 350 6666
Climate Change Programme ukclimatechange@sgs.com www.sgs.com

Member of SGS Group

Registered in England No. 1193985 Registered Office: Rossmore Business Park Ellesmere Port Cheshire CH65 3EN



SGS

Objective
The purpose of this verification exercise was, by review of objective evidence, to independently review:

- Whether the CO_2 equivalent emissions are as declared by the organization's CO_2 equivalent statement
- That the data reported are accurate, complete, consistent, transparent and free of material error or omission.

Criteria
Criteria against which the verification assessment is undertaken are the requirements of The GHG Protocol Corporate Accounting and Reporting Standard and ISO 14064-1:2018.

Materiality
The materiality required of the verification was considered by SGS to be below 10%, based on the needs of the intended user of the GHG Statement

Conclusion

We planned and performed our work to obtain the information, explanations and evidence that we considered necessary to provide a limited level of assurance that the CO_2 equivalent emissions for the period 01/01/2025 – 31/12/2025 are fairly stated.

This Opinion shall be interpreted with the CO_2 equivalent statement of NSG Group as a whole.

The GHG information for the period 01/01/2025 – 31/12/2025 of NSG Group disclosing gross emissions of:

2,573,172 Tonnes CO_2e Scope 1
638,115 Tonnes CO_2e Scope 2 (Location Based)
532,863 Tonnes CO_2e Scope 2 (Market Based)
3,396,598 Tonnes CO_2e Scope 3

Share of renewable electricity used as a % of total electricity consumed in 2025: 35%

are verified by SGS to a limited level of assurance, consistent with the agreed verification scope, objectives and criteria.

SGS' approach is risk-based, drawing on an understanding of the risks associated with modeling GHG emission information and the controls in place to mitigate these risks. Our examination included assessment, on a sample basis, of evidence relevant to the voluntary reporting of emission information.

SGS concludes with limited assurance that there is no evidence to suggest that the presented CO_2 equivalent assertion is not materially correct and is not a fair representation of the CO_2 equivalent data and information.

Note: This Opinion is issued, on behalf of Client, by SGS United Kingdom Ltd, Rossmore Business Park, Inward Way, Ellesmere Port, Cheshire, CH65 3EN ("SGS") under its General Conditions for GHG Validation and Verification Services. The findings recorded herein are based upon an audit performed by SGS. A full copy of this Opinion and the supporting GHG Statement may be consulted at NSG Group. This Opinion does not relieve Client from compliance with any bylaws, federal, national or regional acts and regulations or with any guidelines issued pursuant to such regulations. Stipulations to the contrary are not binding on SGS and SGS shall have no responsibility vis-à-vis parties other than its Client.

SGS United Kingdom Ltd Inward Way, Rossmore Business Park, Ellesmere Port, Cheshire CH65 3EN **Tel** +44 (0)151 350 6666
Climate Change Programme ukclimatechange@sgs.com www.sgs.com

Member of SGS Group

Registered in England No. 1193985 Registered Office: Rossmore Business Park Ellesmere Port Cheshire CH65 3EN

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編
その他情報
財務ハイライト
非財務ハイライト
外部からの評価
独立した第三者保証報告書
沿革

沿革

1910年代 - 1940年代
創業期


建設中の二島工場 （福岡県）

1918年 日米板硝子株式会社を設立

1920年 二島工場を開設

1931年 社名を日本板硝子株式会社に変更

1936年 四日市工場の操業開始（現・四日市事業所）

1950年代 - 1960年代
事業拡大と フロート時代の到来


東洋初のフロート板ガラス最先端部

1950年 東京、大阪等の各証券取引所に株式上場

1952年 舞鶴工場を開設（現・舞鶴事業所）

1964年 千葉工場を開設（現・千葉事業所）

1965年 舞鶴工場にて東洋初となる
フロート板ガラスの生産を開始

1968年 研究所（現・技術研究所）を
兵庫県伊丹市に開設

SELFOC®開発


舞鶴事業所（京都府）

1970年代 - 1980年代
建築ガラス事業および 自動車ガラス事業のグローバル化

1970年 日本安全硝子株式会社を吸収合併し、
川崎工場および京都工場（現・京都事業所）を開設

1971年 マレーシアに合弁会社を設立し、本格的に海外進出

1975年 自動車用ガラスの合弁会社をメキシコに設立

1978年 超薄板ガラス（UFF:Ultra Fine Flat Glass）の
生産開始

1979年 硝子繊維製品の販売を開始

創立60周年を記念し財団法人（現・公益財団法人）
日本板硝子材料工学助成会を設立

1980年 川崎工場相模原製造所（現・相模原事業所）を開設

1986年 自動車用ガラスの合弁会社をアメリカに設立

新商品とニューテクノロジーにより 高機能ガラス事業の礎を築く


中核技術でありつづけるSELFOC®

1990年代 - 現在
グローバル化の推進と持続可能な社会への貢献



マレーシアの太陽電池パネル用ガラス製造設備

1990年 リビー・オーエンス・フォード社の株式の20%を取得

1995年 自動車用ガラスと高機能ガラス事業の
合弁会社を中国に、
建築用ガラスの合弁会社をベトナムに設立

1999年 日本硝子繊維株式会社を吸収合併し、
津事業所を設置

2000年 ピルキントン社（英国）に出資

2001年 ピルキントン社を持分法適用会社化

2004年 本店所在地を大阪から東京に移転

2006年 ピルキントン社を完全子会社化

2008年 委員会設置会社へ移行

2011年 IFRSの早期適用

ベトナムで太陽電池パネル用ガラス製造を開始

2018年 創立100周年

2020年 米国およびベトナムに、太陽電池パネル用ガラス
製造のためのフロートラインを新設

2022年 アルゼンチンで2基目となる
フロートガラス工場を開設・操業開始

2023年 マレーシアでガラス製造ラインを、
太陽電池パネル用ガラス製造設備に改修・操業開始

2024年 中期経営計画
「2030 Vision : Shift the Phase」を発表

2025年 米国の製造ラインを、太陽電池パネル用ガラス向けに
改修・操業開始

2026年 新生NSGグループに向けた抜本的施策を公表

東京証券取引所において上場廃止

目次
NSGグループ概要
ダイジェスト編
環境編
社会編
ガバナンス編

その他情報
財務ハイライト
非財務ハイライト
外部からの評価
独立した
第三者保証報告書
▶ 沿革